健康福祉学部

健康スポーツ栄養学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>ヒトが健康を維持・増進するために、運動が必要であることを生理学的に理解できるようになること、および運動を行ったときに生じる生理学的な急性の変化と、繰り返しによる適応的な変化について理解できるようになること、そして、運動生理学の基礎的な知識やエビデンスに基づいた運動・スポーツの実践ならびに指導できるようになることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>一般的な運動トレーニングやトップアスリートに起こる身体の変化を、筋骨格系、呼吸系、循環系、体液・体温調節系、代謝系などを通して理解できるように講義する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康・体力づくりの意義と運動の効用 (健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念) 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能、トップアスリートの肉体の神秘① 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化① (運動の発現、筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化② (筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード、神経系・反射系) まとめ①、人体神秘の巨大ネットワーク① 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③ (呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④ (循環器系、心拍出量) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤ (血液・体液調節、熱中症) まとめ②、トップアスリートの肉体の神秘② 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥ (血液・体液調節、体温調節、水分補給) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦ (内分泌系) 運動とエネルギー代謝 まとめ③、人体神秘の巨大ネットワーク② 			

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] 3回の理解度確認試験(30%×3)と提出物(10%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認試験を回収後、解答の解説を行います。 提出物は、webシステムで解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-4/アスリートにまつわる諸課題を見つけ、栄養学やスポーツ科学をもとに解決策を見出すことで、スポーツ・運動分野において貢献しようとしている。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:三訂 運動生理・栄養学 著者名:高松 薫 出版社名:建帛社 ISBN:9784767906904</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>ヒトが健康を維持・増進するために、運動が必要であることを生理学的に理解できるようになること、および運動を行ったときに生じる生理学的な急性の変化と、繰り返しによる適応的な変化について理解できるようになること、そして、運動生理学の基礎的な知識やエビデンスに基づいた運動・スポーツの実践ならびに指導できるようになることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>一般的な運動トレーニングやトップアスリートに起こる身体の変化を、筋骨格系、呼吸系、循環系、体液・体温調節系、代謝系などを通して理解できるように講義する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康・体力づくりの意義と運動の効用 (健康・体力の定義、栄養・運動・休養の概念) 運動に関わる骨格と筋肉の構造と機能、トップアスリートの肉体の神秘① 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化① (運動の発現、筋繊維タイプ、筋収縮のメカニズム) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化② (筋の収縮様式と筋力、筋収縮のスピード、神経系・反射系) まとめ①、人体神秘の巨大ネットワーク① 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化③ (呼吸器系、酸素負債、呼吸交換比) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化④ (循環器系、心拍出量) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑤ (血液・体液調節、熱中症) まとめ②、トップアスリートの肉体の神秘② 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑥ (血液・体液調節、体温調節、水分補給) 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化⑦ (内分泌系) 運動とエネルギー代謝 まとめ③、人体神秘の巨大ネットワーク② 			

科目名	運動生理学 I	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] 3回の理解度確認試験(30%×3)と提出物(10%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認試験を回収後、解答の解説を行います。 提出物は、webシステムで解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-4/アスリートにまつわる諸課題を見つけ、栄養学やスポーツ科学をもとに解決策を見出すことで、スポーツ・運動分野において貢献しようとしている。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:三訂 運動生理・栄養学 著者名:高松 薫 出版社名:建帛社 ISBN:9784767906904</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>運動生理学Ⅰを基に、健康増進や競技スポーツの現場において、理論的に系統づけられた運動やトレーニングの内容を理解し、指導や評価ができるようにする。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>競技成績にこだわるトップアスリートのみならず健康の維持を目的とする一般人においても、個々のトレーニング方法を誤ると期待できる成果を得ることはできない。そこで、日常の健康づくりから競技スポーツに必要な体力やスキルを高めることを目的とした科学的なトレーニング方法と指導のポイントについて解説する。また、競技スポーツの現場では、予想もできない環境条件の中でも運動を行わなければならない、特定条件下で安全に運動を行う方法についても解説を加える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と疲労回復、運動能力はどこまでのびるのか、各種動作のスキル(速く走る、重いものを持ち上げる、遠くへ跳ぶ)、トップアスリートの筋肉の使い方 2. 筋肉の科学①理論編1 3. 筋肉の科学②理論編2 4. 筋肉の科学③筋肥大、メカニカルストレス、筋肥大と栄養 5. まとめ①、トップアスリートのマラソン走法 6. マラソントレーニングと生理学的応答① 7. マラソントレーニングと生理学的応答② 8. マラソントレーニングと生理学的応答③ 9. まとめ②、トップアスリートの反応速度 10. 運動と呼吸、レジスタンス運動、体幹トレーニング 11. デイトレーニング、スポーツビジョントレーニング、心拍数トレーニング 12. 暑熱・寒冷環境下での運動に対する生体反応、サルコペニア 13. まとめ③ 			

科目名	運動生理学Ⅱ(環境生理学を含む)	後期	2単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] 3回の理解度確認試験(30%×3)と提出物(10%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認試験を回収後、解答の解説を行います。 提出物は、webシステムで解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	運動生理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>健康づくりや体力・運動能力の維持・向上を目的として、運動を生活に取り入れるときや運動トレーニングに応用する場合に必要な基礎知識、測定方法、評価手法を理解し、様々なスポーツに応用することができるようにする。測定結果を考察し、まとめる過程を通して創造的な研究を行う能力を養う。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>運動生理学実習では、健康づくりや運動トレーニングにおいてエビデンスに基づいた実践や指導ができるようにするために、種々の運動能力や体力についての測定を実施する。そして、運動によってからだに生じる生理学的な急性の変化と繰り返しによる適応的な変化を理解をさせる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習内容の予習復習(4時間程度)を通して、先行研究の分析とともに健康づくり、運動トレーニングに欠かすことができない内容を追求する態度を学修する。</p> <p>[授業計画]</p> <p>8班に分かれて、2～9の8項目の実験をローテーションで実施する。また、10～12について各班で健康づくりや運動トレーニングに応用できる課題を設定して、実験を行い、その分析結果をプレゼンテーションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動生理学実習のガイダンス 運動生理学を理解するのに必要な測定と評価の方法 2. 最大心拍数と最大酸素摂取量の測定 (トレッドミル)、体脂肪率・筋肉量の測定 3. 持久性運動からの疲労度評価と水分補給の影響(自転車エルゴメーター)、運動時の体表温度の測定 4. 骨密度の測定、ヘモグロビン濃度の測定、筋硬度の測定、関節可動域の測定、体力診断バッテリーテスト、重心動揺の測定、全身反応時間の測定 5. スラックライン、ストレッチ、体幹トレーニング、体の歪みと姿勢バランスのチェック 6. SAQ(ラダー)トレーニング、脚筋力の測定、ロコモ度テスト、敏捷性テスト 7. バランス評価トレーニングシステム(ASKPROJ.)を用いた身体機能の評価、 8. アクティマーカーを用いた身体活動量、運動量、歩行数の測定、FitBitによる生活・睡眠測定、10m歩行テスト、SST(3分間シャトルスタミナテスト) 9. ヨガ、トランポリンエクササイズ 10. グループ課題の計画 11. グループ課題の測定 12. 分析結果の文章および口頭でのプレゼンテーション 13. まとめ 			

科目名	運動生理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] 8項目のレポート(90%)、グループ課題(10%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ノート(レポート・グループ課題)は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポートとグループ課題</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	運動プログラム論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>栄養士と健康運動実践指導者の立場から、健康状態に応じた適切な食事摂取と効果的な運動のプログラムが作成できるようになる。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>成人から中高年齢者までの健康づくりと生活習慣病予防のための安全かつ効果的な運動プログラム(運動処方)作成の基礎およびエアロビック運動の理論を理解する。また、メディカルチェックや体力・運動能力測定、および栄養・エネルギーバランスを基にした適切な運動プログラムの作成方法を理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動不足の悪影響、運動処方の概説、健康診断、メディカルチェックの目的と実際 2. 体力測定・運動能力測定、日常身体活動量測定、運動負荷実験の実際と評価方法 3. 健康づくりと運動プログラムの基礎(プログラムの構成内容と日常生活に及ぼす効果、メタボリックシンドローム解消のための運動) 4. 健康づくりのための運動(トレーニングの原則、ウォーミングアップとクーリングダウン、エアロビック運動の基礎) 5. 運動プログラム作成の原則と実際① (運動強度の設定法:仕事率、METS、酸素摂取量、%HRmax、RPE及び運動時間と頻度) 6. 運動プログラム作成の原則と実際② (運動量とエネルギー消費との関係、エネルギー摂取量とエネルギー消費量との関係) 7. エアロビック運動とエネルギー供給源の関係 8. 有酸素性作業能力の評価指標としての最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値の意義と測定方法 9. マラソントレーニングプログラムの作成(基礎理論と有酸素性作業能力) 10. レジスタンスエクササイズの基本理論(運動強度、安全性の確認) 11. 生活習慣病に対する食事と運動療法(肥満、高血圧、糖尿病など) 12. 運動機能障害に対する運動療法、運動実践指導者取得のための運動プログラム論の解説 13. まとめ 			

科目名	運動プログラム論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] レポート(90%)と提出物(10%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは後日添削して返却します。 提出物は、回収後に解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポートと提出物</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	栄養学実験		前期	1 単位
サブタイトル			実験	
担当者	松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。</p> <p>[授業概要] 栄養学を学ぶにあたり、ヒトの個体レベルにおける栄養現象は、食品中の栄養成分が生体構成成分へと代謝される過程、さらに臓器間の連携を通じた体内での相互変換という連の栄養代謝全体として捉える必要がある。本実験では食事調整が体成分(肥満や痩せ)に与える影響やそのメカニズムを調べ、健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養の役割について理解を深めることを目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめる。 次回の内容、実験プロトコルを予習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(実験目的と内容の概要) 動物実験と飼育の基礎 実験動物飼育計画、動物飼育について(動物室利用者講習会) 解剖ービデオ又はデモンストレーション <p>I. 異なる摂食パターンが体組成、食事効率に及ぼす影響について</p> <ol style="list-style-type: none"> ラットの解剖ー臓器重量の測定及びサンプリング まとめとディスカッション <p>II. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について</p> <ol style="list-style-type: none"> 脂質代謝に及ぼす影響について①血清中のトリグリセライド、総コレステロールの定量 脂質代謝に及ぼす影響について②肝臓総脂質抽出 脂質代謝に及ぼす影響について③肝臓中のトリグリセライド、コレステロールの定量 たんぱく代謝に及ぼす影響について 肝臓及び血清中のタンパクの定量 糖質代謝に及ぼす影響について①血糖値の測定、肝臓中のグリコーゲンの定量 糖質代謝に及ぼす影響について②肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 実験のまとめ・ディスカッション 				

科目名	栄養学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] レポート(80%)、小テスト(20%)の総合点で評価。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは後日添削して返却します。小テストは、採点后解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート/小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループワーク</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学 著者名: 鈴木和春 鈴木孝子 梶田泰孝 出版社名: 第一出版 ISBN: 9784804114705</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	栄養学実験		前期	1 単位
サブタイトル			実験	
担当者	松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 食生活が生体成分に及ぼす影響について調べ、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解する。</p> <p>[授業概要] 栄養学を学ぶにあたり、ヒトの個体レベルにおける栄養現象は、食品中の栄養成分が生体構成成分へと代謝される過程、さらに臓器間の連携を通じた体内での相互変換という連の栄養代謝全体として捉える必要がある。本実験では食事調整が体成分(肥満や痩せ)に与える影響やそのメカニズムを調べ、健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養の役割について理解を深めることを目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容、実験結果を考察してレポートにまとめる。 次回の内容、実験プロトコルを予習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(実験目的と内容の概要) 動物実験と飼育の基礎 実験動物飼育計画、動物飼育について(動物室利用者講習会) 解剖ービデオ又はデモンストレーション <p>I. 異なる摂食パターンが体組成、食事効率に及ぼす影響について</p> <ol style="list-style-type: none"> ラットの解剖ー臓器重量の測定及びサンプリング まとめとディスカッション <p>II. 異なる摂食パターンでのラットの生体成分の変化について</p> <ol style="list-style-type: none"> 脂質代謝に及ぼす影響について①血清中のトリグリセライド、総コレステロールの定量 脂質代謝に及ぼす影響について②肝臓総脂質抽出 脂質代謝に及ぼす影響について③肝臓中のトリグリセライド、コレステロールの定量 たんぱく代謝に及ぼす影響について 肝臓及び血清中のタンパクの定量 糖質代謝に及ぼす影響について①血糖値の測定、肝臓中のグリコーゲンの定量 糖質代謝に及ぼす影響について②肝臓酵素グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 実験のまとめ・ディスカッション 				

科目名	栄養学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] レポート(80%)、小テスト(20%)の総合点で評価。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは後日添削して返却します。小テストは、採点后解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート/小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループワーク</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する。

[授業概要]

摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路や、エネルギーへの変換に至る代謝の過程を学び、人の総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路については、栄養素の体内での相互変換を理解し、一連の代謝過程を体系的に把握する。また、栄養学の基本理念とその意義を理解することにより、健康の保持・増進、ならびに疾病の予防・治療における栄養の役割について解説する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習で2時間程度次回の教科書を予習し、ノートをまとめておく。復習で2時間程度前回のノート・教科書を見直す。

[授業計画]

1. 栄養の定義、食事摂取基準
2. 食物の摂取:空腹感/満腹感/日内リズム
3. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の栄養と代謝
4. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の消化と吸収
5. 栄養素の構造と機能:糖質の栄養と代謝
6. 栄養素の構造と機能:糖質の消化と吸収
7. 栄養素の構造と機能:脂質の栄養と代謝
8. 栄養素の構造と機能:脂質の消化と吸収
9. 栄養素の構造と機能:水溶性ビタミン
10. 栄養素の構造と機能:脂溶性ビタミン
11. 栄養素の構造と機能:ミネラル
12. エネルギー代謝
13. 試験・解説

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 小テスト(40%)試験(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験実施後、解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:小テスト/試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:小テスト/試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表態度</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学 著者名:鈴木和春 鈴木孝子 梶田泰孝 出版社名:第一出版 ISBN:9784804114705</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 栄養素の基本概念と、体内での役割、代謝過程が統括的に理解できるよう学習する。</p> <p>[授業概要] 摂取した食品の栄養素が体の構成成分となる経路や、エネルギーへの変換に至る代謝の過程を学び、人の総体レベルで栄養現象を理解する。エネルギー代謝および栄養素の中間代謝経路については、栄養素の体内での相互変換を理解し、一連の代謝過程を体系的に把握する。また、栄養学の基本理念とその意義を理解することにより、健康の保持・増進、ならびに疾病の予防・治療における栄養の役割について解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習で2時間程度次回の教科書を予習し、ノートをまとめておく。復習で2時間程度前回のノート・教科書を見直す。</p> <p>[授業計画] 1. 栄養の定義、食事摂取基準 2. 食物の摂取:空腹感/満腹感/日内リズム 3. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の栄養と代謝 4. 栄養素の構造と機能:たんぱく質の消化と吸収 5. 栄養素の構造と機能:糖質の栄養と代謝 6. 栄養素の構造と機能:糖質の消化と吸収 7. 栄養素の構造と機能:脂質の栄養と代謝 8. 栄養素の構造と機能:脂質の消化と吸収 9. 栄養素の構造と機能:水溶性ビタミン 10. 栄養素の構造と機能:脂溶性ビタミン 11. 栄養素の構造と機能:ミネラル 12. エネルギー代謝 13. 試験・解説</p>			

科目名	栄養学総論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養素の役割と機能	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 小テスト(40%)試験(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験実施後、解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:小テスト/試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:小テスト/試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表態度</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学 著者名:鈴木和春 鈴木孝子 梶田泰孝 出版社名:第一出版 ISBN:9784804114705</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内・外のヘルスプロモーションについて学び、健康づくり戦略について理解する。 2. 行動科学の理論とモデルを理解する。 3. 栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を修得する。 <p>[授業概要]</p> <p>栄養教育とは、指導対象者の行動変容を促し、その実践を通じて健康の維持・増進や疾病の予防・改善を目指すものである。本講義では、生活習慣病外来で栄養指導を担当する教員が、食行動を行動科学の視点から捉えた行動変容技法について解説する。また、ライフスタイルに応じた健康行動を促進するためのカウンセリングや動機付けの手法について、具体的な事例を交えながら講義を進める。</p> <p>さらに、国内外の健康施策について学び、地域住民の健康向上につながるヘルスプロモーションの方法について理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>専門用語を多く学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教育の意義とその目的、健康施策について 2. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等 3. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激-反応理論等 4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング、カウンセリングの基礎的技法 5. 栄養カウンセリング② 認知行動療法 6. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化、認知再構成、刺激統制法等 7. 行動変容技法と概念② 自己効力感、セルフモニタリング、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ等 8. 栄養教育計画と理論と実施に関する理論と概念 プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング等 9. 栄養アセスメントの種類と方法 アセスメントの種類、食事調査について 10. 栄養教育の目標設定、計画立案、効果の評価について 11. ライフステージ別の栄養教育の展開① 妊娠・授乳期、乳幼児期 12. ライフステージ別の栄養教育の展開② 学童期・思春期・成人期 13. ライフステージ別の栄養教育の展開③ 高齢期 14. 試験 			

科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験は、採点后解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-3/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツ・運動指導に必要な指導力を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題解決に向けた方策に対する判断力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/多様性を理解し、個々の状況に応じた食や栄養、運動・スポーツ・教育のサポートが出来る能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループワーク</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第5巻 人間の行動変容に関する基本 効果的な栄養教育のための理論とモデル 著者名:日本栄養改善学会 出版社名:医歯薬出版 ISBN:9784263720325 書籍名:管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第9巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践 著者名:日本栄養改善学会 出版社名:医歯薬出版 ISBN:9784263720363</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内・外のヘルスプロモーションについて学び、健康づくり戦略について理解する。 2. 行動科学の理論とモデルを理解する。 3. 栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を修得する。 <p>[授業概要]</p> <p>栄養教育とは、指導対象者の行動変容を促し、その実践を通じて健康の維持・増進や疾病の予防・改善を目指すものである。本講義では、生活習慣病外来で栄養指導を担当する教員が、食行動を行動科学の視点から捉えた行動変容技法について解説する。また、ライフスタイルに応じた健康行動を促進するためのカウンセリングや動機付けの手法について、具体的な事例を交えながら講義を進める。</p> <p>さらに、国内外の健康施策について学び、地域住民の健康向上につながるヘルスプロモーションの方法について理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>専門用語を多く学びます。新しく学んだ事を各自理解できるまで復習してください。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教育の意義とその目的、健康施策について 2. 行動科学の理論とモデル① ヘルスビリーフモデル、トランスセオレティカルモデル等 3. 行動科学の理論とモデル② 計画的行動理論、刺激-反応理論等 4. 栄養カウンセリング① 行動カウンセリング、カウンセリングの基礎的技法 5. 栄養カウンセリング② 認知行動療法 6. 行動変容技法と概念① 行動置換、オペラント強化、認知再構成、刺激統制法等 7. 行動変容技法と概念② 自己効力感、セルフモニタリング、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ等 8. 栄養教育計画と理論と実施に関する理論と概念 プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング等 9. 栄養アセスメントの種類と方法 アセスメントの種類、食事調査について 10. 栄養教育の目標設定、計画立案、効果の評価について 11. ライフステージ別の栄養教育の展開① 妊娠・授乳期、乳幼児期 12. ライフステージ別の栄養教育の展開② 学童期・思春期・成人期 13. ライフステージ別の栄養教育の展開③ 高齢期 14. 試験 			

科目名	栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教育・指導入門	講義	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)、レポート(20%)レポートは、添削後返却します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験は、採点后解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-3/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツ・運動指導に必要な指導力を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題解決に向けた方策に対する判断力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/多様性を理解し、個々の状況に応じた食や栄養、運動・スポーツ・教育のサポートが出来る能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループワーク</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第5巻 人間の行動変容に関する基本 効果的な栄養教育のための理論とモデル 著者名:日本栄養改善学会 出版社名:医歯薬出版 ISBN:9784263720325 書籍名:管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第9巻 栄養教育論 多様な場での展開と実践 著者名:日本栄養改善学会 出版社名:医歯薬出版 ISBN:9784263720363</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	栄養教育論実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を適切にアセスメントする事ができる 2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、理論的に段取りよく進めることができる 3. 対象者に合った栄養教育を実施し、その効果を評価する事ができる <p>[授業概要]</p> <p>グループ学習を中心とします。本実習では、幼児や学童を対象とした集団に対する栄養教育と成人や高齢者を対象とした個人栄養教育を演習します。診療所で非常勤管理栄養士として勤務する管理栄養士が授業を担当します。実際に栄養教育の場面を設定し、ロールプレイング法での演習を実施します。演習を通して、栄養教育実践力のみならず、コミュニケーション能力、カウンセリングスキルの向上を目指します。</p> <p>幼児や学童を対象とした集団栄養指導では、保育園や小学校で勤務する栄養教諭を特別学外講師として招き(第7回授業)、受講者が計画、実施した栄養教育プログラムについて評価、助言を得て、より効果の高いプログラムへ改善します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>栄養教育の実践の為に、資料の準備や、授業時間外でのグループワーク等も必要になります。期限までに仕上げる事ができるよう、計画的に事前準備に取り組んでください。</p> <p>各回、予習復習を合わせ2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、ライフステージ別の栄養教育について 2.演習1 集団指導:幼児期、学童期 アセスメント、課題抽出 3.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案① 目的 4.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案② 計画 5.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成① 6.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成② 7.演習1 集団指導:幼児期、学童期 実施と効果の評価(特別学外講師) 8.演習2 個人指導:成人期、高齢期 アセスメント、課題抽出、計画立案① 目標 9.演習2 個人指導:成人期、高齢期 計画立案② 計画 10.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成① 計画 11.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成② 作成 12.演習2 個人指導:成人期、高齢期 実施と効果の評価① 13.演習2 個人指導:成人期、高齢期 まとめ 				

科目名	栄養教育論実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 指導媒体等の成果物(30%)、レポート(20%)プレゼンテーション(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 成果物、レポートについては、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーション/ルブリックにて評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:プレゼンテーション/ルブリックにて評価</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:成果物</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	栄養教育論実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を適切にアセスメントする事ができる 2. 対象者に合った準備(媒体作成等)を、理論的に段取りよく進めることができる 3. 対象者に合った栄養教育を実施し、その効果を評価する事ができる <p>[授業概要]</p> <p>グループ学習を中心とします。本実習では、幼児や学童を対象とした集団に対する栄養教育と成人や高齢者を対象とした個人栄養教育を演習します。診療所で非常勤管理栄養士として勤務する管理栄養士が授業を担当します。実際に栄養教育の場面を設定し、ロールプレイング法での演習を実施します。演習を通して、栄養教育実践力のみならず、コミュニケーション能力、カウンセリングスキルの向上を目指します。</p> <p>幼児や学童を対象とした集団栄養指導では、保育園や小学校で勤務する栄養教諭を特別学外講師として招き(第7回授業)、受講者が計画、実施した栄養教育プログラムについて評価、助言を得て、より効果の高いプログラムへ改善します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>栄養教育の実践の為に、資料の準備や、授業時間外でのグループワーク等も必要になります。期限までに仕上げる事ができるよう、計画的に事前準備に取り組んでください。</p> <p>各回、予習復習を合わせ2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、ライフステージ別の栄養教育について 2.演習1 集団指導:幼児期、学童期 アセスメント、課題抽出 3.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案① 目的 4.演習1 集団指導:幼児期、学童期 計画立案② 計画 5.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成① 6.演習1 集団指導:幼児期、学童期 教育媒体の作成② 7.演習1 集団指導:幼児期、学童期 実施と効果の評価(特別学外講師) 8.演習2 個人指導:成人期、高齢期 アセスメント、課題抽出、計画立案① 目標 9.演習2 個人指導:成人期、高齢期 計画立案② 計画 10.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成① 計画 11.演習2 個人指導:成人期、高齢期 教育媒体の作成② 作成 12.演習2 個人指導:成人期、高齢期 実施と効果の評価① 13.演習2 個人指導:成人期、高齢期 まとめ 				

科目名	栄養教育論実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 指導媒体等の成果物(30%)、レポート(20%)プレゼンテーション(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 成果物、レポートについては、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーション/ルブリックにて評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:プレゼンテーション/ルブリックにて評価</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:成果物</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 病気やケガにより人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命手当の方法、また、誤嚥/気道異物による気道閉塞、けいれん、熱中症、傷、骨折、熱傷や水の事故などにおける応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようになる。</p> <p>[授業概要] 日常的に必要とされる可能性のある応急手当[搬送方法、心肺蘇生法、自動体外式除細動器の使用、気道異物除去、止血、傷の手当、包帯の巻き方やテーピングなど]について、医師免許を有する教員が、実習形式で教授するとともに、応急手当を行うのに必須の基礎的知識を講義形式で教授する。一次救命処置、スポーツ現場での応急処置、創傷処置、テーピングなど、実践に結びつく実習指導が必要な項目については、学外特別講師の招聘を予定している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予め、学習する内容などが示されるので、学生は、予習学習して講義に臨み、実習にしっかりと取り組むこと。各回、予習・復習を合わせて2時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画] 01. オリエンテーション 生とは死とは 突然死とは 救命の連鎖 10/2(木)2限 02. 一次救命処置とは 心臓の構造と働き、肺の構造と働き 10/9(木)2限 03. 突然死・突然の心停止を起こす主な疾病・事故 10/16(木)2限 04. スポーツ現場での応急処置総論(軟部組織損傷と組織修復 その対応)[学外特別講師・斎藤]10/23(木)2限 05. 一次救命処置実技(心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用)①[学外特別講師・斎藤] 10/30(木)1限 06. 一次救命処置実技(心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用)②[学外特別講師・斎藤] 10/30(木)2限 <11/6(木)2限休講> 07. 一次救命処置(気道異物の除去法)&回復体位の取り方&呼吸・意識・脈拍のみかた他 11/13(木)2限 08. 傷病者の運び方&救急車の呼び方&創傷処置・包帯の巻き方・アイシング他①[学外特別講師・斎藤]11/20(木)1限 09. 傷病者の運び方&救急車の呼び方&創傷処置・包帯の巻き方・アイシング他②[学外特別講師・斎藤]11/20(木)2限 <11/27(木)2限休講> 10. ファーストエイドが必要な外傷・疾病 12/4(木)2限 11. 包帯の巻き方・テーピングの方法① [学外特別講師・斎藤]12/11(木)1限 12. 包帯の巻き方・テーピングの方法② [学外特別講師・斎藤]12/11(木)2限 <12/18(木)2限休講> 13. 三角巾の使い方 他 試験 1/8(木)2限</p> <p>★ 05 & 06、08 & 09、11 & 12 の授業は、木曜日1、2限に連続で行う予定です。<翌週の木2限が休講となります。> ★ 学外特別講師の予定によって、また、授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。</p>			

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)により評価する。
再試験は、原則、行わない。
再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

予習内容について、講義中に設問を出したり、発表を促したりしながら、講義中に解説する。
確認問題、復習問題を課した場合は、次回の講義中に解説する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

[教科書(ISBN)]

書籍名:改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編 著者名:日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 出版社名:へるす出版 ISBN:9784867190265

[参考書(ISBN)]

書籍名:【令和版】基礎から学ぶ!スポーツ救急医学 著者名:興水健治/著 出版社名:ベースボール・マガジン社 ISBN:9784583112794

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

病気やケガにより人が突然に意識障害や心肺停止になったときや、大出血により生命の危機に陥ったときの救命手当の方法、また、誤嚥/気道異物による気道閉塞、けいれん、熱中症、傷、骨折、熱傷や水の事故などにおける応急手当について、その基本を理解し、実際に実施できるようになる。

[授業概要]

日常的に必要とされる可能性のある応急手当[搬送方法、心肺蘇生法、自動体外式除細動器の使用、気道異物除去、止血、傷の手当、包帯の巻き方やテーピングなど]について、医師免許を有する教員が、実習形式で教授するとともに、応急手当を行うのに必須の基礎的知識を講義形式で教授する。一次救命処置、スポーツ現場での応急処置、創傷処置、テーピングなど、実践に結びつく実習指導が必要な項目については、学外特別講師の招聘を予定している。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

予め、学習する内容などが示されるので、学生は、予習学習して講義に臨み、実習にしっかりと取り組むこと。各回、予習・復習を合わせて2時間程度必要とする。

[授業計画]

01. オリエンテーション

生とは死とは 突然死とは 救命の連鎖 10/2(木)3限

02. 一次救命処置とは 心臓の構造と働き、肺の構造と働き 10/9(木)3限

03. 突然死・突然の心停止を起こす主な疾病・事故 10/16(木)3限

04. スポーツ現場での応急処置総論(軟部組織損傷と組織修復 その対応)[学外特別講師・斎藤]10/23(木)3限

05. 一次救命処置実技(心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用)①[学外特別講師・斎藤] 11/6(木)3限

06. 一次救命処置実技(心肺蘇生法と自動体外式除細動器の使用)②[学外特別講師・斎藤] 11/6(木)4限 <10/30(木)3限休講>

07. 一次救命処置(気道異物の除去法)&回復体位の取り方&呼吸・意識・脈拍のみかた他 11/13(木)3限

08. 傷病者の運び方&救急車の呼び方&創傷処置・包帯の巻き方・アイシング他①[学外特別講師・斎藤]11/27(木)3限

09. 傷病者の運び方&救急車の呼び方&創傷処置・包帯の巻き方・アイシング他②[学外特別講師・斎藤]11/27(木)4限 <11/20(木)3限休講>

10. ファーストエイドが必要な外傷・疾病 12/4(木)3限

11. 包帯の巻き方・テーピングの方法① [学外特別講師・斎藤]12/18(木)3限

12. 包帯の巻き方・テーピングの方法② [学外特別講師・斎藤]12/18(木)4限 <12/11(木)3限休講>

13. 三角巾の使い方 他 試験 1/8(木)3限

★ 05 & 06、08 & 09、11 & 12 の授業は、木曜日3、4限に連続で行う予定です;前週の木3限が休講となります。

★ 学外特別講師の予定によって、また、授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。

科目名	応急手当実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)により評価する。
再試験は、原則、行わない。
再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

予習内容について、講義中に設問を出したり、発表を促したりしながら、講義中に解説する。
確認問題、復習問題を課した場合は、次回の講義中に解説する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 実習への取組み姿勢と実技(50%)・試験(50%)

[教科書(ISBN)]

書籍名:改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編 著者名:日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 出版社名:へるす出版 ISBN:9784867190265

[参考書(ISBN)]

書籍名:【令和版】基礎から学ぶ!スポーツ救急医学 著者名:興水健治/著 出版社名:ベースボール・マガジン社 ISBN:9784583112794

科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康の維持・増進を目指すための栄養ケア・マネジメントの方法や食事摂取基準の基礎を理解している。 2. 人々の健康の維持・増進を目指すために必要な、各ライフステージの生理的特徴を理解している。 3. 各ライフステージに合わせた栄養アセスメントと栄養ケアの方法を理解している。 <p>[授業概要]</p> <p>ライフステージに合わせた健康の維持・増進、QOLの向上を目指すために、まず栄養ケア・マネジメントの方法や食事摂取基準について学びます。次に、各ライフステージの生理的特徴等を学び、個々のライフステージに合わせた栄養アセスメントと栄養ケアを実践するための知識を修得します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業後の自己学習(復習)を十分に行ってください(4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養ケア・マネジメント、食事摂取基準の基礎1 2. 食事摂取基準の基礎2 3. 成長,発達,加齢 4. 妊娠期,授乳期_1 5. 妊娠期,授乳期_2 6. 新生児期、乳児期 7. 幼児期 8. 学童期・思春期 9. 成人期(生活習慣病等の誘因となる食生活を含む) 10. 高齢期_1 11. 高齢期_2 12. 運動・スポーツと栄養 13. 環境と栄養 <p>※定期試験あり</p>			

科目名	応用栄養学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] 試験60%、小テスト30%、授業への取組10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業の際に小テストの解説を行います</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業への取組</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験、小テスト</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: 応用栄養学 第3版 著者名: 栢下 淳 出版社名: 羊土社 ISBN: 9784758113793</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	中村 智英子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①ライフステージ別に必要な栄養量を理解することができる。 ②ライフステージ別に適した食品を利用して調理を実践し技術を習得できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ライフステージ別に生理的・身体的特徴をふまえ、適切な栄養量を理解し、それぞれに適した食品を利用して調理方法や特徴をつかむため乳児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期に適した各献立の実習を行う。 実習後はレポートを作成し提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前期の応用栄養学の授業内容を復習しておいてください。 実習内容についてはシラバスを参考に予習してください。 実習レポート等は速やかに提出してください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・栄養マネジメントの概要 2. 乳児期の栄養(調乳・果汁 実習) 3. 乳幼児の栄養(離乳食5,6か月、離乳食9～11か月頃献立実習) 4. 幼児期・学童期・思春期の栄養 5. 幼児期の栄養(1～2歳児献立実習) 6. 幼児期の栄養(3～5歳児献立実習) 7. 学童期の栄養(10～11歳児献立実習) 9. 成人期の栄養(成人期献立実習) 10. 更年期・高齢期の栄養、ライフスタイルと栄養 11. 高齢期の栄養(高齢者献立実習) 12. スポーツ栄養(スポーツ栄養献立実習) 13. ライフステージ別についての復習 			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	中村 智英子		
<p>[成績評価方法] レポート(60%)、提出物(30%)、小テスト(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・レポートは、後日添削を行い返却します。 ・小テストは、答案用紙回収後、解答の解説をします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 新編 応用栄養学実習 第3版 著者名: 長浜幸子 出版社名: 学建書院 ISBN: 9784762428838</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	中村 智英子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①ライフステージ別に必要な栄養量を理解することができる。 ②ライフステージ別に適した食品を利用して調理を実践し技術を習得できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ライフステージ別に生理的・身体的特徴をふまえ、適切な栄養量を理解し、それぞれに適した食品を利用して調理方法や特徴をつかむため乳児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期に適した各献立の実習を行う。 実習後はレポートを作成し提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の授業についての予習復習を合わせて2時間程度。 前期の応用栄養学の授業内容を復習しておいてください。 実習内容についてはシラバスを参考に予習してください。 実習レポート等は速やかに提出してください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・栄養マネジメントの概要 2. 乳児期の栄養(調乳・果汁 実習) 3. 乳幼児の栄養(離乳食5,6か月、離乳食9～11か月頃献立実習) 4. 幼児期・学童期・思春期の栄養 5. 幼児期の栄養(1～2歳児献立実習) 6. 幼児期の栄養(3～5歳児献立実習) 7. 学童期の栄養(10～11歳児献立実習) 9. 成人期の栄養(成人期献立実習) 10. 更年期・高齢期の栄養、ライフスタイルと栄養 11. 高齢期の栄養(高齢者献立実習) 12. スポーツ栄養(スポーツ栄養献立実習) 13. ライフステージ別についての復習 			

科目名	応用栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	中村 智英子		
<p>[成績評価方法] レポート(60%)、提出物(30%)、小テスト(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・レポートは、後日添削を行い返却します。 ・小テストは、答案用紙回収後、解答の解説をします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、提出物、小テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 新編 応用栄養学実習 第3版 著者名: 長浜幸子 出版社名: 学建書院 ISBN: 9784762428838</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] これまでに学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、衛生面に常に留意しながら、時間内に調理し、再現できる。</p> <p>[授業概要] 基礎調理学実習で習得した基本的調理操作と知識をもとに、応用的な調理操作と技術を盛り込んだ日本料理、西洋料理、中国料理を実習することで、より高度な調理技術の向上と調理理論の習得を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に配布プリントを熟読し、調理手順を組み立て、計画しておいてください。 衛生面について十分な準備をして実習に臨んでください。 事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出してください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 第3、4、5回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容) 3. 日本料理① 4. 西洋料理① 5. 日本料理② 6. 第7、8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容) 7. 中国料理① 8. 日本料理③ 9. 中国料理② 10. 第11、12回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容) 11. 日本料理④ 12. 西洋料理② 13. 講義 まとめ</p>			

科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:プリント配布 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>これまでに学んだ調理理論に関する知識と技術を活かし、衛生面に常に留意しながら、時間内に調理し、再現できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>基礎調理学実習で習得した基本的調理操作と知識をもとに、応用的な調理操作と技術を盛り込んだ日本料理、西洋料理、中国料理を実習することで、より高度な調理技術の向上と調理理論の習得を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前に配布プリントを熟読し、調理手順を組み立て、計画しておいてください。 衛生面について十分な準備をして実習に臨んでください。 事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出してください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第3、4、5回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容) 3. 日本料理① 4. 西洋料理① 5. 日本料理② 6. 第7、8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容) 7. 中国料理① 8. 日本料理③ 9. 中国料理② 10. 第11、12回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容) 11. 日本料理④ 12. 西洋料理② 13. 講義 まとめ 			

科目名	応用調理学実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:プリント配布 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①調理に関する知識や基礎技術にもとづき、専門性の高い調理技術を修得している。 ②テーマに合わせて、盛り付け等を含む総合的な献立の立案力および実践力を有している。</p> <p>[授業概要]</p> <p>応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、調理理論の修得と調理技術の向上を図ります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>配布プリントを予習し、具体的な手順をシュミレーションして実習に臨んでください。 実習前の衛生面等についても十分な準備をしてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、グループ献立1の計画 2. 西洋料理:魚のナゲットほか 3. 日本料理:蒸し寿司ほか 4. 日本料理:ふくさ卵ほか 5. グループ献立1:調理実習 6. グループ献立2,3:計画 7. 中国料理:中華ちまきほか 8. 西洋料理:ミートローフほか 9. グループ献立2:調理実習 10. 日本料理:松風焼きほか 11. グループ献立3:調理実習 12. 日本料理:煮しめほか 13. 西洋料理:チャウダーほか 			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] レポート40%、成果物20%、授業への取組40% * 成果物には調理技術および出来上がり料理を含みます</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは必要に応じて授業の際に全体へのコメント等でフィードバックします。 成果物に対しては、そのつどグループまたは全体に対してコメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 責任感/ 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①調理に関する知識や基礎技術にもとづき、専門性の高い調理技術を修得している。 ②テーマに合わせて、盛り付け等を含む総合的な献立の立案力および実践力を有している。</p> <p>[授業概要]</p> <p>応用調理学実習Ⅰの内容に応用的な調理方法を加えた日本料理、西洋料理、中国料理などを実習し、調理理論の修得と調理技術の向上を図ります。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>配布プリントを予習し、具体的な手順をシュミレーションして実習に臨んでください。 実習前の衛生面等についても十分な準備をしてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、グループ献立1の計画 2. 西洋料理:魚のナゲットほか 3. 日本料理:蒸し寿司ほか 4. 日本料理:ふくさ卵ほか 5. グループ献立1:調理実習 6. グループ献立2,3:計画 7. 中国料理:中華ちまきほか 8. 西洋料理:ミートローフほか 9. グループ献立2:調理実習 10. 日本料理:松風焼きほか 11. グループ献立3:調理実習 12. 日本料理:煮しめほか 13. 西洋料理:チャウダーほか 			

科目名	応用調理学実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] レポート40%、成果物20%、授業への取組40% * 成果物には調理技術および出来上がり料理を含みます</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは必要に応じて授業の際に全体へのコメント等でフィードバックします。 成果物に対しては、そのつどグループまたは全体に対してコメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、成果物</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 責任感/ 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 成果物、授業への取組</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常or反転授業+説明解答型+ディスカッションorグループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「からだの仕組みと働き」について基礎的知識を身につけることを目標とし、消化器系、循環器系、呼吸器系、血液・リンパ・凝固系、免疫系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系、神経系、運動器系の各器官・組織のしくみとはたらきについて説明できるようになる。</p> <p>[授業概要] 人体の解剖・人体の生理に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組む、講義を聞いて、正解を見つけるなどとする。予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読み、予習学習して講義に臨むものとする。講義中には、適時、質問したり・されたり、ディスカッションしたりする機会が与えられるので、全員参加型で授業を進める。このようにして、学生は、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学習を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・基盤となる「健康医学入門」の知識を確認しておくこと。 ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。 ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。</p> <p>[授業計画] 01. はじめに ヒトの体の全体像 10/1 02. 消化器(消化管と肝臓・胆嚢・膵臓) 10/8 03. 消化器における栄養素の吸収 10/15 04. 呼吸器 10/22 05. 循環器 10/29 06. 血液・体液・血球 11/12 07. 凝固系と免疫系 11/19 08. 腎・泌尿器(泌尿器系) 11/26 09. 内分泌器 12/3 10. 生殖器 12/10 11. 神経系(中枢神経系) 12/17 12. 神経系(末梢神経系) 12/24 13. 運動器 補足とまとめ 1/7 (授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりすることがあります。)</p>			

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。
課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[教科書(ISBN)]

書籍名:人体の構造と機能および疾病の成り立ち I . 解剖生理学 著者名:福島光夫 出版社名:中山書店 ISBN:9784521742847

書籍名:解剖生理学 からだの構造と働きがひと目でわかる 著者名:林洋/監修 出版社名:じほう ISBN:9784840745888

[参考書(ISBN)]

書籍名:解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 著者名:志村二三夫 出版社名:羊土社 ISBN:9784758113625

書籍名:解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 著者名:志村二三夫 出版社名:羊土社 ISBN:

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常or反転授業+説明解答型+ディスカッションorグループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「からだの仕組みと働き」について基礎的知識を身につけることを目標とし、消化器系、循環器系、呼吸器系、血液・リンパ・凝固系、免疫系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系、神経系、運動器系の各器官・組織のしくみとはたらきについて説明できるようになる。

[授業概要]

人体の解剖・人体の生理に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組む、講義を聞いて、正解を見つけるなどする。予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読み、予習学習して講義に臨むものとする。講義中には、適時、質問したり・されたり、ディスカッションしたりする機会が与えられるので、全員参加型で授業を進める。このようにして、学生は、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学習を進める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・基盤となる「健康医学入門」の知識を確認しておくこと。
- ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。
- ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。

[授業計画]

01. はじめに ヒトの体の全体像 10/1
02. 消化器(消化管と肝臓・胆嚢・膵臓) 10/8
03. 消化器における栄養素の吸収 10/15
04. 呼吸器 10/22
05. 循環器 10/29
06. 血液・体液・血球 11/12
07. 凝固系と免疫系 11/19
08. 腎・泌尿器(泌尿器系) 11/26
09. 内分泌器 12/3
10. 生殖器 12/10
11. 神経系(中枢神経系) 12/17
12. 神経系(末梢神経系) 12/24
13. 運動器 補足とまとめ 1/7

(授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりすることがあります。)

科目名	解剖生理学	後期	2 単位
サブタイトル	からだの仕組みと働き	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。
課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[教科書(ISBN)]

書籍名:人体の構造と機能および疾病の成り立ち I . 解剖生理学 著者名:福島光夫 出版社名:中山書店 ISBN:9784521742847

書籍名:解剖生理学 からだの構造と働きがひと目でわかる 著者名:林洋/監修 出版社名:じほう ISBN:9784840745888

[参考書(ISBN)]

書籍名:解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 著者名:志村二三夫 出版社名:羊土社 ISBN:9784758113625

書籍名:解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 著者名:志村二三夫 出版社名:羊土社 ISBN:

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る	実験	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査・測定の意味、実施方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測・測定ならびに観察等の機器を用いてデータを取得する方法およびその分析、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習内容の予習復習(4時間程度)を通して、先行研究の分析とともに健康づくりに欠かすことができない内容を追求する態度を学修する。</p> <p>[授業計画]</p> <p>8班に分かれて、2～9の8項目の実験をローテーションで実施する。また、10～12について各班で健康づくりに応用できる課題を設定して、実験を行い、その分析結果をプレゼンテーションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験のガイダンス 2. 赤血球数、ヘモグロビン濃度の測定 3. 白血球の分類 4. 味覚検査、皮膚の2点間閾値の測定、体温・平均皮膚温の測定、WBGTの測定、重量感覚の測定 5. 視野の測定、涙液検査、フリッカー値検査、重心動揺の測定 6. 尿の緩衝作用、尿検査 7. 肺活量の測定、最大酸素摂取量の測定、運動時の心拍数の測定、10m歩行テスト 8. 心電図検査、血圧の測定、体力診断バッテリーテスト、形態測定 9. エネルギー出納(1日の栄養摂取量と消費量、身体活動量)の計算 10. 自由課題の計画 11. 自由課題の測定 12. 分析結果の文章および口頭でのプレゼンテーション 13. まとめ 			

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る	実験	
担当者	奥野 直		

[成績評価方法]

8項目のレポート(90%)、グループ課題(10%)で評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

ノート(レポート・グループ課題)は、後日添削して返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: レポートとグループ課題

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: レポートとグループ課題

学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。

成績評価方法: レポートとグループ課題

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポートとグループ課題

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る	実験	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>栄養士として将来、臨床や給食、スポーツに関係する施設で栄養指導等を行うとき、対象となる人に合わせて適切な指導を行わなければならない。その人の身体状況を的確に把握するための最低限の検査・測定の意味、実施方法ならびに正常、異常を判断できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>人体の「しくみとはたらき」をより良く理解するために、身体を構成する細胞組織から、各種器官臓器の成り立ち、およびそれらの機能を把握することが必要である。本科目では、実際の自分自身の身体から、種々の計測・測定ならびに観察等の機器を用いてデータを取得する方法およびその分析、評価方法を学び、より客観的にヒトのからだの「しくみとはたらき」を理解することを目的とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>実習内容の予習復習(4時間程度)を通して、先行研究の分析とともに健康づくりに欠かすことができない内容を追求する態度を学修する。</p> <p>[授業計画]</p> <p>8班に分かれて、2～9の8項目の実験をローテーションで実施する。また、10～12について各班で健康づくりに応用できる課題を設定して、実験を行い、その分析結果をプレゼンテーションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験のガイダンス 2. 赤血球数、ヘモグロビン濃度の測定 3. 白血球の分類 4. 味覚検査、皮膚の2点間閾値の測定、体温・平均皮膚温の測定、WBGTの測定、重量感覚の測定 5. 視野の測定、涙液検査、フリッカー値検査、重心動揺の測定 6. 尿の緩衝作用、尿検査 7. 肺活量の測定、最大酸素摂取量の測定、運動時の心拍数の測定、10m歩行テスト 8. 心電図検査、血圧の測定、体力診断バッテリーテスト、形態測定 9. エネルギー出納(1日の栄養摂取量と消費量、身体活動量)の計算 10. 自由課題の計画 11. 自由課題の測定 12. 分析結果の文章および口頭でのプレゼンテーション 13. まとめ 			

科目名	解剖生理学実験	前期	1 単位
サブタイトル	人体のしくみとはたらきを知る	実験	
担当者	奥野 直		

[成績評価方法]

8項目のレポート(90%)、グループ課題(10%)で評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

ノート(レポート・グループ課題)は、後日添削して返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: レポートとグループ課題

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。

成績評価方法: レポートとグループ課題

学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。

成績評価方法: レポートとグループ課題

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポートとグループ課題

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポートとグループ課題

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	学校栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教諭の職務と果たすべき役割を学ぶ	講義	
担当者	本田 まり、阿部 亜紀子、黒田 久恵		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ①栄養教諭の役割を理解し、それに関わる法規等や国が示す食に関する指導の考え方を理解している。
- ②学校給食を活用した食に関する指導および各教科等との関連性をふまえた食に関する指導を立案し、実践できる。
- ③児童・生徒を取り巻く状況を理解し、個別的な相談指導に必要な知識を身に付けている。

[授業概要]

この科目は、小学校、中学校栄養教諭免許取得のためのものであり、実務経験を有する教員がオムニバス形式で担当します。食育の推進に関わる法規等や学校における食に関する指導の進め方について学び、栄養教諭が果たすべき役割を学びます。また、生きた教材としての学校給食の教育的意義、管理、運営方法について学び、給食の時間における食に関する指導の実際を学びます。さらに、学習指導要領をふまえて各教科等と関連した食に関する指導について理解を深め、指導案の作成と指導の実際を学びます。(本田担当5回、黒田担当4回、阿部担当4回)

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各授業で課題が出題されます。関連するニュース等に関心を持ち、授業前後の予習復習は4時間程度を目安に行ってください。

[授業計画]

1. 栄養教諭の制度と役割、学習指導要領の意義と食育のあり方ほか(本田)
2. 「食に関する指導」の全体計画、子どもの発達と食生活:現状と課題など(本田)
3. 教科等における食に関する指導:学習指導要領に基づく計画1(黒田)
4. 教科等における食に関する指導:学習指導要領に基づく計画2、指導案作成(黒田)
5. 教科等における食に関する指導:授業の発表と評価1(黒田)
6. 教科等における食に関する指導:授業の発表と評価2(黒田)
7. 学校給食の歴史、学校給食法、学校組織と栄養教諭ほか(阿部)
8. 給食の時間における食に関する指導:指導案作成(阿部)
9. 給食の時間における食に関する指導:発表と評価1(阿部)
10. 給食の時間における食に関する指導:発表と評価2(阿部)
11. 個別栄養相談指導:指導法、肥満、痩せ(本田)
12. 個別栄養相談指導:食物アレルギー(本田)
13. 学校給食と食育がもたらすもの:家庭・地域との連携(本田)

科目名	学校栄養教育論	後期	2 単位
サブタイトル	栄養教諭の職務と果たすべき役割を学ぶ	講義	
担当者	本田 まり、阿部 亜紀子、黒田 久恵		
<p>[成績評価方法] 課題50%、発表20%、質疑応答30%(授業への取組を含む)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は授業の際に全体または個別に口頭等でフィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:課題、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:課題、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:課題、発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:課題、発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題、発表、質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:質疑応答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題、発表、質疑応答</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:四訂 栄養教諭論 著者名:金田 雅代 出版社名:建帛社 ISBN:9784767921198 書籍名:小学校学習指導要領(平成29年告示) 著者名:文部科学省 出版社名:東洋館出版社 ISBN:9784491034607</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	学校保健	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

学校保健の目的・意義を理解し、学校における保健管理の特性と現代の児童生徒の健康課題から保健教育の必要性がわかる。また、それらの知識を生かし、総合的な学校保健活動について具体的に考えることができる。

[授業概要]

児童生徒の心身の健康は、教育の基本的な到達目標として位置づけられており、学校保健は学校教育の一環として明確に制度化されている教育活動である。このような認識のもと、学校現場における保健活動の意義と特殊性について理解するため、授業の前半では学校保健の制度と歴史等を概観し、続いて児童生徒を取り巻く健康や環境に関する課題を取り上げ、グループワーク等を通して学生自ら課題について探求し、学びを共有する。
また、健康診断、環境衛生、救急処置など、子供達の健康の保持増進を目的とする活動および、保健指導や保健学習といった、健康についての認識や実践力を養う活動について、その特性や実態を把握し、総合的な学校保健活動が展開できる知識や態度を養う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

授業内容に関連する箇所の予習および前回の授業の復習を心がける。
各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. 学校保健の歴史と意義、および学校保健組織について学ぶ(4月8日火曜日)1限
2. 学校でよく見られる感染症とその対応、疾病管理の概要を学ぶ(4月15日火曜日)1限
3. 学校における疾病管理と、慢性疾患など特別な配慮の必要な子供と家族の現状を理解し、医療的ケアを含む支援のあり方を学ぶ(4月22日火曜日)1限
4. 子供の虐待の背景や現状を知り、学校での支援について考える(5月13日火曜日)1限
5. 喫煙、飲酒、薬物乱用について現状を把握し、防止教育について考える(5月20日火曜日)1限
6. 学校における性教育について、性感染症の予防、いのちの教育の観点から考える(5月27日火曜日)1限
7. インターネット、メディアと子どもの健康について考える(6月3日火曜日)1限
8. 学校保健計画・学校安全計画と健康管理・学校安全について学ぶ(6月5日木曜日)3限
9. 環境衛生検査と施設設備の衛生管理について概要を学ぶ(6月10日火曜日)1限
10. 健康診断について、法的根拠と健康診断の種類及び実施について学ぶ(6月12日木曜日)3限
11. 子供の発育・発達と、心の健康・いじめや不登校など行動上の課題について学校での支援の概要を学ぶ(6月17日火曜日)1限
12. 学校における健康教育と具体的な展開方法を学ぶ(6月19日木曜日)3限
13. 学校で行われている救急処置活動の実際、学校給食と食育、食物アレルギー対応について学ぶ(6月24日火曜日)1限
14. 試験(6月26日木曜日)3限

科目名	学校保健	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	細川 愛美		
<p>[成績評価方法] 授業中の小テスト、授業後のミニレポート、課題レポート等の提出物、授業への取り組み姿勢 60% 定期試験 40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 次の授業の冒頭で、レポートの講評を行う。 後日、manabaにて試験の講評、解説を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 小テスト、レポート、授業への取り組み姿勢(60%)、理解度確認テスト(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:学校保健ハンドブック第7次改訂 著者名:教員養成系大学保健協議会 出版社名:ぎょうせい ISBN:978-324-10577-1C3037</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	基礎演習 I		前期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	奥野 直、佐藤 誓子、糸井 亜弥、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	KJ法	実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <p>本学科のコンセプトを多角的・総合的に理解し、自分の目標を立てていく。また、学士課程教育で求められる具体的な方法を理解し、大学としての学習スタイルを身に付ける。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>基礎演習は前期Ⅰ・後期Ⅱとして開講し、前後期一体型のプログラムです。基礎演習Ⅰは健康スポーツ栄養学科で学ぶ専門科目の概要を理解してもらうための基礎編で、入門ゼミという位置付けです。本学科は栄養士養成を柱として健康栄養とスポーツ栄養のカテゴリーに分かれますので、自分の目標を達成するために、4年間でどのような学習をしなければならないかをこの基礎演習を通して理解してもらいたいと思っています。また、大学は高校までと違う学士課程教育といわれる学習形態をもっています。学士課程教育において求められる内容は、学ぶ技術や学問的知識の習得、書く・読む・話す・聴くことからのコミュニケーション力や数理的分析力や情報発信力、さまざまな思考法を用いての課題解決力、自らを向上させ続ける力などであり、大学4年間の学習をスムーズに進めるために必要な「大学での学び方」についても学習していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業の課題やまとめ方について予習し、復習する(2時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1回目は全員で実施方法についての説明とレポート執筆の基礎を学びます。(吉川・木村)</p> <p>2回目以降は、各クラスを4グループに分けて、各クラス4名(計8名)の教員がゼミ形式で同じグループを3週間連続で担当します。</p> <p>各教員の主な内容は、</p> <p>奥野 「大学に求められる教育」の解説、マインドマップの作成、「本当は健康寿命が短い日本人の体質」等の要約と発表</p> <p>佐藤 グループ討議によって課題解決の方法を考える</p> <p>坂元 スポーツ栄養の現場から、求められる能力を考える</p> <p>松本 国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法</p> <p>吉川 プレゼンテーションのスキルを学ぶ</p> <p>本田 情報を整理して伝える方法と、積極的な意見交換の実践</p> <p>木村 リーダーシップとは何かを考える</p> <p>糸井 書籍・文献検索の手法を学ぶ</p>				

科目名	基礎演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直、佐藤 誓子、糸井 亜弥、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 授業態度(20%)と授業中の課題・レポート(80%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題・レポート等は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	奥野 直、佐藤 誓子、糸井 亜弥、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	KJ法	実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <p>本学科のコンセプトを多角的・総合的に理解し、自分の目標を立てていく。また、学士課程教育で求められる具体的な方法を理解し、大学としての学習スタイルを身に付ける。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>基礎演習は前期Ⅰ・後期Ⅱとして開講し、前後期一体型のプログラムです。基礎演習Ⅰは健康スポーツ栄養学科で学ぶ専門科目の概要を理解してもらうための基礎編で、入門ゼミという位置付けです。本学科は栄養士養成を柱として健康栄養とスポーツ栄養のカテゴリーに分かれますので、自分の目標を達成するために、4年間でどのような学習をしなければならないかをこの基礎演習を通して理解してもらいたいと思っています。また、大学は高校までと違う学士課程教育といわれる学習形態をもっています。学士課程教育において求められる内容は、学ぶ技術や学問的知識の習得、書く・読む・話す・聴くことからのコミュニケーション力や数理的分析力や情報発信力、さまざまな思考法を用いての課題解決力、自らを向上させ続ける力などであり、大学4年間の学習をスムーズに進めるために必要な「大学での学び方」についても学習していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業の課題やまとめ方について予習し、復習する(2時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1回目は全員で実施方法についての説明とレポート執筆の基礎を学びます。(吉川・木村)</p> <p>2回目以降は、各クラスを4グループに分けて、各クラス4名(計8名)の教員がゼミ形式で同じグループを3週間連続で担当します。</p> <p>各教員の主な内容は、</p> <p>奥野 「大学に求められる教育」の解説、マインドマップの作成、「本当は健康寿命が短い日本人の体質」等の要約と発表</p> <p>佐藤 グループ討議によって課題解決の方法を考える</p> <p>坂元 スポーツ栄養の現場から、求められる能力を考える</p> <p>松本 国際栄養の概要と食を通して学ぶプレゼンテーションの手法</p> <p>吉川 プレゼンテーションのスキルを学ぶ</p> <p>本田 情報を整理して伝える方法と、積極的な意見交換の実践</p> <p>木村 リーダーシップとは何かを考える</p> <p>糸井 書籍・文献検索の手法を学ぶ</p>				

科目名	基礎演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直、佐藤 誓子、糸井 亜弥、松本 衣代、坂元 美子、吉川 豊、本田 まり、木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 授業態度(20%)と授業中の課題・レポート(80%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題・レポート等は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度と課題・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

P11100710 [WHI1-010]

科目名	基礎化学演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 食品・栄養関連の物質、現象を科学的に考察できるように、化学の基礎知識を習得することを目的とする。</p> <p>[授業概要] 化学の基礎を学ぶことは食品・栄養関連の物質・現象などを理解する上で重要である。そこで、本授業では、物質の最小単位である原子・分子の構造、物質の状態・変化、分子の性質・運動、溶液の性質、酸化・還元などについて解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度実施すること。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 物質の構成 3. 物質の構成の問題演習 4. 物質の構成粒子—原子・分子・イオン・周期表 5. 物質の構成粒子の問題演習 6. 物質量と濃度計算と演習① 7. 物質量と濃度計算と演習② 8. 物質量と濃度計算の問題演習 9. 酸化と還元 10. 酸化と還元の問題演習 11. 酸と塩基 12. 酸と塩基の問題演習 13. まとめ</p>			

科目名	基礎化学演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] 試験</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 解答例をmanabaなどから配布する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:新版これでわかる化学 著者名:矢野潤 出版社名:三共出版 ISBN:9784782708187</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	基礎生物学演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 生物を構成する代表的な器官や組織を理解する。生命維持に必要な活動エネルギーの源である栄養素およびそれを獲得するためのシステムを理解する。</p> <p>[授業概要] 生物学の基礎的な知識を身につけ、我々の体内の生理機能を理解する。高校の生物の内容を復習すると共に、最新の話題を追加し、本学科で学ぶ専門科目への基礎知識を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ランダムで授業始めに確認小テストを行います。復習と予習をして講義に臨むこと。必要に応じて高校の教科書・参考書も利用し、十分に理解すること。理解できない部分はオフィスアワーを有効利用すること。(計2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、基礎問題演習・解説 2. 細胞 3. 生物を構成する物質① 4. 生物を構成する物質② 5. 復習・問題演習・解説 6. 栄養と消化 7. 酵素と補酵素 8. 栄養と代謝 9. 復習・問題演習・解説 10. 組織 11. 血液の凝固と織溶 12. 筋収縮 13. 復習・問題演習・解説 			

科目名	基礎生物学演習	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 講義中に行う試験(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/個人や家庭、地域社会で生じる食や栄養、運動・スポーツ・教育に関連した多様な課題に対して、周囲と協働して取り組む能力を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:医療・看護系のための 生物学(改訂版) 著者名:田村 隆明 出版社名:裳華房 ISBN:9784785352332</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術を習得し、実際に行うことができる。 食品成分表を用いて正しく栄養価計算ができる。</p> <p>[授業概要] 食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより、献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。(糸井担当/6.5回・佐藤担当/6.5回)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業の復習をしてください。 次回実習する献立について予習をしてください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(衛生管理、調理室の使い方、実習上の諸注意、調理の基本操作など) (佐藤誓子・糸井亜弥) 2. 手法別調理の実際(汁物、果物の切碎)(佐藤誓子) 3. 手法別調理の実際(炊飯、焼き物、和え物)(佐藤誓子) 4. 手法別調理の実際(炒め物、蒸し物)、選択献立に関する説明(佐藤誓子) 5. 手法別調理の実際(煮物、揚げ物、寄せ物)(佐藤誓子) 6. 第8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)(糸井亜弥) 7. 第10回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)、食事マナーDVD視聴 (糸井亜弥) 8. 献立別調理の実際(日本料理)(糸井亜弥) 9. 献立別調理の実際(西洋料理)(糸井亜弥) 10. 献立別調理の実際(中国料理)(糸井亜弥) 11. 選択献立の調理(佐藤誓子) 12. 講義まとめ(糸井亜弥) 13. テーブルマナー講座(外部講師)(佐藤誓子)</p>			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度(60%)、レポート提出状況と内容(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/個人や家庭、地域社会で生じる食や栄養、運動・スポーツ・教育に関連した多様な課題に対して、周囲と協働して取り組む能力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:基礎から学ぶ調理実習 著者名:新調理研究会/編 オーム社開発局/企画編集 出版社名:オーム社 ISBN:9784274069987</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:【第2版】NEW調理と理論 著者名:山崎清子/共著 島田キミエ/共著 渋川祥子/共著 下村道子/共著 市川朝子/共著 杉山久仁 出版社名:同文書院 ISBN:9784810315073</p>			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 包丁の扱い方、食品の扱い方など基本的調理操作と技術を習得し、実際に行うことができる。 食品成分表を用いて正しく栄養価計算ができる。</p> <p>[授業概要] 食品の調理特性を理解し、再現性のある良好な調理が行えることを目的とする。栄養価を考慮した日常食の献立を調理することにより、献立計画立案の基礎知識を修得する。また、試食によって盛り付けや配膳、基本的な食事作法を学ぶ。喫食者の嗜好なども含めた献立の評価を行う。(糸井担当/6.5回・佐藤担当/6.5回)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業の復習をしてください。 次回実習する献立について予習をしてください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(衛生管理、調理室の使い方、実習上の諸注意、調理の基本操作など) (佐藤誓子・糸井亜弥) 手法別調理の実際(汁物、果物の切碎)(佐藤誓子) 手法別調理の実際(炊飯、焼き物、和え物)(佐藤誓子) 手法別調理の実際(炒め物、蒸し物)、選択献立に関する説明(佐藤誓子) 手法別調理の実際(煮物、揚げ物、寄せ物)(佐藤誓子) 第8、9回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)(糸井亜弥) 第10回実習説明(調理の理論及び調理操作に関する内容)、食事マナーDVD視聴 (糸井亜弥) 献立別調理の実際(日本料理)(糸井亜弥) 献立別調理の実際(西洋料理)(糸井亜弥) 献立別調理の実際(中国料理)(糸井亜弥) 選択献立の調理(佐藤誓子) 講義 まとめ(糸井亜弥) テーブルマナー講座(外部講師)(佐藤誓子) 			

科目名	基礎調理学実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥、佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度 (60%)、レポート提出状況と内容 (40%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-2 / 食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-1 / 地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-2 / 個人や家庭、地域社会で生じる食や栄養、運動・スポーツ・教育に関連した多様な課題に対して、周囲と協働して取り組む能力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 責任感 / 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: 基礎から学ぶ調理実習 著者名: 新調理研究会 / 編 オーム社開発局 / 企画編集 出版社名: オーム社 ISBN: 9784274069987</p> <p>[参考書 (ISBN)] 書籍名: 【第2版】NEW調理と理論 著者名: 山崎清子 / 共著 島田キミエ / 共著 渋川祥子 / 共著 下村道子 / 共著 市川朝子 / 共著 杉山久仁 出版社名: 同文書院 ISBN: 9784810315073 書籍名: めざせ! 栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 第4版 著者名: 小野章史 出版社名: 第一出版 ISBN: 9784804114590</p>			

科目名	機能運動論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>身体の動きを理解し、運動に関連する神経、筋、関節について学び、トレーニング効果や機能障害等を理解する。また運動機能の評価法を学習するとともに日常生活動作と生活関連動作を理解する。</p> <p>そして、グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>スポーツのみならず、日常生活動作について、運動の機構およびそのコントロールを理解し、運動機能の評価と傷害に対する対策を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖とバイオメカニクスの概要,肩甲骨の動きと運動 2. 運動単位、紡錘筋と羽状筋、PNFストレッチ、運動パフォーマンスの向上 3. 骨・筋肉・関節の名称と動き1(上肢) 4. 骨・筋肉・関節の名称と動き2(上肢の関節と動き) 5. 骨・筋肉・関節の名称と動き3(下肢) 6. 骨・筋肉・関節の名称と動き4(下肢の関節と動き) 7. 骨・筋肉・関節の名称と動き5(体幹と脊柱) 8. バイオメカニクス1(筋肉の収縮様式、筋の弾性要素・弾性エネルギー) 9. バイオメカニクス2(スポーツ力学の基本) 10. バイオメカニクス3(重心、運動量と力積) 11. バイオメカニクス4(パワーの発揮とエネルギーの伝達) 12. バイオメカニクス5(慣性モーメント、運動と流体力) 13. まとめ 			

科目名	機能運動論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] レポート(100%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	給食管理実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	佐藤 誓子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められる。実際の給食提供を想定して計画から評価を行える能力を取得することを目標とする。</p> <p>[授業概要] 給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネージメントを修得することに重点をおいている。 与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。 なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているため、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと (各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 献立作成演習 3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育 4. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(1) 5. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(2) 6. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(3) 7. 試作、予定献立の作成 8. 発注計画、作業工程表の作成 9. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(1) 10. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(2) 11. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(3) 12. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(4) 13.全体を通しての評価、反省、まとめ</p>				

科目名	給食管理実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 実習中の態度70%、レポートの進捗状況30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・試験は回収後に解説をする ・レポートは添削後に返却する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	給食管理実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	佐藤 誓子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 給食現場では、栄養管理・経営管理・衛生管理・品質管理などに係る諸問題を総合的に判断し、解決する能力が求められる。実際の給食提供を想定して計画から評価を行える能力を取得することを目標とする。</p> <p>[授業概要] 給食計画実務論で学んだ知識と、給食運営管理技術の統合を図るため、実際に大量調理を行い、給食現場における種々のマネージメントを修得することに重点をおいている。 与えられた課題のみを解決するのではなく、自らが課題を発展的に展開する能力を養うことも重要であり、このような観点からも学修を行う。 なお、衛生管理のために検便を数回行う。この結果により調理作業を許可しているため、日常の健康管理にも注意を払う必要がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 給食計画・実務論の内容を復習し、次回の実習担当部分の予習をしておくこと (各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 献立作成演習 3. 作業管理、衛生管理、安全管理に係る事前教育 4. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(1) 5. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(2) 6. 帳票類事務演習:食品構成表、荷重平均成分表等の作成及びパソコンを使用した献立作成の演習(3) 7. 試作、予定献立の作成 8. 発注計画、作業工程表の作成 9. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(1) 10. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(2) 11. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(3) 12. 厨房内実習による給食提供:喫食者の満足度を高める給食を提供するためには管理栄養士・栄養士として何をどのように行えばよいのかについて、積極的に考える。(4) 13.全体を通しての評価、反省、まとめ</p>				

科目名	給食管理実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 実習中の態度70%、レポートの進捗状況30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・試験は回収後に解説をする ・レポートは添削後に返却する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 実習中の態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 実習中の態度、レポートの進捗状況</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	給食管理実習 I (校外)	前期～後期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際	実習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>事業所・小学校・福祉施設などの特定給食施設において、各施設の組織の概要を理解して各施設での給食に係る組織と運営・業務内容の実態を把握し、給食運営管理のあり方を修得する。 なお、実習時間のうち40時間を校外にて行い、5時間を事前事後教育として学内にて行う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>給食経営の資源について、それぞれの施設での運営状況を学ぶ。単なる見学ではなく、実践活動の場での課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>給食計画実務論、給食運営管理実習、調理科学、基礎調理学実習、応用調理学実習 I の内容を復習しておくこと(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(学内) 2. 各特定給食施設の特徴の把握と、自己課題作成演習(学内) 3. 大量調理実習・主として調理(校外) 4. 大量調理実習・主として調理(校外) 5. 大量調理・衛生管理(校外) 6. 大量調理・衛生管理(校外) 7. 施設の対象者に応じた食事計画演習(校外) 8. 作業工程作成演習(校外) 9. 発注計画表作成演習(校外) 10. 献立・栄養評価演習(校外) 11. 各施設での管理栄養士・栄養士の役割に関する授業(校外) 12. 実習先での反省会(校外) 13. 反省会・まとめ(学内) 			

科目名	給食管理実習 I (校外)	前期～後期	1 単位
サブタイトル	特定給食施設における給食運営の実際	実習	
担当者	佐藤 誓子		

[成績評価方法]

事前事後教育中の態度10%、校外での授業態度90%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
事後教育にて講評を行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。
成績評価方法: 校外での授業態度、事前事後教育中の態度

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。
成績評価方法: 校外での授業態度

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。
成績評価方法: 校外での授業態度

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。
成績評価方法: 校外での授業態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法: 事前事後教育中の態度、校外での授業態度

[教科書(ISBN)]

書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし

[参考書(ISBN)]

書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし

科目名	給食管理論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 給食の定義を理解する。 2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。 3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネジメントを行う能力を養う。 4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>調理学の知識を復習して授業に臨むこと。 次回の授業内容を、教科書によって予習しておくこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、給食の概念 2. 給食における栄養・食事管理(1) 3. 給食における経営管理 4. 給食における栄養・食事管理(2) 5. 給食における栄養・食事管理(3) 6. 給食の組織・人事管理 7. 前半のまとめ 8. 給食の生産(調理)管理 9. 給食の品質管理 10. 給食の会計・原価管理 11. 給食の衛生管理 12. 給食の情報処理管理、事故・災害時対策 13. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ、まとめ 			

科目名	給食管理論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度10%, レポート30%, 試験60%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・レポートは講評の上、返却する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度, レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度, レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度, レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:給食経営管理論 著者名:大中佳子 出版社名:第一出版 ISBN:978-4-8041-1474-3</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	給食管理論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>給食運営のための基礎知識を学ぶ。栄養・衛生・生産・品質・原価管理など多岐に亘る栄養士・管理栄養士業務を把握し、次期の学内実習及び校外実習に活かせる学修を目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 給食の定義を理解する。 2. 栄養士法に示される栄養士・管理栄養士業務のうち、給食運営に関わる内容を理解する。 3. 給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営面などのマネジメントを行う能力を養う。 4. 給食の対象となる人や集団を把握した上で、個々の対象者への対応に必要な技能について学ぶ。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>調理学の知識を復習して授業に臨むこと。 次回の授業内容を、教科書によって予習しておくこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、給食の概念 2. 給食における栄養・食事管理(1) 3. 給食における経営管理 4. 給食における栄養・食事管理(2) 5. 給食における栄養・食事管理(3) 6. 給食の組織・人事管理 7. 前半のまとめ 8. 給食の生産(調理)管理 9. 給食の品質管理 10. 給食の会計・原価管理 11. 給食の衛生管理 12. 給食の情報処理管理、事故・災害時対策 13. 保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけ、まとめ 			

科目名	給食管理論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度10%, レポート30%, 試験60%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・レポートは講評の上、返却する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度, レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度, レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度, レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度, レポート, 試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:給食経営管理論 著者名:大中佳子 出版社名:第一出版 ISBN:978-4-8041-1474-3</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	健康医学入門	前期	2 単位
サブタイトル	生命と健康	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	全員参加型=通常or反転授業+設問解答型+ディスカッションorグループワーク	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>「生物・生命と生物・生命を育む環境」、「健康と病気」への深い理解を基盤として、栄養と運動を通して、健康管理、すなわち、病気の予防と健康の維持・増進ができるようになるために、健康と病気、生物・生命、生物・生命を育む環境、遺伝の仕組みについての基礎的知識を身につけることを目標とする。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康・病気」に関して、健康の定義を説明し、病気(病的な状態)の成り立ちを説明できるようになる。 ・「生物・生命と生物・生命を育む環境」に関して、生物・生命とは、この世および生物を構成する物質、細胞の構造と働き、代謝と栄養、環境と栄養、遺伝のしくみについて理解し、説明できるようになる。 <p>[授業概要]</p> <p>生物・生命と生物・生命を育む環境、健康と病気への深い理解を基盤として、運動・栄養指導を通じた健康管理ができるようになるために、生物・生命と生物・生命を育む環境、健康と病気の基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組み、講義を聞いて、正解を見つけるなどとする。予め、学習する範囲などが示されるので、学生は、教科書または資料などを読み、予習学習して講義に臨むものとする。講義中には、適時、質問したり・されたり、ディスカッションしたりする機会が与えられるので、全員参加型で授業を進める。このようにして、学生は、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学習を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予め、学習する範囲などが示されるので、学生は、科書または資料などを読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。 ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. はじめに 健康・病気とは そして 生物・生命とは 4/14(月)2限 02. この世を構成する物質 4/21(月)2限 03. 生物を構成する物質:炭水化物 4/28(月)2限 04. 生物を構成する物質:脂質 たんぱく質 5/12(月)2限 05. 細胞の構造と働き:細胞膜 5/19(月)2限 06. 細胞の構造と働き:細胞内小器官 5/26(月)2限 07. ヒトの全体像 & 代謝と栄養:消化と吸収 6/2(月)2限 08. 代謝と栄養:エネルギー産生の仕組み(1) 6/9(月)2限 09. 代謝と栄養:エネルギー産生の仕組み(2) 6/16(月)2限 10. 環境と栄養:食物連鎖 6/23(月)2限 11. 遺伝の仕組み:DNAとたんぱく質 6/30(月)2限 12. 遺伝の仕組み:細胞分裂 7/7(月)2限 13. 病気/疾病の成り立ち 病気/疾病の種類 もう一度健康とは 7/14(月)2限 <p>(授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)</p>			

科目名	健康医学入門	前期	2 単位
サブタイトル	生命と健康	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。
課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わり常に興味をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[教科書(ISBN)]

書籍名:楽しくわかる生物・化学・物理 著者名:岡田隆夫 出版社名:羊土社 ISBN:9784758120739

書籍名:解剖生理学 からだの構造と働きがひと目でわかる 著者名:林洋/監修 出版社名:じほう ISBN:9784840745888

[参考書(ISBN)]

科目名	健康食育論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	本田 まり			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①日本における食育推進に関連した法規や施策などの基本的枠組みを理解している。 ②食生活をめぐる問題を理解し、家庭、学校・保育所等、地域における望ましい食育推進のあり方を理解している。 ③地球環境に対して、食育の観点から取り組むべき役割を理解している。</p> <p>[授業概要]</p> <p>なぜ食育が必要なのか、乳幼児から高齢期までの全ライフステージにおける食育の意義を理解し、国の施策や家庭、学校・保育所等、地域における取り組みについて具体的に学びます。また、地球環境に対する食育の重要性についても学び、食育の意義を深め、実践に役立つ知識を身に付けます。参考図書は、例年5月下旬頃～、国による最新の「食育白書」が発刊されます。ネット上にもアップされていますので、過去の分も含めて、ぜひ参考してください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>食環境や家庭環境、地球環境、食文化などに関するニュースに目を向け、授業との関連性を深めながら知識を吸収してください。発表準備などの課題があります。各回の授業前後の自己学習として4時間程度を目安にしてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食育基本法、第4次食育推進基本計画 2. 食育活動とは？様々な取り組みの概要 3. グループワーク1:テーマの選定、実際の取組み事例などの検索 4. グループワーク2:プレゼンテーション作成その1 5. グループワーク3:プレゼンテーション作成その2 6. 発表とディスカッション1 7. 発表とディスカッション2 8. 発表とディスカッション3 9. 発表とディスカッション4 10. 発表とディスカッション5 11. 環境に配慮した食育の推進とは 12. 食料自給や食文化の継承からみた食育の推進とは 13. 個々のライフステージや多様性に応じた食育とは、小テスト 				

科目名	健康食育論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] 成果物(プレゼンテーション)40%、ディスカッションでの質疑応答20%、授業への取り組み20%、小テスト20% * 授業への取り組みには、プレゼンのために下調べした資料を含みます。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] プレゼンテーションの作成の過程では、質問に随時対応します。 プレゼンテーションに対するフィードバックは、全体でのディスカッションで行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: ディスカッションでの質疑応答 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:食育白書 令和4年版「食」の知識と選択する力を養う食育を目指して 著者名:農林水産省/編 出版社名:日経印刷 ISBN:9784865793208</p>			

科目名	健康食育論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

- ①日本における食育推進に関連した法規や施策などの基本的枠組みを理解している。
- ②食生活をめぐる問題を理解し、家庭、学校・保育所等、地域における望ましい食育推進のあり方を理解している。
- ③地球環境に対して、食育の観点から取り組むべき役割を理解している。

[授業概要]

なぜ食育が必要なのか、乳幼児から高齢期までの全ライフステージにおける食育の意義を理解し、国の施策や家庭、学校・保育所等、地域における取り組みについて具体的に学びます。また、地球環境に対する食育の重要性についても学び、食育の意義を深め、実践に役立つ知識を身に付けます。参考図書は、例年5月下旬頃～、国による最新の「食育白書」が発刊されます。ネット上にもアップされていますので、過去の分も含めて、ぜひ参考してください。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

食環境や家庭環境、地球環境、食文化などに関するニュースに目を向け、授業との関連性を深めながら知識を吸収してください。発表準備などの課題があります。各回の授業前後の自己学習として4時間程度を目安にしてください。

[授業計画]

1. 食育基本法、第4次食育推進基本計画
2. 食育活動とは？様々な取り組みの概要
3. グループワーク1: テーマの選定、実際の取組み事例などの検索
4. グループワーク2: プレゼンテーション作成その1
5. グループワーク3: プレゼンテーション作成その2
6. 発表とディスカッション1
7. 発表とディスカッション2
8. 発表とディスカッション3
9. 発表とディスカッション4
10. 発表とディスカッション5
11. 環境に配慮した食育の推進とは
12. 食料自給や食文化の継承からみた食育の推進とは
13. 個々のライフステージや多様性に応じた食育とは、小テスト

科目名	健康食育論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] 成果物(プレゼンテーション)40%、ディスカッションでの質疑応答20%、授業への取り組み20%、小テスト20% * 授業への取り組みには、プレゼンのために下調べした資料を含みます。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] プレゼンテーションの作成の過程では、質問に随時対応します。 プレゼンテーションに対するフィードバックは、全体でのディスカッションで行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: ディスカッションでの質疑応答 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 成果物(プレゼンテーション)、ディスカッションでの質疑応答、授業への取り組み(下調べ)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:食育白書 令和4年版「食」の知識と選択する力を養う食育を目指して 著者名:農林水産省/編 出版社名:日経印刷 ISBN:9784865793208</p>			

科目名	健康スポーツ指導法 I (体づくり運動)	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、運動を行ったり健康を保持したりするための行い方を学ぶため、以下の到達目標を設定する。 ①授業にて「何を学んでいるか」を意識し、その学びを自らの実生活に生かすことができる。 ②自ら体づくり運動や体ほぐし運動を実践するだけでなく、他者に提供できるよう授業づくりができる。 <p>[授業概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領にある「体づくり運動」の趣旨を踏まえ、仲間と関わり合い楽しむ運動を通し、心と体の関係に気づき、心や体の状態に応じて調子を整える。 ・授業で体験した内容をもとに、「体づくり運動」における「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の授業づくりの考え方を理解し展開を考えながら、授業づくりができるよう実践する。 <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導用ノートを作成し、実技授業内での学習事項をまとめ、得られた気づきを記録すること。 ・授業で得られたアイデアをもとに、オリジナリティあふれる指導計画を立案すること。 <p>[授業計画]</p> <p>第1回:オリエンテーション 第2回:ラジオ体操第1、集団行動 第3回:ラジオ体操第2、集団行動 第4回:体ほぐし 相手の動きを感じる 第5回:体ほぐし 集団で息を合わせる 第6回:体ほぐし 道具を使う運動 第7回:体力を高める運動 道具を使う運動 第8回:体力を高める運動 「健康に生活するための体力」の向上 第9回:体力を高める運動 「運動を行うための体力」の向上 第10回:授業づくり① 対象にあわせた運動を考える 第11回:授業づくり② 目的にあわせた運動を考える 第12回:授業づくり③ リズムを用いた運動を考える 第13回:まとめ(実技テスト)</p> <p>* 履修者の理解度、技能に応じて内容等変更する場合がある</p>			

科目名	健康スポーツ指導法 I (体づくり運動)	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 授講態度 (50%)、模擬授業づくり・発表 (40%)、個人スキル (10%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業等で説明・解説します。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-2 / 健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力 (思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力 (コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力 (問題解決力・創造性) を身に付けている。 成績評価方法: グループワーク</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ (知識・技術の向上および最新情報の収集を行う) 能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 責任感 / 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅱ(武道)	後期	1単位
サブタイトル		実習	
担当者	賀屋 光晴		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 柔道を通して礼節や思いやりの心について理解できる 受身、投技(手技・腰技・足技)、固め技(抑込み技)が身につく 授業実施における安全管理について理解できる 学修内容を当該の中学・高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求することができる</p> <p>[授業概要] 柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作や対人的技能を習得する。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業前:参考図書やweb動画などで、実施予定の内容や動作についての予備知識や動作イメージを身に付ける。学習指導要領の武道の項を確認する。 授業後:実施内容について、上手くできた点や修正が必要と思われた点について思い出し、まとめておく。 怪我の防止や柔軟性の向上のため1日5分程度のストレッチを毎日行なう。</p> <p>[授業計画] 第1回:柔道の歴史について、道衣の着方、基本的な動作について 第2回:基本動作の習得1(礼法、受身、姿勢、基本動作) 第3回:基本動作の習得2(礼法、受身、姿勢、組み方、歩き方、体捌き、崩し) 第4回:基本動作の習得3(礼法、受身、体捌き、崩し)、対人的技能の習得1:投技(膝車、支釣込足) 第5回:対人的技能の習得2:投技(大腰) 第6回:対人的技能の習得3:投技(体落) 第7回:対人的技能の習得4:投技(背負投、一本背負投) 第8回:対人的技能の習得5:投技(送足払、出足払) 第9回:対人的技能の習得6:投技(大外刈、大内刈、小内刈)、連絡技 第10回:対人的技能の習得7:投技(大外刈、大内刈、小内刈) 第11回:対人的技能の習得8:固技(抑込み技:袈裟固) 第12回:対人的技能の習得9:固技(様々な抑込み技) 第13回:対人的技能の習得10:固技(寝技での攻防)、連絡技(投技から固技)</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅱ(武道)	後期	1単位
サブタイトル		実習	
担当者	賀屋 光晴		

[成績評価方法]

技術の理解度と上達度(50%)、参加態度(30%)、課題レポート(20%)を合わせて、総合的に評価する

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

必要に応じて次回以降の授業時などにてフィードバックを行う

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-3/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツ・運動指導に必要な指導力を修得している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題解決に向けた方策に対する判断力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 栄養2-4/アスリートにまつわる諸課題を見つけ、栄養学やスポーツ科学をもとに解決策を見出すことで、スポーツ・運動分野において貢献しようとしている。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/多様性を理解し、個々の状況に応じた食や栄養、運動・スポーツ・教育のサポートが出来る能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

書籍名:女子のための柔道の教科書 著者名:木村昌彦ほか 出版社名:土屋書店 ISBN:978-4806912828

書籍名:心・技・体を強くする!柔道 基本と練習メニュー 著者名:井上 康生 出版社名:池田書店 ISBN:978-4262163826

書籍名:ジュニアのための考える柔道(改訂新版) 著者名:向井 幹博、山口 香 出版社名:東京書店 ISBN:978-4885746369

書籍名:武道をたずねて-武道教育への活用- 著者名:出口 達也、金 炫勇、瀬川 洋 出版社名:大学教育出版 ISBN:978-4864294812

書籍名:発達が気になる子が輝く柔道&スポーツの指導法 著者名:西村健一、長野敏秀、浦井重信、酒井重義 出版社名:特定非営利活動法人judo3.0 ISBN:978-4991128004

書籍名:これで防げる! 学校体育・スポーツ事故 著者名:山中龍宏 出版社名:中央法規出版 ISBN:978-4805889428

科目名	健康スポーツ指導法Ⅲ(陸上)	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 走・跳・投の陸上競技の実施種目について、①特性を理解すること、②技術を習得すること、③目標記録に到達することを目標とし、陸上競技に関する知識および技能を身に付けるとともに、他者へ陸上競技の指導を行なうことが出来る能力を身に付けることで、"確かな知識を持ちながら、課題解決のために行動できる実践力"を身に付ける。</p> <p>[授業概要] 陸上競技は走・跳・投・歩から構成される運動であり、あらゆる運動・スポーツ活動の基本となる身体能力を用いる種目である。本授業は、①前半と後半にて走・跳・投の測定を実施し、最終的な目標記録を設定する、②自身の課題に応じた技能習得方法について考える、③グループワークにて技能取得や審判の方法を共有することで学習効果を高めるといった学習展開である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 本授業では、混成競技(7種競技)およびリレーを取り扱うため、実施種目特性について事前に調べてくるとともに、授業後では技能ポイントについてまとめること(2時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 混成競技(前半)測定 3. 混成競技(後半種目)測定 4. 短距離種目の特性理解および技術の理解・習得 5. リレー種目の特性理解および技術の理解・習得 6. 長距離種目の特性理解および技術の理解・習得 7. ハードル種目の特性理解および技術の理解・習得 8. 走幅跳の特性理解および技術の理解・習得 9. 走高跳の特性理解および技術の理解・習得□ 10. 砲丸投・やり投げの特性理解および技術の理解・習得 11. 混成競技(前半)測定 12. 混成競技(後半種目)測定 13. まとめ(レポート作成、授業ノート提出)</p> <p>* ポートアイランドキャンパスに加え、学外施設でも実施予定である。 日程の詳細は、第1回に通知する。</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅲ(陸上)	後期	1単位
サブタイトル		実習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 技能(40%)、レポート(40%)、受講態度(20%) 7種競技における各種目の最低基準を満たせない場合、技能評価を行わない。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内等で連絡します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 技能</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度・技能</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート・技能</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 受講・技能</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート・技能</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート・技能</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート・技能</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅳ(器械運動)	後期	1 単位
サブタイトル	器械運動の特性 指導法	実習	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技ができる楽しさや喜びを味わうとともに、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力など理解することができる。 ・指導者として器械運動をより美しく、安全に教えることができる。 <p>[授業概要]</p> <p>器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わわせることを学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.器械運動についての説明と器機の説明、授業計画作成の説明 2.マット運動回転系接転「前転(開脚・伸膝前転等)、後転(開脚・伸膝後転等)」 3.マット運動回転系ほん転「倒立回転」、巧技立ち「片足平均立ち」、連続技 4.マット運動の指導法、実技テスト 5.鉄棒運動支持系前方支持回転「前転、前方足掛け回転」 6.鉄棒運動支持系後方支持回転「後転、後方足掛け回転」 7.鉄棒運動の指導法、実技テスト 8.平均台運動体操系「歩走・跳躍」 9.平均台運動バランス系「ポーズ・ターン」 10.平均台運動指導法、実技テスト 11.跳び箱運動切り返し系「開脚跳び・かかえ込み跳び」 12.跳び箱運動回転系「回転跳び」 13.跳び箱運動の指導法、実技テスト 			

科目名	健康スポーツ指導法Ⅳ(器械運動)	後期	1 単位
サブタイトル	器械運動の特性 指導法	実習	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 技能テスト(50%)、受講態度(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内で告知します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーション・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:グループワーク・授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実技・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業態度</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	健康体力評価論(含実習)		前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価		実習	
担当者	小田 慶喜			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他	<small>各自の考えを積極的に表現し、社会に関わける 字面を身につける</small>	実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 健康・体力づくりの指導者として、健康・体力づくりの基礎的な知識を理解した上で、体力テストを実施し、結果を評価する方法を理解する。また、それらを健康・体力づくりやトレーニングに安全かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>[授業概要] 有酸素性、無酸素性作業能力を表す指標や身体組成の測定原理とそれらの測定方法について実習を通して理解する。また、新体力テストの各項目と体力要素の関連を理解し、実習を通して体力テストの結果を評価する方法と健康・体力づくりやトレーニングなどへの活用方法を理解する。また、体力測定は、個人や集団の体力の実態を要因別、総合的に評価し健康づくり策の重要性であることを理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 健康運動実践指導者には、現場で対応するための多くの実践的知識の活用が必要とされます。すでに学んでいる知識を実践的に活用できるように、教科書を事前に読んで知識の整理をしておいてください。</p> <p>[授業計画] 1. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について① 2. 体力の概念と構成要素、体力測定の目的や対象について 3. 有酸素性能力・無酸素性能力の測定方法について② 4. 身体組成の測定方法について① 5. 身体組成の測定方法について② 6. 新体力テストと測定方法 7. 体力測定① 8. 測定結果の評価① 9. 測定結果の評価② 10. 測定結果からのトレーニング方法実践① 11. 測定結果からのトレーニング方法実践② 12. 体力測定② 13. 測定結果の評価③、発表、まとめ</p>				

科目名	健康体力評価論(含実習)	前期	1 単位
サブタイトル	体力の測定と評価	実習	
担当者	小田 慶喜		

[成績評価方法]

授業態度(25%)、発表(25%)、個人スキル(50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
健康運動実践指導者試験問題を中心に解説を実施します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。
成績評価方法: 講義内におけるレポートと確認試験

学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。
成績評価方法: 講義内におけるレポートと確認試験

学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。
成績評価方法: 講義内におけるレポートと確認試験

学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。
成績評価方法: 講義内におけるレポートと確認試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法: 講義内におけるレポートと確認試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法: 講義内におけるレポートと確認試験

[教科書(ISBN)]

書籍名:健康運動実践指導者養成用テキスト 著者名: 出版社名:(財)健康・体力づくり事業財団 ISBN:

[参考書(ISBN)]

書籍名:必要であれば講義内で準備する 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	健康福祉論(ライフサイクルとQOLを含む)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 人々が心身ともに健やかな状態で、障がいをもつ・もたないにかかわらず、子どもから高齢者まで、誰もがいきいきと生きることのできる健康的な暮らしのあり方を理解する。</p> <p>[授業概要] 誰もが心身ともに健康で、いきいきと生きることのできる健康的な暮らしのあり方を考え、健康寿命の延伸と健康に関する生活の質(QOL)の向上をめざし、一人一人が自己の選択に基づいて健康を増進する。そして個人の活動を社会全体が支援していくこと健康日本21基本理念を理解し、子どもから高齢者に至るまで、健康を支えるための知識と実践力を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 復習合わせて2時間程度取り組むこと 予習:各回授業終了時に提示するテーマについて調べてくること 復習:講義内容を振り返り、まとめること</p> <p>[授業計画] 第1回 健康の概念 第2回 現代社会と健康 第3回 生活習慣病 第4回 運動疫学の基礎 第5回 健康づくり施策 第6回 健康づくり運動の基礎 第7回 成長(幼年・児童)期の健康づくり運動 第8回 青年期の健康づくり運動 第9回 中高年期の健康づくり運動 第10回 健康づくり運動の実際 第11回 運動と生体リズム・運動とメンタルヘルス 第12回 運動習慣の形成・障害者と運動・スポーツ 第13回 まとめ(健康科学の概説)</p>			

科目名	健康福祉論(ライフサイクルとQOLを含む)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 各授業内課題およびレポート(65%)、試験(35%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各授業内課題は授業後にフィードバックします。 ・レポートは添削後に返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康	講義	
担当者	木村 大輔		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

公衆衛生学は、人の健康の保持・増進を考える学問である。各種統計を理解し、社会環境と健康問題、国および地方公共団体により行われている施策、WHO等の国際機関の活動について学ぶ。

[授業概要]

公衆衛生とは、地域社会の組織的努力によって人間集団の健康保持・増進のための施策が展開されるものである。様々な施策を推進する上での基盤となるのが統計であり、公衆衛生学では、健康・疾病・行動に関する統計の概念を理解する必要がある。さらに、現行の公衆衛生活動ならびに生活環境により引き起こされる健康障害について学び、栄養士としての活動の基盤を形成する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

授業内容を復習して十分に理解し(特に教科書のデータについて)、日常の報道(新聞・TVなど)から、関連する最新の話題も常に注目すること(計2時間程度)。

[授業計画]

- 1.公衆衛生の基本・予防医学
- 2.人口統計
- 3.母子保健・学校保健・障害者保健・歯科保健
- 4.生活習慣の現状
- 5.地域保健・高齢者保健・精神保健
- 6.前半のまとめ
- 7.保険と医療と福祉の連携
- 8.環境と健康
- 9.感染症・難病
- 10.疫学概念・疫学研究・スクリーニング
- 11.疫学研究における情報の活用・倫理
- 12.保健統計の基礎
- 13.後半のまとめ

科目名	公衆衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	社会・環境と健康	講義	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 試験を実施する(100%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後解答の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 国民衛生の動向 2024/2025 著者名: 出版社名: 厚生労働統計協会 ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

P11100010 [WHB3-001]

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松田 依果		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>公衆栄養学が社会に果たす役割を理解できるようになる。 公衆栄養活動の理念を理解できるようになる。 科学的根拠に基づく公衆栄養活動の重要性が理解できるようになる。 わが国および諸外国において実施されている公衆栄養活動に共通する展開の手法を理解できるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラム(計画・実施・モニタリング・評価・フィードバック)をマネジメントするための理論を学習します。さらに、わが国及び諸外国においてどのような健康・栄養問題が存在し、その課題を解決するために展開されている栄養政策について学習します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>この科目は、社会と密接な関係がある内容を学習します。日ごろから、報道等に接し、健康・栄養問題にかかわる社会情勢を積極的に見聞しておいてください。 各回、予習復習合わせて4時間程度の学修をしましょう。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆栄養学の概念(公衆栄養学が目指すもの、公衆栄養活動) 2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題(少子高齢化問題を含む) 3. わが国の食事・食生活・食環境の変化(わが国の食糧需給他) 4. わが国の栄養政策①(公衆栄養活動の歴史、法規、管理栄養士・栄養士制度、日本人の食事摂取基準) 5. わが国の栄養政策②(国民健康・栄養調査、特別用途食品・保健機能食品プログラム、栄養成分表示プログラム) 6. わが国の栄養政策③(健康づくりのためのツール、健康日本21他) 7. 栄養疫学①(疫学の概要) 8. 栄養疫学②(食事調査方法の種類と特徴) 9. 公衆栄養マネジメント①(理論と代表的モデル) 10. 公衆栄養マネジメント②(PDCA) 11. 諸外国における健康・栄養問題の現状・課題と対策 12. 食料安全保障と公衆栄養の役割 13. これからの公衆栄養学の展望と課題 14. 試験 			

科目名	公衆栄養学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松田 依果		
<p>[成績評価方法] ①毎回の振り返りシート課題及び小課題レポート(60%)、②指定する課題についての試験(40%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは、①については採点後の授業時に全体的なコメントを、②については採点後に採点結果の全体的なコメントを掲示することによって行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:毎回実施する小課題への取組および全授業終了後に実施する試験で評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:毎回実施する小課題への取組および全授業終了後に実施する試験で評価します。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:毎回実施する小課題への取組で評価します。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:六訂公衆栄養学(Nブックス)第4版 著者名:井上浩一、小林実夏 出版社名:Nブックス ISBN:978-4767907666</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	公衆栄養学実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	糸井 亜弥			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 対象者の健康への知識や意識の向上および予防的な生活習慣に向けた行動変容を目指し、集団に対してプレゼンテーションツールを用いて健康教育を行うことができる。</p> <p>[授業概要] 人々の生活の質の向上を目指すには、地域住民や特定集団を対象とした栄養上の問題点を把握し、改善方法について考え、プランニングすることが必要である。対象となる地域住民や特定集団の食生活に関する健康問題を解決するため、人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにする方策を考え、実施・展開する方法を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前にプレゼンテーションツールのエクセル(図表作成)およびパワーポイントの基本的操作を習得しておいてください。課題に沿って期限までにグループワークによるスライドと発表原稿を作成し、提出してください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント① 3. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント② 4. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント③ 5. 疾病予防を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション 6. 食事調査と栄養素摂取量および食品群別摂取量の算出 食に関わる因子についての質問紙の作成および調査 7. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析① 8. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析② 9. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析③ 10. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析についてのプレゼンテーション 11. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント① 12. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント② 13. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション</p>				

科目名	公衆栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 発表内容(50%)、スライド・発表原稿の提出、評価シートと貢献度シートの提出・内容(30%)、授業態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] プレゼンテーション用スライドと原稿作成時に巡回してコメントします。 発表内容を学生同士で評価してもらいます。その評価値を集計し、結果を返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:プリント配布 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	公衆栄養学実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	糸井 亜弥			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 対象者の健康への知識や意識の向上および予防的な生活習慣に向けた行動変容を目指し、集団に対してプレゼンテーションツールを用いて健康教育を行うことができる。</p> <p>[授業概要] 人々の生活の質の向上を目指すには、地域住民や特定集団を対象とした栄養上の問題点を把握し、改善方法について考え、プランニングすることが必要である。対象となる地域住民や特定集団の食生活に関する健康問題を解決するため、人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにする方策を考え、実施・展開する方法を学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前にプレゼンテーションツールのエクセル(図表作成)およびパワーポイントの基本的操作を習得しておいてください。課題に沿って期限までにグループワークによるスライドと発表原稿を作成し、提出してください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント① 3. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント② 4. 疾病予防を目的とした栄養マネジメント③ 5. 疾病予防を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション 6. 食事調査と栄養素摂取量および食品群別摂取量の算出 食に関わる因子についての質問紙の作成および調査 7. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析① 8. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析② 9. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析③ 10. 食事調査結果と食に関わる因子との関連分析についてのプレゼンテーション 11. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント① 12. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメント② 13. 健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメントについてのプレゼンテーション</p>				

科目名	公衆栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 発表内容(50%)、スライド・発表原稿の提出、評価シートと貢献度シートの提出・内容(30%)、授業態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] プレゼンテーション用スライドと原稿作成時に巡回してコメントします。 発表内容を学生同士で評価してもらいます。その評価値を集計し、結果を返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート・授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容・スライド・発表原稿・評価シート・貢献度シート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:プリント配布 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	コーチング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>中学・高等学校教諭免許状(保健体育)を取得するために必要な、コーチングの目的や行動、それにまつわる哲学と倫理、スタイルについて専門的知識を理解し、適切に実践できるようにする。 グループの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>コーチが行う思考・行動およびそこで必要とされる能力を提示し、これからのスポーツ界を担う優れたコーチを養成するための基本内容を解説する。そして、コーチングの目的や行動、スタイル等について、その理論や実際及び研究から種々のスポーツ種目別のコーチングを実践できるようにし、自らのコーチ像について考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コーチングにおける目的と行動 2. コーチング哲学と倫理 3. コーチングスタイル 4. プロフェッショナルコーチとクラフトマンコーチによるコーチング 5. コーチングにおける指導行動とトレーニングサイクル 6. コーチングにおける育成行動 7. 女性・男性別コーチング、個人種目・集団種目別コーチング 8. ジュニアコーチング・ユースコーチング・ミドルレンジコーチング 9. トップアスリートコーチング・チームビルディング 10. シニアコーチング・ハンディキャップコーチング 11. スポーツ種目別コーチング① バレーボール・バスケットボール・テニス・バドミントン・卓球 12. スポーツ種目別コーチング② 陸上競技・競泳競技・体操競技・ダンス・新体操 13. スポーツ種目別コーチング③ サッカー・ラグビー・ハンドボール・柔道・剣道 			

科目名	コーチング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 授業態度およびプレゼンテーション(50%)と筆記試験(50%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内でフィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: グループワーク・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/ 国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 実技テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: コーチング学への招待 著者名: 日本コーチング学会/ 編集 出版社名: 大修館書店 ISBN: 9784469268195</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	国際健康栄養論		後期	2 単位
サブタイトル			メディア(講義)	
担当者	木村 大輔、松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 国際的知見を入手し、各国の健康事情について、歴史・文化・地理的環境・食生活を通して生活様式を分析・理解し、国境を越えたグローバルな視点から物事を捉え考える力を習得する。</p> <p>[授業概要] バラエティに富んだ各国の歴史・文化・地理的環境に触れながら、疾病や健康における問題点や日本との相違点について比較検討する。また、地域特有の食生活や医療・健康法についても学び、健康促進について考える。また担当教員が訪れた国での体験談について、スライド等を用いて紹介することで、それらの国々を身近に感じてもらう。 (木村担当/7回、松本担当/6回)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内容に関して情報(新聞・TV・インターネットなど)検索して復習し、理解を深めておくこと。(計1時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 食生活と健康① ヨーロッパ、アメリカ、西太平洋地域の食と健康 (松本 衣代) 2. 食生活と健康② アフリカ、東南アジア、東地中海地域の食と健康 (松本 衣代) 3. 食生活と健康③ NCDs(学外特別講師) (松本 衣代) 4. 食生活と健康④ Double Burden of Malnutrition (松本 衣代) 5. 食生活と健康⑤ 地球環境と食の未来 (松本 衣代) 6. まとめ・ディスカッション① (松本 衣代) 7. 感染症① (木村 大輔) 8. 感染症② (木村 大輔) 9. 生活環境(上下水・大気・地理的環境) (木村 大輔) 10. 生活環境と疾病 (木村 大輔) 11. 食生活と疾病① (木村 大輔) 12. 食生活と疾病② (木村 大輔) 13. まとめ・ディスカッション② (木村 大輔)</p> <p>順序は変更になる場合があります。</p>				

科目名	国際健康栄養論	後期	2 単位
サブタイトル		メディア(講義)	
担当者	木村 大輔、松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 課題(60%)、試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題について添削して返却・議論する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	国際健康福祉プログラム I		前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program		演習	
担当者	松本 衣代、木村 あい、野口 和美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] インドネシア・バリ島での大学病院や地域保健所等での研修や実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に付けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。</p> <p>[授業概要] インドネシア共和国国立バリ州(バリ島)にあるインドネシア国立ウダヤナ大学と神戸女子大学の提携によって企画された健康福祉プログラムで、急激な発展途上にありdouble burden of nutrition に直面するインドネシア・バリ島において、過剰と不足と言う健康問題の二極化を地域の保健所、病院、各福祉施設等の見学を通して実際に触れながら理解を深める。また、ウダヤナ大学医学部在学学生との交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。英会話の勉強を日頃よりしておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 2. インドネシアにおける共同研究と健康・栄養調査(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 3. 国際協働について(神戸国際教養学科・野口和美) 4. インドネシアの福祉事情(社会福祉学科・木村あい) 5. ウダヤナ大学における研修—インドネシア・バリ島の健康栄養問題講義(ウダヤナ大学医学部教員) 6. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学① 公立病院(ウダヤナ大学医学部教員) 7. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学② 大学附属病院(ウダヤナ大学医学部教員) 8. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学③ 保健所(都市部・農村部)(ウダヤナ大学医学部教員) 9. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学⑤ 介護老人施設等(ウダヤナ大学医学部教員) 10. ウダヤナ大学における研修—東南アジアの生活習慣病について(ウダヤナ大学医学部教員) 11. ウダヤナ大学における研修—ウダヤナ大学医学部学生とのディスカッション 12. 総合討論・まとめ(修了式)(ウダヤナ大学医学部教員) 13. 神戸女子大学での研修報告会(健康スポーツ栄養学科松本)</p>				

科目名	国際健康福祉プログラム I	前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program	演習	
担当者	松本 衣代、木村 あい、野口 和美		
<p>[成績評価方法] レポート(研修・活動報告書を含む)50%、プレゼンテーション(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション/レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	国際健康福祉プログラム I		前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program		演習	
担当者	松本 衣代、木村 あい、野口 和美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] インドネシア・バリ島での大学病院や地域保健所等での研修や実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に付けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。</p> <p>[授業概要] インドネシア共和国立バリ州(バリ島)にあるインドネシア国立ウダヤナ大学と神戸女子大学の提携によって企画された健康福祉プログラムで、急激な発展途上にありdouble burden of nutrition に直面するインドネシア・バリ島において、過剰と不足と言う健康問題の二極化を地域の保健所、病院、各福祉施設等の見学を通して実際に触れながら理解を深める。また、ウダヤナ大学医学部在学学生との交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。英会話の勉強を日頃よりしておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 2. インドネシアにおける共同研究と健康・栄養調査(健康スポーツ栄養学科・松本衣代) 3. 国際協働について(神戸国際教養学科・野口和美) 4. インドネシアの福祉事情(社会福祉学科・木村あい) 5. ウダヤナ大学における研修—インドネシア・バリ島の健康栄養問題講義(ウダヤナ大学医学部教員) 6. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学① 公立病院(ウダヤナ大学医学部教員) 7. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学② 大学附属病院(ウダヤナ大学医学部教員) 8. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学③ 保健所(都市部・農村部)(ウダヤナ大学医学部教員) 9. ウダヤナ大学における研修—地域保健施設訪問・見学⑤ 介護老人施設等(ウダヤナ大学医学部教員) 10. ウダヤナ大学における研修—東南アジアの生活習慣病について(ウダヤナ大学医学部教員) 11. ウダヤナ大学における研修—ウダヤナ大学医学部学生とのディスカッション 12. 総合討論・まとめ(修了式)(ウダヤナ大学医学部教員) 13. 神戸女子大学での研修報告会(健康スポーツ栄養学科松本)</p>				

科目名	国際健康福祉プログラム I	前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program	演習	
担当者	松本 衣代、木村 あい、野口 和美		
<p>[成績評価方法] レポート(研修・活動報告書を含む)50%、プレゼンテーション(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、評価後返却します。プレゼンテーションはルブリックを用いて評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション/レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	国際健康福祉プログラムⅡ		前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program		演習	
担当者	松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>ドイツのリハビリテーション病院での臨床栄養・健康福祉研修等の実習を通して、世界の健康・医療の問題に目を向け、運動、栄養、社会福祉と健康との関わりについて世界の現状を知り、国際感覚を身に付けて世界の舞台で活躍できる栄養や福祉の人材育成に資するきっかけを提供する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>世界的超高齢化社会を迎えた21世紀において、肥満、糖尿病等の生活習慣病の問題はドイツをはじめとしてEU諸国においても深刻である。その対応策として治療に食事療法・運動療法を効果的に取り入れ、且つ、健康・医療を社会福祉理念に基づき運営されるドイツのリハビリテーション病院(ホーエン・フロイデンシュタット病院他)における研修を行い、実学としての海外における臨床栄養、医療・社会福祉の現場を学び、また、現地の医療スタッフや患者さんたちとの交流を通して、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと、相手国の歴史、社会情勢に関心を持ち自ら学習するために本などを読む。又、英会話の勉強を日頃よりしておく。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション・ドイツの食文化について (松本) 生活習慣病を中心とした臨床栄養概論 (松本) ドイツの健康問題について①課題抽出(グループワーク)(松本) ドイツの健康問題について②発表(グループワーク)(松本) ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修① 糖尿病・肥満の栄養療法について ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修② 高血圧症の栄養療法について ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修③ 水浴療法について ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修④ 森林療法について ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑤ 運動療法について(ジム) ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑥ 運動療法について(プール) ホーエン・フロイデンシュタット病院における研修⑦ ドイツでの慢性疾患治療について 総合討論・まとめ(修了式) *5-12の担当はホーエン・フロイデンシュタット病院スタッフと松本とする 研修報告会 <p>なお、履修登録は説明会開催後に行います。履修希望者は必ず説明会に参加してください。説明会の日時は、掲示板で告知します。</p>				

科目名	国際健康福祉プログラムⅡ	前期～後期	1 単位
サブタイトル	International Health and Welfare Internship Program	演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 実習レポート(報告書)50%、報告会でのプレゼンテーション(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、評価後返却します。プレゼンテーションは、ルブリックを基に評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法:レポート/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:レポート/プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート/プレゼンテーション</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	コメディカル領域の科学演習		後期	1 単位
サブタイトル			演習	
担当者	吉川 豊、木村 大輔			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		

[到達目標]

コメディカルの現場における問題に科学的に対処できるように、臨床サンプルの基本、臨床現場における必要な統計学、バイオハザード、化学分析手法を習得することを目的とする。

[授業概要]

臨床現場で行われている内容は、検査なども含めすべて科学的知識に基づいた話で説明する事ができる。そこで、本授業では、臨床現場で用いられている化学反応や生物学的原理を理解できるように解説する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

毎回講義冒頭に前回の復習問題をやる予定です。復習をしてから講義に臨むこと。

必要に応じて高校の教科書・参考書も利用し、十分に理解すること。

理解できない部分はオフィスアワーを有効利用すること。

[授業計画]

1. オリエンテーション(木村・吉川)
2. 臨床サンプルの扱い方①(木村)
3. 臨床サンプルの扱い方②、無菌操作・滅菌処理(バイオハザードについて)(木村)
4. 遺伝子解析①(木村)
5. 遺伝子解析②(木村)
6. 免疫のしくみ・食物アレルギーについて(木村)
7. 2～6のまとめ(木村)
8. 検査値の読み方(吉川)
9. 実験装置・器具の扱い方、統計的手法の考え方(吉川)
10. 精度管理の方法(吉川)
11. 酵素分析・イムノアッセイの原理(吉川)
12. ドライケミストリー・センサーの原理(吉川)
13. 8～13のまとめ(吉川)

科目名	コメディカル領域の科学演習	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊、木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 試験</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 解答例を公表</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名:臨床分析学のサブノート 第2版 著者名:安井 裕之 著 吉川 豊 著 出版社名:京都廣川書店 ISBN:9784909197337</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	災害時の食事・栄養管理実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	松本 衣代			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 地震や風水害などの災害に備え、栄養士として必要な知識と技術を習得し、非常時には自分や家族を守るとともに、コミュニティ内でその役割を果たせる力を身につける。</p> <p>[授業概要] 近年日本で発生している災害についての基礎知識を身につけ、過去の災害時における食事状況を把握します。その上で、ライフラインの停止時や復旧後など、段階ごとに食品の仕分けや調理方法を考案・実施します。また、防災センターを見学したり、実際に街を歩いて避難所までの避難経路に危険がないかを確認したりすることで、グループワークを通じて知識と判断力を養います</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の授業に向けて、予習と復習を合わせておおよそ2時間程度行ってください。 自然災害に関する新聞記事や資料を読み、内容をよく理解しておいてください。また、コンビニやスーパーの食品売り場を見て、保存性が高く簡単に調理できる食品を調べるなど、災害時に役立つ予習も進めておいてください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 災害についての基本的知識① 3. 災害についての基本的知識② 4. 災害についての基本的知識③ 5. 防災センター見学 6. 災害時の「食」「生活」の対処方法① 7. 災害時の「食」「生活」の対処方法② 8. 災害時の「食」「生活」の対処方法③ 9. 災害時の「食」「生活」の対処方法④ 10. 災害時の「食」「生活」の対処方法⑤ 11. 災害時の「支援」について① 12. 災害時の「支援」について② 13. まとめ ※ 順序が入れ替わる場合があります。</p>				

科目名	災害時の食事・栄養管理実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] レポート・献立作成(40%)、発表・実技(40%)、授業態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート・献立は、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・実技</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/ 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 発表・実技</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 発表・実技・授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・発表・実技</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 実技</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート・実技</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	社会福祉援助技術		前期	1 単位
サブタイトル	社会福祉援助の理解と実践		演習	
担当者	曾田 里美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標] 社会福祉援助に係る知識、技術を実践的に修得する。また、それらの技術が対人関係において活用できるようになる。</p> <p>[授業概要] 演習を通して、自己理解と他者理解を深めるとともに、基本的なコミュニケーション技術について学びます。また、具体的な社会福祉援助事例の検討を通して、援助に係る価値、知識、技術を理解します。これらを通して社会福祉援助の特徴を修得していきます。 授業では、担当教員の児童福祉施設での実践経験やそこで得た知見を伝え、社会福祉援助の実際を感じ取る授業を展開します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回の講義について予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。 前回の授業内容を復習し理解しておくとともに、日頃から授業に関係するニュース等に関心をもつようにする。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 自己理解 3. 他者理解 4. 他者(利用者)理解 5. 受容と非審判的態度 6. 人権 7. 差別と偏見 9. 社会的排除と社会的包摂 10. 個別化 11. 自己決定 12. ストレングスの視点 13. まとめ</p>				

科目名	社会福祉援助技術	前期	1 単位
サブタイトル	社会福祉援助の理解と実践	演習	
担当者	曾田 里美		
<p>[成績評価方法] 授業の参加・態度(20点)と毎回の授業の振り返り(30点)レポート試験(50点)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回の授業の振り返りはコメントをつけて返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業の参加・態度、授業の振り返り、レポート試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 授業の参加・態度、授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業の参加・態度、授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業の参加・態度、授業の振り返り、レポート試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業の参加・態度、授業の振り返り、レポート試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 社会や環境と健康との関係、社会福祉の基本的知識(価値・知識・技術)をふまえて、これからの栄養士に求められる役割について説明できる。</p> <p>[授業概要] 栄養士養成カリキュラムの「社会生活と健康」として、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的を出発点に、社会福祉の歴史、思想・哲学・理論、対象、援助方法・技術、法律・制度などの基本的知識を理解するとともに、公的扶助、高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、地域福祉の各分野における社会福祉のしくみと栄養士の役割について学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回についての予習・復習(4時間程度) 【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。 【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション／生活を支える「食」と「社会福祉」(第1章) 2. 社会福祉の意味と対象①:歴史(第2章) 3. 社会福祉の意味と対象②:思想・哲学・理論(第2章) 4. 社会福祉の意味と対象③:対象とニーズ(第2章) 5. 私たちの生活と社会保障(第3章) 6. 社会福祉における援助の方法(第10章) 7. 社会福祉実践の場と専門職(第11・12章) 8. 公的扶助(第4章) 9. 高齢者福祉(第5章) 10. 児童家庭福祉(第6章) 11. 障害者福祉(第7章) 12. 地域福祉(第8章) 13. まとめ</p>			

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[成績評価方法] コミュニケーションカード(20%)、レポート(30%)、試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 七訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉 著者名: 岩松珠美・真鍋頭久編 出版社名: みらい ISBN: 9784860156565</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 社会や環境と健康との関係、社会福祉の基本的知識(価値・知識・技術)をふまえて、これからの栄養士に求められる役割について説明できる。</p> <p>[授業概要] 栄養士養成カリキュラムの「社会生活と健康」として、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的を出発点に、社会福祉の歴史、思想・哲学・理論、対象、援助方法・技術、法律・制度などの基本的知識を理解するとともに、公的扶助、高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、地域福祉の各分野における社会福祉のしくみと栄養士の役割について学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回についての予習・復習(4時間程度) 【予習】教科書の指定範囲を熟読し、コミュニケーションカードの課題に取り組む。 【復習】授業を振り返り、理解が不十分な点や関心を抱いた点、新たに学修した専門用語などを再確認する。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション／生活を支える「食」と「社会福祉」(第1章) 2. 社会福祉の意味と対象①:歴史(第2章) 3. 社会福祉の意味と対象②:思想・哲学・理論(第2章) 4. 社会福祉の意味と対象③:対象とニーズ(第2章) 5. 私たちの生活と社会保障(第3章) 6. 社会福祉における援助の方法(第10章) 7. 社会福祉実践の場と専門職(第11・12章) 8. 公的扶助(第4章) 9. 高齢者福祉(第5章) 10. 児童家庭福祉(第6章) 11. 障害者福祉(第7章) 12. 地域福祉(第8章) 13. まとめ</p>			

科目名	社会福祉論	前期	2 単位
サブタイトル	栄養士のための社会福祉	講義	
担当者	渡辺 晴子		
<p>[成績評価方法] コミュニケーションカード(20%)、レポート(30%)、試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 原則、授業内にフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: コミュニケーションカード、レポート、試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 七訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉 著者名: 岩松珠美・真鍋頭久編 出版社名: みらい ISBN: 9784860156565</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 子どもから高齢者にわたる発育発達および健康維持を目的とする生涯スポーツに必要とされる基本的動作や身体能力および運動がもたらす生理的効果について解説できるようにする。また、心理的、社会的効果についても理解を深め、ライフデザインに応用できるようにする。</p> <p>[授業概要] 生涯にわたる発育・発達過程と基本的動作や運動能力、発達に影響する先天的・後天的要因および老化と体力の関係について理解する。また、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解し、運動がもたらす生理、心理、社会的な効果と関連づけながら、運動習慣の確立のための適切な動機づけについて理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. 年齢に応じた体力づくり(健康・体力の現状と課題) 2. 発育発達に影響する要因(遺伝・環境・ライフサイクルと運動実践の有無等) 3. 身体機能の発達(呼吸・循環器系、神経系、代謝)、体重の管理、応急処置 4. 成長期における体力(筋力・持久的能力)、高齢者のスポーツ 5. 1～4のまとめ、筋の動きとウォーキング 6. 年齢に応じた体力と運動能力(基本的動作スキル)の発達、老化と運動 7. 姿勢とバランス能力、障害者のアダプテッド・スポーツ 8. 行動変容と運動習慣動機づけ(行動パターンと生活習慣病、動機づけの過程)、運動習慣の確立(生理・心理・社会的効果と運動継続の促進方法) 9. 5～8のまとめ、バランストレーニング、スポーツと心 10. スポーツ心理学①(目標設定、自己決定感および自己効力感、ピークパフォーマンス) 11. スポーツ心理学②(メンタルトレーニング、イメージトレーニング、リラクゼーショントレーニング) 12. スポーツ心理学③(リーダーシップ、スポーツ集団の心理、競技の心理、精神力と自信) 13. 9～12のまとめ、キラーストレスとマインドフルネス</p>			

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] 3回の理解度確認試験(30%×3)、提出物(10%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認試験を回収後、解答の解説を行います。 提出物は、webシステムで解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>子どもから高齢者にわたる発育発達および健康維持を目的とする生涯スポーツに必要とされる基本的動作や身体能力および運動がもたらす生理的効果について解説できるようにする。また、心理的、社会的効果についても理解を深め、ライフデザインに応用できるようにする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>生涯にわたる発育・発達過程と基本的動作や運動能力、発達に影響する先天的・後天的要因および老化と体力の関係について理解する。また、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解し、運動がもたらす生理、心理、社会的な効果と関連づけながら、運動習慣の確立のための適切な動機づけについて理解する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業を復習し、理解できるようにノート整理をする。また、次回の授業に関連する内容について予習する(4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢に応じた体力づくり(健康・体力の現状と課題) 2. 発育発達に影響する要因(遺伝・環境・ライフサイクルと運動実践の有無等) 3. 身体機能の発達(呼吸・循環器系、神経系、代謝)、体重の管理、応急処置 4. 成長期における体力(筋力・持久的能力)、高齢者のスポーツ 5. 1～4のまとめ、筋の動きとウォーキング 6. 年齢に応じた体力と運動能力(基本的動作スキル)の発達、老化と運動 7. 姿勢とバランス能力、障害者のアダプテッド・スポーツ 8. 行動変容と運動習慣動機づけ(行動パターンと生活習慣病、動機づけの過程)、運動習慣の確立(生理・心理・社会的効果と運動継続の促進方法) 9. 5～8のまとめ、バランストレーニング、スポーツと心 10. スポーツ心理学①(目標設定、自己決定感および自己効力感、ピークパフォーマンス) 11. スポーツ心理学②(メンタルトレーニング、イメージトレーニング、リラクゼーショントレーニング) 12. スポーツ心理学③(リーダーシップ、スポーツ集団の心理、競技の心理、精神力と自信) 13. 9～12のまとめ、キラーストレスとマインドフルネス 			

科目名	生涯スポーツ科学(スポーツ心理学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] 3回の理解度確認試験(30%×3)、提出物(10%)により評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 理解度確認試験を回収後、解答の解説を行います。 提出物は、webシステムで解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験と提出物</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食生活論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 『食』を核として食の営みを学ぶことを目的としている。 食生活を理解するためには、栄養学・食品学・食品衛生学などに関する幅広い自然科学的な知識を基礎として、食生活の歴史や食の文化、食環境、現代の食生活事情といった食に関する人文・社会科学的な側面から捉えることが必要である。我々の食生活について、現状と課題を20分程度で説明できようになることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 本講義では、到達目標で述べたような講義内容に加え、各種の新聞が取り上げている食に関わる記事に対する感想や意見をレポートにまとめたり、食文化についてグループ討議した内容を発表するなどの機会を設ける。 この講義を通して、人間が生きていく上で最も重要とされる『食』について、豊かな発想で考えてみて欲しい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業の復習を心がけること。 食に関する新聞記事などに関心を持つこと。 (各回、予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 食生活の概念、食生活と健康 2. 食文化と食育 3. ライフスタイルと食生活 4. 食の安全と食生活の展望 5. グループ討議① 食生活に関する課題の提議 6. グループ討議② 課題に関する科学的根拠の検索 7. グループ討議③ 課題に関する他者からの意見聞き取り 8. グループ討議④ 発表会のための資料作成 9. 発表会① 10. 発表会② 11. 発表会③ 12. 発表会④ 13. まとめ</p>			

科目名	食生活論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度15%, グループ討議及び発表評価50%, レポート35%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・グループ討議及び発表は講評を行う ・レポートは基本的にmanaba への提出とし、総評する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度, グループ討議及び発表評価, レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: グループ討議及び発表評価, レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 授業態度, グループ討議及び発表評価, レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループ討議及び発表評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: グループ討議及び発表評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	食生活論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

『食』を核として食の営みを学ぶことを目的としている。

食生活を理解するためには、栄養学・食品学・食品衛生学などに関する幅広い自然科学的な知識を基礎として、食生活の歴史や食の文化、食環境、現代の食生活事情といった食に関する人文・社会科学的な側面から捉えることが必要である。我々の食生活について、現状と課題を20分程度で説明できようになることを目標とする。

[授業概要]

本講義では、到達目標で述べたような講義内容に加え、各種の新聞が取り上げている食に関わる記事に対する感想や意見をレポートにまとめたり、食文化についてグループ討議した内容を発表するなどの機会を設ける。

この講義を通して、人間が生きていく上で最も重要とされる『食』について、豊かな発想で考えてみて欲しい。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

前回の授業の復習を心がけること。

食に関する新聞記事などに関心を持つこと。

(各回、予習復習合わせて4時間程度)

[授業計画]

1. 食生活の概念、食生活と健康
2. 食文化と食育
3. ライフスタイルと食生活
4. 食の安全と食生活の展望
5. グループ討議① 食生活に関する課題の提議
6. グループ討議② 課題に関する科学的根拠の検索
7. グループ討議③ 課題に関する他者からの意見聞き取り
8. グループ討議④ 発表会のための資料作成
9. 発表会①
10. 発表会②
11. 発表会③
12. 発表会④
13. まとめ

科目名	食生活論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度15%, グループ討議及び発表評価50%, レポート35%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・グループ討議及び発表は講評を行う ・レポートは基本的にmanaba への提出とし、総評する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度, グループ討議及び発表評価, レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: グループ討議及び発表評価, レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 授業態度, グループ討議及び発表評価, レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: グループ討議及び発表評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: グループ討議及び発表評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>人間を取り巻く諸条件は全て健康にかかわりを持つが、特に食品は何にも増して生命と健康の維持に直接かかわりを持つことから、食品を本来の姿に保ち、飲食物による危害を防止し健康の維持増進を図るための知識・技術を習得し、加えて自然科学を超えた社会道徳的概念を理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>食品の生育・栽培、生産・製造から加工・調理を経て、最終的にヒトに摂取されるまでの間のあらゆる段階において、その安全性、健全性および変質防止を確保する手段について、その公衆衛生学的重要性の認識と科学的根拠に基づく食品の衛生管理法について学ぶ。即ち、微生物学、公衆衛生学、疫学、感染症学、食品加工学、生化学など多くの基礎科学を基盤として成り立つ食品衛生学を人の健康を守るための実学として学んでゆく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習して十分に理解し、次回の授業の予習をしておくこと(計4時間程度)。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食品衛生とは: 食品衛生の目的、食品衛生管理の概要 2. 消毒と殺菌 3. 食品の変質とその防止 4. 食中毒(1)発生状況 5. 食中毒(2)細菌性食中毒 6. 食中毒(3)細菌性食中毒・ウイルス性食中毒他 7. 食中毒(4)自然毒 8. 前半のまとめ・グループディスカッション 9. 腐敗・変敗・酸敗 10. 食品の安全性: 食品添加物、輸入食品、遺伝子組み換え食品など 11. 食品の表示・容器包装 12. 食品衛生行政と関係法規 13. まとめ 			

科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 筆記試験(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、問題の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:食品衛生学 新訂 著者名:伊藤 武 出版社名:建帛社 ISBN:9784767906461</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>人間を取り巻く諸条件は全て健康にかかわりを持つが、特に食品は何にも増して生命と健康の維持に直接かかわりを持つことから、食品を本来の姿に保ち、飲食物による危害を防止し健康の維持増進を図るための知識・技術を習得し、加えて自然科学を超えた社会道徳的概念を理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>食品の生育・栽培、生産・製造から加工・調理を経て、最終的にヒトに摂取されるまでの間のあらゆる段階において、その安全性、健全性および変質防止を確保する手段について、その公衆衛生学的重要性の認識と科学的根拠に基づく食品の衛生管理法について学ぶ。即ち、微生物学、公衆衛生学、疫学、感染症学、食品加工学、生化学など多くの基礎科学を基盤として成り立つ食品衛生学を人の健康を守るための実学として学んでゆく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習して十分に理解し、次回の授業の予習をしておくこと(計4時間程度)。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食品衛生とは: 食品衛生の目的、食品衛生管理の概要 2. 消毒と殺菌 3. 食品の変質とその防止 4. 食中毒(1)発生状況 5. 食中毒(2)細菌性食中毒 6. 食中毒(3)細菌性食中毒・ウイルス性食中毒他 7. 食中毒(4)自然毒 8. 前半のまとめ・グループディスカッション 9. 腐敗・変敗・酸敗 10. 食品の安全性: 食品添加物、輸入食品、遺伝子組み換え食品など 11. 食品の表示・容器包装 12. 食品衛生行政と関係法規 13. まとめ 			

科目名	食品衛生学	前期	2 単位
サブタイトル	食の安全性及び衛生管理	講義	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 筆記試験(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験終了後、問題の解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/世界の食文化および世界の栄養学的現状を理解し、世界の健康に寄与するリーダーと成りうる資質(自立心・対話力・創造性)を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:食品衛生学 新訂 著者名:伊藤 武 出版社名:建帛社 ISBN:9784767906461</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。 また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。 また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>2年前期「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。実験は複数週に亘って行われる回もあるため、実験前日には前回の内容を復習しておくこと。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存しておくこと。(計2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明) 基本操作・基本技術、滅菌と消毒 培地作成法、各種培養法 手指の衛生実験、ブドウ球菌の分離培養・同定法 腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法 食品の細菌学的検査(1前半)、調理器具の衛生試験(前半) 食品の細菌学的検査(1後半)、調理器具の衛生試験(後半)、食品の細菌学的検査(2前半) 食品の細菌学的検査(2後半) 食品からの寄生虫検出 飲料水の水質検査および細菌学的検査 理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製、合成着色料の検査(1) 合成着色料の検査(2) 発色剤の検査(1) 発色剤の検査(2) 			

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] レポート(80%)、取組み姿勢(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

P11100150A [WHI2-002]

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>食品衛生に興味と関心を持ち、食の安全性を通して健康を考える。 また、食品中の微生物や化学物質について理解し、それらの検査のための基本的な知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>基本的な微生物取り扱い操作法、培地作成法や標本観察法等を習得した後、各種培養法や染色法、代表的な細菌の分離・同定法や食品中の生菌数測定法等の実験を通して、微生物の性質を理解する。 また、食品中の添加物や飲料水の成分の検査方法を習得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>2年前期「食品衛生学」の講義内容を、必要に応じて復習すること。実験は複数週に亘って行われる回もあるため、実験前日には前回の内容を復習しておくこと。また、新聞や雑誌などの食品衛生や食中毒に関する記事に関心を持ち、できれば保存しておくこと。(計2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(実験をするに当たっての諸注意、説明) 基本操作・基本技術、滅菌と消毒 培地作成法、各種培養法 手指の衛生実験、ブドウ球菌の分離培養・同定法 腸内細菌科(大腸菌など)の分離培養・同定法 食品の細菌学的検査(1前半)、調理器具の衛生試験(前半) 食品の細菌学的検査(1後半)、調理器具の衛生試験(後半)、食品の細菌学的検査(2前半) 食品の細菌学的検査(2後半) 食品からの寄生虫検出 飲料水の水質検査および細菌学的検査 理化学的検査のオリエンテーション、試薬調製、合成着色料の検査(1) 合成着色料の検査(2) 発色剤の検査(1) 発色剤の検査(2) 			

科目名	食品衛生学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] レポート(80%)、取組み姿勢(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは後日添削して返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度・レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。 食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコルのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方、実験に必要な計算方法の習得 2. 緩衝液と検量線のガイダンス、マイクロピペットの使い方 3. 緩衝液の作成 4. 検量線の作成と未知化合物の定量 5. 6. ~9. の実験のガイダンス 6. 食品中の有機酸の定量 7. 食品中のカルシウム定量 8. 食品中のビタミンCの定量 9. 食品中のポリフェノールの定量 10. 11. ~13. の実験のガイダンス 11. 脂質の変敗試験 12. 食品の非酵素的褐変 13. 食品の酵素的褐変 <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] レポート</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>実験を行う上での基本である、緩衝液、検量線を学ぶ。 食品に関する実験で、食品を構成する主要成分などの特性を理解し、基本的な器具の取扱い、試薬の調製法など食品分析に必要な知識を習得し、得られた結果をまとめて考察する力をつける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>食品成分の分離、定量分析、成分変化試験などを行って得られた知見により食品の特性を考察する。この実験で得られた食品に関する科学的な知識・技術は健康な食生活に生かすことができる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコルのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の一般的注意、実験器具の取り扱い方、レポートの書き方、実験に必要な計算方法の習得 2. 緩衝液と検量線のガイダンス、マイクロピペットの使い方 3. 緩衝液の作成 4. 検量線の作成と未知化合物の定量 5. 6. ~9. の実験のガイダンス 6. 食品中の有機酸の定量 7. 食品中のカルシウム定量 8. 食品中のビタミンCの定量 9. 食品中のポリフェノールの定量 10. 11. ~13. の実験のガイダンス 11. 脂質の変敗試験 12. 食品の非酵素的褐変 13. 食品の酵素的褐変 <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	食品学実験	後期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] レポート</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/ 食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1/ 地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心をもち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。</p> <p>[授業概要] 人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分(味、香、色の成分)の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中における食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[授業計画] 1. 人間と食品 2. 水分 3. ビタミンとミネラル 4. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分① 5. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分② 6. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分③ 7. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分④ 8. 食品の栄養価と機能性 9. 食品成分の変化① 10. 食品成分の変化② 11. 食品の物性① 12. 食品の物性② 13. 試験</p>			

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:食品学Ⅰ 著者名:吉川 豊 出版社名:学文社 ISBN:9784762033414</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食品学総論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	吉川 豊			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <p>栄養士として必要な食品に関する正確な知識を得、食品を科学的に理解することを目的とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>人間が健康な食生活を送るためには、食品の特性を把握しておくことが重要である。そこで、本授業では食品を構成する成分、微量成分および特殊成分(味、香、色の成分)の特性を科学的に解説する。合わせて、調理、加工、保蔵中における食品成分の変化、食品の物性、および機能性などについて総合的に解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と食品 2. 水分 3. ビタミンとミネラル 4. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分① 5. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分② 6. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分③ 7. 食品中の栄養素・嗜好成分・有害成分④ 8. 食品の栄養価と機能性 9. 食品成分の変化① 10. 食品成分の変化② 11. 食品の物性① 12. 食品の物性② 13. 試験 				

科目名	食品学総論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:小テストを含む試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:食品学Ⅰ 著者名:吉川 豊 出版社名:学文社 ISBN:9784762033414</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 食品加工学は栄養士免許必修科目であり、管理栄養士国家試験で頻出している分野である。栄養士に留まらず、管理栄養士に求められる知識の習得を目指し、食品加工学全般について理解し、説明できる。</p> <p>[授業概要] 現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本講義では、管理栄養士国家試験出題基準に準拠した教科書に沿って、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に授業のテキストを熟読してください。 事後は授業内容を復習し、理解を深めてください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. 加工食品と食生活、食品の保蔵 2. 食品加工の操作 3. 食品の包装、食品加工の技術 4. 食品加工と成分変化、食品添加物と加工食品の安全性確保 5. 保健機能食品と特別用途食品 6. 食品の表示と規格 7. 農産加工 8. 畜産加工 9. 水産加工 10. 発酵食品 11. 調味料・嗜好食品 12. インスタント食品、食用油脂、コピー食品 13. まとめ</p>			

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 試験(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 練習問題集を配布します。manabaに掲示する解答を確認し、答え合わせをしてください。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:五訂 食品加工学 著者名:北尾 悟 出版社名:建帛社 ISBN:9784767907192</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>食品加工学は栄養士免許必修科目であり、管理栄養士国家試験で頻出している分野である。栄養士に留まらず、管理栄養士に求められる知識の習得を目指し、食品加工学全般について理解し、説明できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本講義では、管理栄養士国家試験出題基準に準拠した教科書に沿って、食品の加工および保蔵の方法、加工に伴う成分変化とその安全性、加工食品の規格基準と品質表示、各種食品の製造工程などについて学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前に授業のテキストを熟読してください。 事後は授業内容を復習し、理解を深めてください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加工食品と食生活、食品の保蔵 2. 食品加工の操作 3. 食品の包装、食品加工の技術 4. 食品加工と成分変化、食品添加物と加工食品の安全性確保 5. 保健機能食品と特別用途食品 6. 食品の表示と規格 7. 農産加工 8. 畜産加工 9. 水産加工 10. 発酵食品 11. 調味料・嗜好食品 12. インスタント食品、食用油脂、コピー食品 13. まとめ 			

科目名	食品加工学(食品微生物学を含む)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 試験(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 練習問題集を配布します。manabaに掲示する解答を確認し、答え合わせをしてください。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:五訂 食品加工学 著者名:北尾 悟 出版社名:建帛社 ISBN:9784767907192</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 食品加工学の講義で学んだ知識に加え、実際に加工食品を製造することによって、加工食品がもっている長所と短所について理解し、判別できる。</p> <p>[授業概要] 現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本実習では、代表的な加工食品を原材料から作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性について理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に実習書(配布プリント)を熟読し、製造工程の手順について理解しておいてください。 実習に関連する食品加工学の講義内容を参考に予習をしておいてください。 衛生面について十分な準備をして実習に臨んでください。 事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出してください。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 小麦粉の加工:うどん 3. 小麦粉の加工:パン 4. 小麦粉の加工:ケーキ 5. 果物の加工:ジャム 6. 果物の加工:みかんのシロップ漬け 7. 大豆の加工:豆腐 8. 食肉の加工:ウインナーソーセージ 9. 乳類の加工:合成酸乳飲料 10. 乳類の加工:チーズ・キャラメル・バター 11. 小豆の加工:和菓子 12. いもの加工:こんにゃく チョコレート加工:ガナッシュ(生チョコレート) 13. 講義 まとめ</p>			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:プリント配布 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:五訂 食品加工学 著者名:北尾 悟 出版社名:建帛社 ISBN:9784767907192</p>			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 食品加工学の講義で学んだ知識に加え、実際に加工食品を製造することによって、加工食品がもっている長所と短所について理解し、判別できる。</p> <p>[授業概要] 現代の食生活において、簡便性、調理の時短化などによる加工食品への依存度は高まる一方、加工食品への安全性や健康に関する問題も指摘されている。健全な食生活の実現には、加工食品についての正しい知識の習得が必要である。本実習では、代表的な加工食品を原材料から作り、製造原理、基本的な加工技術、食の安全性について理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に実習書(配布プリント)を熟読し、製造工程の手順について理解しておいてください。 実習に関連する食品加工学の講義内容を参考に予習をしておいてください。 衛生面について十分な準備をして実習に臨んでください。 事後は課題に沿って復習し、レポートを作成、提出してください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 小麦粉の加工:うどん 3. 小麦粉の加工:パン 4. 小麦粉の加工:ケーキ 5. 果物の加工:ジャム 6. 果物の加工:みかんのシロップ漬け 7. 大豆の加工:豆腐 8. 食肉の加工:ウインナーソーセージ 9. 乳類の加工:合成酸乳飲料 10. 乳類の加工:チーズ・キャラメル・バター 11. 小豆の加工:和菓子 12. いもの加工:こんにやく チョコレート加工:ガナッシュ(生チョコレート) 13. 講義 まとめ 			

科目名	食品加工学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 授業態度(70%)、レポート提出状況と内容(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:プリント配布 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:五訂 食品加工学 著者名:北尾 悟 出版社名:建帛社 ISBN:9784767907192</p>			

科目名	身体運動実習 I (ダンス)		前期	1 単位
サブタイトル	ダンスを踊る、創る、見る、そして教える		実習	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動(エアロビックダンス)について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。</p> <p>②創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスにおける実践と指導力を養う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①エアロビックダンスの基礎的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。</p> <p>②性・年齢・体力に応じた運動強度の水準の違いを理解した上で目的に応じたプログラムの内容を作成し実践する。</p> <p>③創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの技能を高め、指導法を学ぶ。</p> <p>④既存の動きにとらわれない、オリジナルの動き方を見つける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から音楽、映画、絵画、造形物などの芸術作品に触れ、自分が感じたこと(感性)を豊かにすること。また、日常生活の中で感じたことを動きや表情で具体化できるようにすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(エアロビックダンスをはじめとするダンスの種類について) 2. エアロビックダンスの特性、健康効果について 3. エアロビックダンスの運動強度やエネルギー消費量について 4. エアロビックダンスの指導者の役割、見本の見せ方、良い立位姿勢などについて 5. 安全に行うための運動プログラムの構成、実践場所、服装などについて 6. キューイング、アイコンタクト、段階指導および運動前・中・後の安全性に配慮した指導 7. 現代的なリズムのダンス・フォークダンス 8. 創作ダンス 9. パフォーマンスのためのプログラム作成(ウォーミングアップとクールダウンを含む) 10. 作品づくり(1) 11. 作品づくり(2) 12. 作品づくり(3) 13. エアロビックダンス・ダンス発表会 				

科目名	身体運動実習 I (ダンス)	前期	1 単位
サブタイトル	ダンスを踊る、創る、見る、そして教える	実習	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 受講態度 (50%)、実技テスト・課題レポート (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] レポート等は授業内や後日に返却します。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-2 / 健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・小テスト</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力 (思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力 (コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力 (問題解決力・創造性) を身に付けている。 成績評価方法: グループワーク</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ (知識・技術の向上および最新情報の収集を行う) 能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 責任感 / 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	身体運動実習Ⅱ(ジョギング)	前期	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング	実習	
担当者	大沼 勇人、西山 清子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 健康保持・増進としたウォーキングやジョギングを目的とし、その特徴や運動内容を理解する。</p> <p>[授業概要] ジョギング・ウォーキングについて基礎的な知識を理解した上で、安全で効果的な動きができる技術能力を養う。性・年齢・体力の違いによって速度や生体反応が異なることを理解する。また、ストレッチングの理論を理解し、各部位のストレッチング方法を実践する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ジョギングやランニングに関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。また、ジョギングやランニングで興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。</p> <p>[授業計画] 1. ウォーキングとジョギングの特性を理解し両者について説明できる。 2. ウォーキングとジョギングにより期待される健康効果について説明できる。 3. 健康づくりに必要なウォーキングとジョギングの目標時間、頻度について説明できる。 4. ウォーキングやジョギング速度の調節の仕方を教示でき、健康づくりに有効で安全な運動強度を指導できる。 5. 基本的なフォームを習得し、個人に合った正しいフォームが実践できるようサポートができる。 6. 安全に行うための運動前、運動中、運動後の健康管理、注意事項(水分補給)について喚起できる。 7. 至適運動強度の指標として脈拍の正しい測り方やRPEの利用について実践と指導ができる。 8. 起こりうる傷害を理解し、シューズや服装選択のアドバイスができる。 9. ウォーキングやジョギングに適したウォームアップ、クールダウンをプログラミングし、指導する。 10. 安全にウォーキングやジョギングを行うためのコース選択の視点について説明できる。 11. ウォーキングのプログラム作成 12. ジョギングのプログラム作成 13. まとめ</p>			

科目名	身体運動実習Ⅱ(ジョギング)	前期	1 単位
サブタイトル	エクササイズ・ウォーキング	実習	
担当者	大沼 勇人、西山 清子		
<p>[成績評価方法] 受講態度(60%)、個人スキル(10%)、運動プログラム作成(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 運動プログラム作成は添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 個人スキル</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 運動プログラム作成</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 運動プログラム作成</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 運動プログラム作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 運動プログラム作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 個人スキル・運動プログラム作成</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	身体運動実習Ⅲ(水泳)	前期	1 単位
サブタイトル	水泳・エクササイズ	実習	
担当者	大沼 勇人、西山 清子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

健康・体力づくりを目的とした水泳・水中運動(ウォーターエクササイズ)について、その特徴や運動内容を理解する。また、目的に応じたプログラムの作成と実践力を養う。

[授業概要]

水泳・水中運動の基本的な知識を理解した上で、安全に効果的な動きができるよう技術能力を養う。また、各種泳法と水中エアロビクスを構成する各種運動・動作の実践力を養い、運動プログラムを作成し、指導上の注意点および安全対策を理解する。(西山担当/13回・大沼担当/13回)

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

水泳と水中歩行そして水中運動について、映像や体験を通して関心をたかめておく。また、興味と関心または問題点について調べておく。

[授業計画]

1. 水中運動と陸上運動の違い(西山・大沼)
2. 水泳・水中運動の特性と効果(西山・大沼)
3. 水泳・水中運動の利点と問題点(西山・大沼)
4. 水泳運動(浮き身、ストリームライン)(西山・大沼)
5. 水泳運動(腕・脚の動かし方、呼吸の練習)(西山・大沼)
6. 水泳運動のプログラム作成と指導上の注意点(西山・大沼)
7. 水中運動(立ち方、脚・腕を動かし抵抗感を知る)、運動強度のコントロール(西山・大沼)
8. 水中運動(歩く・走るの速さの変化)、心拍数と運動強度の関係(西山・大沼)
9. 水中運動のプログラム作成と指導上の注意点(健康人、腰痛者、妊婦などを対象)(西山・大沼)
10. 水中エアロビクス(1)(西山・大沼)
11. 水中エアロビクス(2)(西山・大沼)
12. 水中エアロビクス(3)(西山・大沼)
13. 発表・まとめ(西山・大沼)

2025年度日程および内容

実施場所:ポートアイランド・スポーツセンター(P)
YMCAファミリーウエルネスセンター(Y)

日程・時限は前期授業開始時に、Manabaを通じて連絡を行なう。
場所・集合時間などの詳細はmanabaに記載するため要確認すること

科目名	身体運動実習Ⅲ(水泳)	前期	1 単位
サブタイトル	水泳・エクササイズ	実習	
担当者	大沼 勇人、西山 清子		
<p>[成績評価方法] 授業の取り組み姿勢(50%)、発表(40%)、個人スキル(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内でお知らせします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 発表・個人スキル</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 授業の取り組み姿勢・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 授業の取り組み姿勢・発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 発表・個人スキル</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業の取り組み姿勢・発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・個人スキル</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	スポーツ医学	前期	2 単位
サブタイトル	スポーツの身体への影響	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	反転授業	
ディスカッション・ディベート	グループワーク	
プレゼンテーション	実習、フィールドワーク	
その他	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

現在では、アスリート/スポーツ選手だけでなく多くの人々が体力の向上のために、また、高齢者は活動レベルの維持や向上のために、スポーツ/運動を行っている。スポーツでは選手どうしの接触、衝突による外傷や過度の練習などによるオーバーユースによる整形外科的障害が起こりうる。また、既存の内科的疾患に影響を与えたり、内科的疾患を誘発したりすることもあり得る。さらには、スポーツによる体力維持のための栄養学的問題など、多くの医学に関わる問題がある。したがって、スポーツ医学では、医師(スポーツドクター)のみならず、理学療法士、保健師、看護師、栄養士、マッサージ師、トレーナー、コーチ等多くの職種の専門家がチームとして参画することが多い。このような状況の下、「スポーツ医学」では、スポーツ/運動と栄養を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、スポーツ/運動に関係する人体の解剖・生理等について学びを深め、スポーツ/運動による健康増進効果とスポーツ/運動によって起こる外傷や整形外科的・内科的障害を理解し、スポーツ/運動を行う上で必要な健康管理についてわかりやすく説明できるようになることを到達目標としている。

[授業概要]

スポーツ/運動に関係する人体の解剖・生理、スポーツによって起こる、外傷や整形外科的・内科的障害、スポーツ/運動による体力維持のための栄養学的問題などについて、医師免許を有する教員が講義を行う。経験的、実践的な部分については、学外特別講師による講義を予定している。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

・「健康医学入門」「解剖生理学」「臨床医学概論」「応急手当実習」の知識が基本となる。特に「解剖生理学」「応急手当実習」の知識を確認しておくこと。
 ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度必要とする。

[授業計画]

01. オリエンテーション&運動器の仕組みと働き(骨・関節・筋肉) 4/9(水)2限
02. 運動器の仕組みと働き(筋肉)4/16(水)2限
03. 運動器の仕組みと働き(神経系基礎 神経から筋肉へ刺激伝達の仕組み)4/24(水)2限
04. 運動器の仕組みと働き(神経伝導路・神経反射)5/7(水)2限
05. アスリートの外科・整形外科的外傷・障害と対策①[学外特別講師・斎藤] 5/14(水)2限
06. アスリートの外科・整形外科的外傷・障害と対策②[学外特別講師・斎藤] 5/21(水)2限
07. エネルギー供給の仕組みとスポーツ 5/28(水)2限
08. 呼吸器・循環器とスポーツ 6/4(水)2限
09. 血液・体液&内分泌とスポーツ 6/12(水)2限
10. メディカル&アスレチックリハビリテーション[学外特別講師・斎藤] 6/18(水)2限
11. コンディショニング&トレーニングの基礎と実際[学外特別講師・斎藤] 6/27(金)5限 <6/25は休講>
12. 女性とスポーツ&ドーピング 7/2(水)2限
13. アスリートの健康管理(コンディショニング・メディカルチェックの実際)&補足とまとめ 7/9(水)2限
 (学外特別講師の予定によって、また、授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)

科目名	スポーツ医学	前期	2 単位
サブタイトル	スポーツの身体への影響	講義	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[成績評価方法] 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%（履修学生に周知の上、配分を変える場合がある） 再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。 レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。</p> <p>[オフィスアワー（質問等の受付方法）] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養1-1／栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養2-1-1／小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養3-1／栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ（知識・技術の向上および最新情報の収集を行う）能力を有している。 成績評価方法: 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>学科DP番号／DP内容: 栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験90% 復習・授業中・予習課題への取り組み10%</p> <p>[教科書（ISBN）] 書籍名: 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I . 解剖生理学 著者名: 福島光夫 出版社名: 中山書店 ISBN: 9784521742847</p> <p>[参考書（ISBN）] 書籍名: 1から学ぶスポーツ生理学 第3版 著者名: 出版社名: ナップ ISBN: 9784905168706 書籍名: 【改訂新版】新・スポーツ医学 著者名: 藤本繁夫／編 大久保衛／編 岡田邦夫／〔ほか著〕 出版社名: 嵯峨野書院 ISBN: 9784782305973 書籍名: 【令和版】基礎から学ぶ！スポーツ救急医学 著者名: 輿水健治／著 出版社名: ベースボール・マガジン社 ISBN: 9784583112794</p>			

P11100060 [WHB3-002]

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 各種スポーツチーム(野球、バレー、サッカー等)での栄養指導経験を有した教員が担当します。 運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回予復習として2時間程度、栄養学総論の授業を、予習として教科書を2時間程度確認しておく。</p> <p>[授業計画] 1.アスリートの食事摂取の基本 2.スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分 3.食品・栄養素の消化・吸収の過程 4.トレーニングとエネルギー消費量 (食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成、生活習慣病の予防のための栄養と運動) 5.運動強度と栄養素の機能・代謝の関係 (糖質・脂質の機能と代謝) 6.からだづくりのための栄養素(たんぱく質の機能と代謝) 7.コンディショニングのための栄養素(ミネラル・ビタミン) 8.アスリートの栄養(試合期の食事) 9.アスリートの栄養(ライフスタイル別の食事のとり方) 10.アスリートの栄養(水分補給と熱中症予防) 11.アスリートの栄養(アスリートに起こりやすい障害と栄養) 12.スポーツとサプリメント・アスリートとしてのコンディショニングの実際(学外特別講師・坂元) 13.まとめ</p>			

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] 試験(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験の答案用紙回収後、解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:スポーツ・健康栄養学 著者名:坂元 美子 出版社名:化学同人 ISBN:9784759817096</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 栄養の基本概念をスポーツの現場にあてはめて考え、体や健康を維持するための栄養と、アスリートが体力を維持し、競技成績を向上させるための栄養の違いを理解する。また、栄養・健康づくりの指導者としての栄養的知識と指導方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 各種スポーツチーム(野球、バレー、サッカー等)での栄養指導経験を有した教員が担当します。 運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上には欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回予復習として2時間程度、栄養学総論の授業を、予習として教科書を2時間程度確認しておく。</p> <p>[授業計画] 1.アスリートの食事摂取の基本 2.スポーツにおける五大栄養素の役割と主要食品の栄養成分 3.食品・栄養素の消化・吸収の過程 4.トレーニングとエネルギー消費量 (食事摂取基準と一日の総エネルギー消費量の構成、生活習慣病の予防のための栄養と運動) 5.運動強度と栄養素の機能・代謝の関係 (糖質・脂質の機能と代謝) 6.からだづくりのための栄養素(たんぱく質の機能と代謝) 7.コンディショニングのための栄養素(ミネラル・ビタミン) 8.アスリートの栄養(試合期の食事) 9.アスリートの栄養(ライフスタイル別の食事のとり方) 10.アスリートの栄養(水分補給と熱中症予防) 11.アスリートの栄養(アスリートに起こりやすい障害と栄養) 12.スポーツとサプリメント・アスリートとしてのコンディショニングの実際(学外特別講師・坂元) 13.まとめ</p>			

科目名	スポーツ栄養学 I	後期	2 単位
サブタイトル	運動と栄養	講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] 試験(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験の答案用紙回収後、解答を解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験(100%)</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: スポーツ・健康栄養学 著者名: 坂元 美子 出版社名: 化学同人 ISBN: 9784759817096</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	スポーツ栄養学Ⅱ		前期	2単位
サブタイトル			講義	
担当者	坂元 美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標] スポーツ栄養学Ⅰで習得した知識をさらに深め、スポーツの現場で即実践できる知識と技術を習得する</p> <p>[授業概要] ジュニアからアスリートのためのスポーツ、高齢者の体力維持のための運動、生活習慣病予防のための運動など、それぞれの目的に応じたスポーツ・運動の現場で適切に栄養指導が行えるよう、スポーツ種目、ライフステージ別の栄養について学ぶ。また、栄養指導に必要な食事調査、栄養計算の方法についても実践的に学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習として4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、栄養学総論を復習しておく</p> <p>[授業計画] 1.授業オリエンテーション スポーツ選手の基本の食事 2.健康の維持・増進、生活習慣病予防のための運動と栄養 3.試合期の食事(グリコーゲンローディング) 4.試合期の食事(試合当日の食事) 5.体作り期の食事(増量) 6.体作り期の食事(減量) 7.女子選手の三主徴 8.スポーツ貧血 9.水分補給・スポーツ選手のサプリメントとドーピング 10.スポーツ現場で求められているスポーツ栄養とは(外部特別講師)(坂元) 11.スポーツ選手の栄養ケアマネジメント(食事調査) 12.スポーツ選手の栄養ケアマネジメント(栄養計算) 13.スポーツ選手の栄養ケアマネジメント(栄養アセスメント・目標設定)</p>				

科目名	スポーツ栄養学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] 授業中のレポート課題(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題提出後、模範解答をフィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/ 健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画力・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート課題</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	スポーツ栄養クッキング		前期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	坂元 美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標] スポーツ選手に適した献立の作成と調理技術を身につける</p> <p>[授業概要] スポーツ栄養学で学んだ知識を献立作成に取り入れ、作成した献立を調理する。スポーツの現場では、食事の摂取や、食材の調達に難しい場合もあり、様々な状況でも調理ができるようなスキルを身につけ、選手が必要な栄養素を摂取できるような献立を考える。さらに、アスリートの給食現場で食事の提供を実践する。 専門演習と卒業論文で坂元研究室を希望する方はこの授業を受けることが望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく</p> <p>[授業計画] 1. 授業オリエンテーション 2. 献立作成① 3. 献立作成② 4. 献立作成③ 5. 献立作成④ 6. プレゼンテーション準備 7. 献立プレゼンテーション(学外特別講師)(坂元) 8. 調理実習① 9. 調理実習② 10. 調理実習③ 11. 学外実習 12. 学外実習 13. まとめ</p>				

科目名	スポーツ栄養クッキング	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート確認、修正後返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート(70%)、実習態度(30%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	スポーツ栄養指導実習		前期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	坂元 美子、奥野 直			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標] スポーツ栄養学・運動生理学で学んだ内容を現場で体験し、スポーツ選手のデータ収集と解析を行う。 そこから得た知識を選手にフィードバックできるよう、指導スキルを身につける。</p> <p>[授業概要] スポーツ栄養指導に必要なデータ収集と解析の方法を学び、学外のスポーツ関連施設及び、スポーツチームでの現場実習を行う。学外実習で収集したデータを授業内で解析し、スポーツ選手への指導方法を学ぶ。 専門演習と卒業論文で奥野・坂元研究室を希望する方はこの授業を必ず受けてください。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回予習復習合わせて4時間程度、運動生理学、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく</p> <p>[授業計画] 1.授業オリエンテーション(奥野) 2.スポーツ栄養指導のデータ収集の方法(奥野) 3.スポーツ栄養指導における課題探究型学習について(奥野) 4.栄養指導プレゼンテーション①(奥野) 5.栄養指導プレゼンテーション②(奥野) 6.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション①(坂元) 7.プレゼンテーションの実践指導(学外特別講師)(奥野・坂元) 8.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション②(坂元) 9.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション③(坂元) 10.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション④(坂元) 11.栄養指導プレゼンテーション・ディスカッション⑤(坂元) 12.栄養指導発表(学外実習) 13.まとめ(坂元)</p>				

科目名	スポーツ栄養指導実習	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	坂元 美子、奥野 直		
<p>[成績評価方法]</p> <p>1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内の練習発表に対してその都度変更必要箇所を伝える。 学外実習の評価については実習先の担当指導者からの評価内容を担当者の負担にならないように配慮して学生にフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 1. データ収集と解析の内容(30%) 2. 結果の発表及びレポートの作成(30%) 3. プレゼンテーションの内容(40%)</p>			

科目名	スポーツ栄養指導論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	坂元 美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>1.スポーツ選手を対象とした栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を習得する 2.スポーツ選手の状況に応じ、栄養カウンセリングを実践する能力を身に着ける</p> <p>[授業概要]</p> <p>スポーツ選手への栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりスポーツ選手の競技力向上につなげるもので、健康の保持増進や各種疾病予防のための栄養指導と同じ流れで行われます。この講義では、実際にスポーツ選手への栄養指導を行っている教員が、エビデンスに基づく基準に照らして、選手個人に適した効果的な栄養指導の方法が身につくよう講義を進めます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度、栄養学総論、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習してください</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ選手の栄養ケアマネジメント 2. 栄養教育の方法(集団指導と個人指導) 3. 栄養アセスメントの種類と方法 4. 食事調査 5. 栄養ケア計画 6. 栄養教育の展開(スポーツ選手の体づくり) 7. 栄養教育の展開(試合期の栄養摂取) 8. 栄養教育の展開(スポーツ障害予防) 9. 栄養教育プレゼンテーション(スポーツ選手の体づくり) 10. 栄養教育プレゼンテーション(試合期の栄養摂取) 11. 栄養教育プレゼンテーション(スポーツ障害予防) 12. 栄養教育の展開(個人指導) 13. まとめ 				

科目名	スポーツ栄養指導論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] プレゼンテーションの内容(70%)、授業内容に対するレポート30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内のプレゼンテーションに対してその都度改善点を伝えます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を習得している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	スポーツ栄養指導論		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	坂元 美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>1.スポーツ選手を対象とした栄養カウンセリングやティーチングの技術、栄養アセスメント手法を習得する 2.スポーツ選手の状況に応じ、栄養カウンセリングを実践する能力を身に着ける</p> <p>[授業概要]</p> <p>スポーツ選手への栄養教育・指導は被指導者の行動変容を促し、その実行によりスポーツ選手の競技力向上につなげるもので、健康の保持増進や各種疾病予防のための栄養指導と同じ流れで行われます。この講義では、実際にスポーツ選手への栄養指導を行っている教員が、エビデンスに基づく基準に照らして、選手個人に適した効果的な栄養指導の方法が身につくよう講義を進めます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習合わせて4時間程度、栄養学総論、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習してください</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ選手の栄養ケアマネジメント 2. 栄養教育の方法(集団指導と個人指導) 3. 栄養アセスメントの種類と方法 4. 食事調査 5. 栄養ケア計画 6. 栄養教育の展開(スポーツ選手の体づくり) 7. 栄養教育の展開(試合期の栄養摂取) 8. 栄養教育の展開(スポーツ障害予防) 9. 栄養教育プレゼンテーション(スポーツ選手の体づくり) 10. 栄養教育プレゼンテーション(試合期の栄養摂取) 11. 栄養教育プレゼンテーション(スポーツ障害予防) 12. 栄養教育の展開(個人指導) 13. まとめ 				

科目名	スポーツ栄養指導論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] プレゼンテーションの内容(70%)、授業内容に対するレポート30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内のプレゼンテーションに対してその都度改善点を伝えます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を習得している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: プレゼンテーション、レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	スポーツ経営学		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	大沼 勇人			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] スポーツ経営の仕組みを理解するとともに、スポーツサービスを企画したり計画したりできる技能の養成を目指す。</p> <p>[授業概要] スポーツ経営学とは、「スポーツ経済の運営」「スポーツ組織の運営」「スポーツの運営」「スポーツのマネジメント」をはじめとした、スポーツの価値の運営を扱う学問です。スポーツの社会的発展過程において、スポーツをめぐる経営現象やマネジメント現象を理論化しようと取り組みがなされていますが、その考え方も多様化しています。本講義では、そのスポーツ経営について蓄積された基礎的な知見を学習します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 復習合わせて2時間程度取り組むこと 予習:各回授業終了時に提示するテーマについて調べてくること 復習:講義内容を振り返り、まとめること</p> <p>[授業計画] 第1回 スポーツ経営学とは 第2回 スポーツ組織の経営戦略 第3回 スポーツマーケティング 第4回 スポーツ組織論(組織構造) 第5回 スポーツ組織論(モチベーション) 第6回 スポーツ経営におけるリーダーシップ 第7回 スポーツ経営におけるキャリア・マネジメント 第8回 スポーツ経営における国際化(国際経営) 第9回 スポーツ経営における多角化 第10回 スポーツ経営における企業家精神とイノベーション 第11回 スポーツNPOとスポーツイベントのマネジメント 第12回 プロ野球とJリーグのマネジメント 第13回 まとめ(スポーツ経営学の概説)</p>				

科目名	スポーツ経営学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 各回課題テストおよびレポート(65%)、試験(35%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各回課題は授業内でフィードバックします。 ・レポートは添削後に返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題解決に向けた方策に対する判断力を有している。 成績評価方法: レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 各授業内課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	スポーツマネジメント論	後期	2 単位
サブタイトル	スポーツとマネージメント(経営)	講義	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] スポーツマネジメントの仕組みを理解するとともに、さまざまな視点からのスポーツに関わる管理できる技能の養成を目指す。</p> <p>[授業概要] スポーツマネジメントは、「経営」「サービス」「チームマネジメント」といった意味合いで使われ、それらは広義的にはスポーツにおける「管理」を指しています。スポーツマネジメントに関する基礎的な知見を学習します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 復習合わせて2時間程度取り組むこと 予習:各回授業終了時に提示するテーマについて調べてくること 復習:講義内容を振り返り、まとめること</p> <p>[授業計画] 第1回 学校体育・スポーツのマネジメント 第2回 地域スポーツのマネジメント 第3回 商業(民間営利)スポーツ施設のマネジメント 第4回 スポーツイベントのマネジメント 第5回 プロスポーツのマネジメント 第6回 メディアスポーツのマネジメント 第7回 子どもスポーツのマネジメント 第8回 健康スポーツのマネジメント 第9回 障がい者スポーツのマネジメント 第10回 スポーツ法制度とスポーツマネジメント 第11回 スポーツ団体のマネジメント 第12回 スポーツマネジメントと倫理・社会的責任 第13回 まとめ(スポーツマネジメントの概説)</p>			

科目名	スポーツマネジメント論	後期	2 単位
サブタイトル	スポーツとマネージメント(経営)	講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 各授業内課題およびレポート(65%)、試験(35%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各授業内課題は授業後にフィードバックします。 ・レポートは添削後に返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 各授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート、試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応(疾患を含む)に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。</p> <p>[授業概要] ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか?という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[授業計画] 1. 栄養素の消化と吸収 2. タンパク質1;構造と働き 3. タンパク質2;代謝 4. 糖質1;構造と働き 5. 糖質2;代謝 6. 脂質1;構造と働き 7. 脂質2;代謝 8. 酵素の働き 9. 酵素の速度論 10. 生体の恒常性とエネルギー代謝 11. 免疫と生体防御 12. ホルモン 13. 1-12の復習 14. まとめ</p>			

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:コンパクト生化学 改訂第4版 著者名:大久保 岩男 編集 出版社名:南江堂 ISBN:9784524259465</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:好きになる生化学 著者名:田中 越郎 出版社名:講談社サイエンティフィック ISBN:9784061541573</p>			

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 脂質・糖質・タンパク質の機能、構造、代謝について理解でき、生体内で引き起こされる反応(疾患を含む)に関して、生化学的な根拠に基づいて説明できる事を目標とする。</p> <p>[授業概要] ヒトが日常過ごしていく上で、必ず食事を取らなければならない。その食べた食事が体内でどのように変化し、どのような役割を演じ、そして最終的にどのように排泄されていくのか?という内容を化学的に説明する学問が生化学である。特に、医学・薬学・栄養学を学ぶ上では最も重要な基礎的な学問の一つといっても過言ではない。本講義では、三大栄養素である「脂質・糖質・タンパク質」に焦点をあて、これらの構造と働き、ならびに生体内での代謝について、生化学的に概説する。さらに、疾患と人体生化学的事項との関係も適宜講義の中に取り入れ、応用できる内容も多く織り込んでいく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義前に教科書を熟読して、講義に臨むこと。各回、予習復習合わせて4時間程度すること。</p> <p>[授業計画] 1. 栄養素の消化と吸収 2. タンパク質1;構造と働き 3. タンパク質2;代謝 4. 糖質1;構造と働き 5. 糖質2;代謝 6. 脂質1;構造と働き 7. 脂質2;代謝 8. 酵素の働き 9. 酵素の速度論 10. 生体の恒常性とエネルギー代謝 11. 免疫と生体防御 12. ホルモン 13. 1-12の復習 14. まとめ</p>			

科目名	生化学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)ならびに不定期に行う小テスト(20%) 試験は解答を示し、小テストは解説を行う。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 期末試験や小テストなどはmanabaなどから回答を掲示。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験・小テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:コンパクト生化学 改訂第4版 著者名:大久保 岩男 編集 出版社名:南江堂 ISBN:9784524259465</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:好きになる生化学 著者名:田中 越郎 出版社名:講談社サイエンティフィック ISBN:9784061541573</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>生体の構成成分を知る。 また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。</p> <p>[授業概要]</p> <p>実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う(動かす)ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。 ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像(創造)を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ～5. の実験のガイダンス ビュレット法によるタンパク質の定量 抗酸化活性の測定 遊離脂肪酸の定量 高分子化合物の分離実験 7. ～13. の実験のガイダンス 酵素反応の実験① 酵素反応の実験② 酵素反応の実験③ 酵素反応の実験④ 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験① 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験② 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験③ <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] レポート・試験</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: 臨床分析学のサブノート 第2版 著者名: 安井 裕之 著 吉川 豊 著 出版社名: 京都廣川書店 ISBN: 9784909197337</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>生体の構成成分を知る。 また、酵素学的実験ならびに分子生物学的実験を通じて、タンパク質の性質、定量性についても学ぶ。</p> <p>[授業概要]</p> <p>実験は本質的に楽しいものである。ヒトは手を使う(動かす)ことによって頭脳が発達したということは良く知られている。百聞は一見に如かず。これらのことは正に実験授業の真骨頂を示すものである。 ある目的を持って計画し、自ら手を動かし、目で観察し、感動し、その結果の意義を知識と想像(創造)を持って考察し、文章、図表にまとめて表現する。このことは、少なからず学生諸君にとっては一つの発見なのである。本実験においては、生体構成成分の定性、定量実験を実施し、酵素反応、遺伝子の抽出を体験する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>当日行う実験内容に関して、前日に必ず予習し、プロトコールのポンチ絵を作成してから実験に臨むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ～5. の実験のガイダンス ビュレット法によるタンパク質の定量 抗酸化活性の測定 遊離脂肪酸の定量 高分子化合物の分離実験 7. ～13. の実験のガイダンス 酵素反応の実験① 酵素反応の実験② 酵素反応の実験③ 酵素反応の実験④ 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験① 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験② 細胞(組織)からのDNA分離抽出実験③ <p>* 機器、器具の都合で順番や内容が変わることがあります。</p>			

科目名	生化学実験	前期	1 単位
サブタイトル		実験	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] レポート・試験</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: 臨床分析学のサブノート 第2版 著者名: 安井 裕之 著 吉川 豊 著 出版社名: 京都廣川書店 ISBN: 9784909197337</p>			

科目名	生活習慣病と食生活	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 生活習慣病の病因について理解し、生活習慣病を引き起こす日常生活、特に、食生活をどのように見直せば、生活習慣病を予防できるか、理解し、説明できるようになる。</p> <p>[授業概要] 該当項目について、教科書・参考書などを皆で抄読し、または、動画または映画と一緒に鑑賞し、グループ間でディスカッションしたり、教員に質問したり、教員から質問を受けたりしながら、理解を深めていくという方式で、授業を進めていく予定である。各学生が、理解した内容をまとめて発表する機会などが設けられることがある。また、必要な場合には、教員からの講義の形式で、解説を行うこともある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画] 01. オリエンテーション 三大栄養素の基礎的知識 02. 食べ物の消化と吸収について 03. 肥満と肥満症 ① 04. 肥満と肥満症 ② 05. 耐糖能異常と糖尿病 06. 脂質の基礎 07. 脂質異常症 08. 食中毒は(食)生活習慣病? ① 09. 食中毒は(食)生活習慣病? ② 10. 食中毒は(食)生活習慣病? ③ 11. 骨粗しょう症 くる病・骨軟化症① 12. 骨粗しょう症 くる病・骨軟化症② 13. 総括と試験 (授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、学生の興味によって取り上げる疾患(生活習慣病)が変更される場合があります。)</p> <p>★必要に応じて教科書を指定する場合があります。</p>			

科目名	生活習慣病と食生活	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[成績評価方法] 試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%（履修学生に周知の上、配分を変える場合がある） 再試験は、原則、行わない。 再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法] 授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。 レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする</p> <p>[オフィスアワー（質問等の受付方法）] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP）]</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養2-1-1／小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養2-2／社会人として、自ら考えて行動する能力（思考力・自立心）・周囲と情報を交換し共有する能力（コミュニケーション力・対話力）・問題を適切な方向に解決していく能力（問題解決力・創造性）を身に付けている。 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養3-2／国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>学科DP番号／DP内容：栄養3-3／地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法：試験75% 予習・授業中・復習課題への取り組み、発表25%</p> <p>[教科書（ISBN）]</p> <p>[参考書（ISBN）]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。</p> <p>卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。</p> <p>そして、ゼミの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>運動生理学の基礎と応用知識の習得に努め、最新情報の整理を行う。 論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 課題に対して予習・復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ゼミ活動についてのガイダンス 文献検索の方法、図書館の利用方法 運動生理学の基礎・応用知識の習得①、論文購読① 運動生理学の基礎・応用知識の習得②、論文購読② 運動生理学の基礎・応用知識の習得③、論文購読③ 運動生理学の基礎・応用知識の習得④、論文購読④ 基本的な身体の構造と機能 姿勢の改善、柔軟性やバランス能力、体幹トレーニング 動く身体の作り方 筋力トレーニング 持久性トレーニング エビデンスベースのトレーニングを考える① エビデンスベースのトレーニングを考える② 			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法]</p> <p>1. ゼミへの積極的な授業態度 (20%)</p> <p>2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容 (40%)</p> <p>3. 課題への取り組み (40%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題等については、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-1 / 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。</p> <p>成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力 (思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力 (コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力 (問題解決力・創造性) を身に付けている。</p> <p>成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ (知識・技術の向上および最新情報の収集を行う) 能力を有している。</p> <p>成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢</p> <p>成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力</p> <p>成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力</p> <p>成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] スポーツ選手の食事摂取状況、身体状況などから選手にとっての理想的な食事を考察できるようにする。また、理想的な食事を提供できるようにするためにはどうすればよいかを検討する。主体的に考え、行動できる力を身につける。</p> <p>[授業概要] 文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。 スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度、スポーツ栄養学 I、II を復習しておく</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.文献検索、発表① 3.文献検索、発表② 4.学外実習(スポーツ選手の食事調査) 5.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定) 6.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握) 7.食事調査解析① 8.食事調査解析② 9.体力測定、身体測定解析① 10.体力測定、身体測定解析② 11.選手へのフィードバック① 12.選手へのフィードバック② 13.まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート確認後、内容について解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画力・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、研究テーマに沿った論文検索や、検索した論文内容を他者へ説明する能力を養うことを目的とする。</p> <p>[授業概要] 「給食」をテーマに研究する。演習又は実習を行う。 研究テーマの例は以下の通り。 1. 保育所や幼稚園における食物アレルギー児への給食の栄養量と他の児童への給食の栄養量とに差があるのかについて献立を分析 2. 食物アレルギー児を対象とした給食のおやつについての検討 3. 高齢者福祉施設で提供されている実施献立の栄養量の分析 4. 高齢者福祉施設での行事食についての検討 これらのテーマを例として各自で研究計画を作成し、卒業論文作成の準備を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 特定給食施設における給食運営について復習しておくとともに、これらに関する新聞記事などに関心を持つこと(各回、予習復習合わせて2時間程度程度)</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマの決定 4. 研究計画書作成① 5. 研究計画書作成② 6. 参考文献検索 7. 研究計画書作成① 8. 研究計画書完成② 9. 中間発表会(1) 10. テーマごとの演習又は実習① 11. テーマごとの演習又は実習② 12. 中間発表会(2) 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度70%、レポート20%、中間発表成績10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 個別指導を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度、レポート、中間発表成績</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、レポート、中間発表成績</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート、中間発表成績</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート、中間発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響について学ぶ	演習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響について、基礎的知識を有し、説明できるようになる。 ・卒業論文のテーマを決定するために必要な基礎的知識を修得する。 ・本演習(ゼミ)活動を通して、「情報を収集し分析する力」「情報を整理しまとめる力」「整理しまとめられた情報＝知識を口頭または文章で発表するプレゼンテーション力」を身につけ、習得する。 ・学び方を学び、修得する。 <p>[授業概要]</p> <p>食中毒・消化管感染症を引き起こす微生物のように、ヒトの体に侵入して病気を引き起こす病原微生物もいるが、常在微生物として例えばヒトの消化管を住処にしてヒトの共生し、健康の維持に重要な役割を果たす微生物、さらには積極的に摂取される微生物もいる。本演習では、まず、担当教員がこのテーマに関係して興味深いと感じている事項を紹介する。さらに、感染症治療食という教員のアイデアを紹介する。その上で、教員とともに、これら微生物が食や健康に及ぼす影響ならびに食が微生物・感染症に及ぼす影響について、教科書や文献などを抄読し、情報を収集、分析、整理して、まとめ、発表などする。必要・要望があれば、実習/実験を行い、情報の確認や検討などを行う可能性がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃より研究テーマに関係する専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 自己紹介等によるコミュニケーションの実践 2. 本テーマに関する興味深い事例の紹介(教員より)① 3. 本テーマに関する興味深い事例の紹介(教員より)② 4. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表① 5. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表② 6. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表③ 7. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表④ 8. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑤ 9. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑥ 10. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑦ 11. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑧ 12. 教科書または文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑨ 13. 全体のまとめ・発表 			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響 について学ぶ	演習	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[成績評価方法] プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートに関しては、講義内で、または後ほど、添削などして返却する。 プレゼンテーション、ディスカッションについては、講義内で、または後ほど、アドバイス・コメント・評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

健康・栄養上の問題点を食事調査結果から抽出する手法を学ぶ。地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。

[授業概要]

明治時代の医学者高木兼寛は、和食から洋食に変更する事で当時結核と並んで2大国民病であった脚気の発症が予防できる事を発見しました。この様に、ひとつの食品、食事形態により疾病を予防する方法が明らかになる事もあります。この演習では、世界で起こっている健康問題と、食と栄養に関わる種々の因子との関わりについて疑問を持ち、解決するための手法を身に付ける事を目的とします。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

1, 2回生で学んだ栄養学の基礎を復習するようにしてください。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション、授業の進め方
2. 栄養疫学調査について①文献研究・発表
3. 栄養疫学調査について②文献研究・発表
4. 栄養疫学調査について③研究デザインの概要、倫理的配慮
5. 栄養疫学調査について④食事調査法の概要
6. 栄養疫学調査について⑤サンプリング法
7. 栄養調査に必要なスキル①調査紙の作成(1)
8. 栄養調査に必要なスキル②調査紙の作成(2)ポーションサイズの決定
9. 栄養調査に必要なスキル③身体測定法
10. 栄養調査に必要なスキル④生体試料の分析
11. 栄養調査に必要なスキル⑤データの入力と分析
12. 調査計画立案
13. 調査計画発表(プレゼンテーション)、ディスカッション

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] レポート(10%)、ゼミ中の課題(30%)、プレゼンテーション(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは後日添削して返却します。課題は、ディスカッション後、返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: プレゼンテーション/レポート</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 4回生で行う卒業論文作成のための基礎トレーニング実験、ならびに文献検索の方法を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 研究を行う上では、多くの器具や装置を使用する。それらは使用方法を誤ると、研究データが誤ったものになるだけでなく、大事故につながることもある。これらを正確かつ安全に使用できるように、また、4回生で行う卒業研究をイメージできるように基礎トレーニングを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 研究テーマを考える① 3. 研究テーマを考える② 4. 文献検索の方法① 5. 文献検索の方法② 6. ガラス器具の使い方 7. 検量線の作成方法 8. データの取り扱い方法① 9. データの取り扱い方法② 10. データの取り扱い方法③ 11. 実験報告書の作成方法① 12. 実験報告書の作成方法② 13. まとめ 			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 個別にフィードバックを面談形式で実施する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 4年次の卒業論文作成に向けて研究デザインを考え、ヒトを対象とする調査の方法を学び、自らの力で調査することができる。</p> <p>[授業概要] 年齢・地域が異なる様々なヒトを対象に、身体活動量、身体組成(体脂肪量・筋肉量・骨量)、ヘモグロビン濃度、体力の測定ならびに生活活動記録、食事記録、食物摂取頻度調査票、質問紙などを用いて調査を行い、生活習慣に関わる健康問題について検討する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 研究テーマに関するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集に努めてください。 課題に沿ってレポートを作成し、提出してください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 参考文献の収集方法 3. 研究テーマの検討 4. 研究デザインの検討① 5. 研究デザインの検討② 6. 調査の準備① 7. 調査の準備② 8. 調査の実施① 9. 調査の実施② 10. データの収集と集計① 11. データの収集と集計② 12. データの収集と集計③ 13. データの収集と集計④ 			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] レポート提出状況と内容(80%)、授業態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: プリント配布 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①研究の意義・目的を理解し、主体的に必要な情報収集を行っている。 ②研究の意義・目的を理解し、協働性をもちながら、意欲的に計画・実行に関わっている。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ヒトを対象とした調査系の研究分野において、世の中での課題や疑問に対する研究テーマを各自で定めます。また、研究の進め方を学ぶために、各自の研究テーマに関連した複数の先行研究を熟読して基本的知識を身に付けます。実際の研究活動では、自ら研究計画を立案し、主体的に進めることの重要性や、データの収集や整理・分析では、物事を丁寧に正確に行うことの重要性などを学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。食や健康関連科目の復習を十分にし、得た知識や研究の進行状況等をノートにまとめるようにしてください。各回の予習復習の目安時間は約2時間です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 研究計画① 3. 研究計画② 4. 研究計画③ 5. 研究計画④ 6. 文献発表① 7. 文献発表② 8. 文献発表③ 9. 文献発表④ 10. 文献発表⑤ 11. データ集計① 12. データ集計② 13. データ集計③ 			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] 課題60%、研究への取組(質疑応答含む)40%で評価</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題はゼミ生全員で共有し、ゼミ授業内にフィードバックします</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題、研究への取組</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、研究への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題、研究への取組</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

自らが興味関心があるテーマについて、研究活動における基礎的な調査および分析などの研究に必要なスキルを高める。

[授業概要]

スポーツパフォーマンスにおける「身体運動」に関して、バイオメカニクス・運動生理学・トレーニング科学についての文献調査、基礎的なデータ分析法を学習することより、スポーツパフォーマンスを構成する身体運動について考察します。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

下記について予習・復習を2時間程度行う。

- ・興味のあるテーマに関する専門書や学術論文を読むこと
- ・講義内で取り扱った内容について、まとめること

[授業計画]

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索の方法・論文の読み方
- 第3回 論文抄読および討論(共通)
- 第4回 論文抄読および討論(共通)
- 第5回 プレゼンテーションの方法
- 第6回 論文抄読および発表(個別)
- 第7回 論文抄読および発表(個別)
- 第8回 基礎データ測定
- 第9回 データ分析(基礎統計量)
- 第10回 データ分析(条件間の比較)
- 第11回 データ分析(変数間の関係)
- 第12回 グループディスカッション
- 第13回 まとめ

*進捗状況によって内容を変更する可能性があります。

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 授業態度 (50%)、授業内課題 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-1 / 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力 (思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力 (コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力 (問題解決力・創造性) を身に付けている。 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ (知識・技術の向上および最新情報の収集を行う) 能力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度・授業内課題</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書 (ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

実験の基本操作や論理的思考を習得する。
卒業論文のテーマを決定する。

[授業概要]

興味のある分野の学術論文を読む。そのための論文検索方法や、研究アプローチについてディスカッションを行い、それぞれの研究テーマを決定する。また、各テーマを実施するための基礎知識・技術についてトレーニングを行い、専門演習IIIに備える。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

研究ノートを作成し、実験前には十分な情報収集およびイメージトレーニングをすること。
必要に応じて、教員と議論すること。
各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 文献検索
3. ディスカッション(個別)・文献検索
4. ディスカッション(全体)・文献検索①
5. ディスカッション(全体)・文献検索②
6. ディスカッション(全体)・文献検索③
7. ミーティング
8. 基礎実験体験・練習①
9. 基礎実験体験・練習②
10. データ解析・練習
11. 実験・調査・解析①
12. 実験・調査・解析②
13. まとめ(発表会)

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] プレゼンテーション(50%)、課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 全体での議論、個別指導を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: ゼミ活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	アカデミック・スキルを習得する	演習	
担当者	小島 理永		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

運動による健康教育支援が出来るよう、それぞれの種目に応じた科学的な調査方法ならびに測定方法を検討することができる。

[授業概要]

1. 運動・スポーツに関するテーマを見つけ、テーマに見合った研究方法を検討する。
2. ゼミメンバーの調査方法ならびに実験について、互いに協力できる資質を身に付ける。
3. 図書館、電子ジャーナルより、関連する文献を検索し、自分の言葉でまとめる。
4. 基礎的な統計の学習(自らデータ収集を行い、統計分析ができる)。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

主体的に計画性をもって、勉学に取り組めること。また、研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集に努めること。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 参考文献の収集方法①
4. 研究テーマの検討①
5. 研究テーマの検討②
6. 研究テーマの検討③
7. 研究デザインの検討①
8. 研究デザインの検討②
9. 研究デザインの検討③
10. 調査の準備①
11. 調査の準備②
12. 調査の実施①
13. まとめ

科目名	専門演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	アカデミック・スキルを習得する	演習	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 授業態度 (50%)、課題発表 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業等で説明・解説します。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-1 / 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・課題</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-2 / 社会人として、自ら考えて行動する能力 (思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力 (コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力 (問題解決力・創造性) を身に付けている。 成績評価方法: レポート・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ (知識・技術の向上および最新情報の収集を行う) 能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>ゼミでは、大学生として必要な研究全般についての考え方や調査・測定を行う上での心構え、実施方法などを習得する。研究成果を研究会や学会、学術論文等で発表するためのまとめ方、プレゼンテーション方法、文章の書き方、ディスカッションの能力を習得する。</p> <p>卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。</p> <p>そして、ゼミの活動を通して、「問題を見つけ出す能力」、「課題解決の手順を考える能力」、「達成すべき目標(ゴール)を定める能力」、「情報を収集し、分析する能力」、「成果をまとめて文章および口頭で発表するプレゼンテーション能力」を育成する。そして、到達すべき目標に向かって、「何ができるようになったか」、「何か身についたか」を客観的に評価する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>運動生理学の基礎と応用知識の習得に努め、最新情報の整理を行う。 論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 課題に対して予習・復習を2時間程度行う。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め① 2. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め② 3. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め③ 4. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め④ 5. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑤ 5. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑥ 7. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑦ 8. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑧ 9. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑨ 10. 卒論課題に応じた課題やトレーニング。データ整理と解析、資料・文献集め⑩ 11. 卒論テーマの選定① 12. 卒論テーマの選定② 13. 卒論テーマの選定③ 			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法]</p> <p>1. ゼミへの積極的な授業態度(20%) 2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容(40%) 3. 課題への取り組み(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題等については、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度、資料作成、プレゼンテーション、課題</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] スポーツ選手の食事摂取状況、身体状況などから選手にとっての理想的な食事を考察できるようにする。また、理想的な食事を提供できるようにするためにはどうすればよいかを検討する。主体的に考え、行動できる力を身につける。</p> <p>[授業概要] 文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。 スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱを復習しておく</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.文献検索、発表① 3.文献検索、発表② 4.学外実習(スポーツ選手の食事調査) 5.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定) 6.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握) 7.食事調査解析① 8.食事調査解析② 9.体力測定、身体測定解析① 10.体力測定、身体測定解析② 11.選手へのフィードバック① 12.選手へのフィードバック② 13.まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート確認後、内容について解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画力・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート 発表</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 4回生で履修する卒業論文作成を目標とし、自ら課題を発見し解決する能力を養うことを目的とする。</p> <p>[授業概要] 専門演習Ⅰで立案した研究計画を基に、引き続き演習又は実習を行う。 自らの課題に対して、しかるべき根拠を示すために十分な検証を行う。 期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 特定給食施設における給食の栄養管理について復習し、これについての新聞記事などに関心を持つこと(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 専門演習Ⅰでの経過説明 2. 今後の研究計画の発表会 3. テーマごとの演習又は実習(1) 4. テーマごとの演習又は実習(2) 5. 中間発表会 6. 論文作成準備(1) 7. 論文作成準備(2) 8. 研究内容の見直し 9. 追加演習又は実習(1) 10. 追加演習又は実習(2) 11. 専門演習Ⅰ、Ⅱを通じた最終発表会 12. 次年度、卒業論文のための準備 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 授業態度90%、中間発表・最終発表成績10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 個別指導を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業態度、レポート、中間発表成績</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度、レポート、中間発表成績</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 授業態度、レポート、中間発表成績</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート、中間発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、中間発表</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響 について探究する	演習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響について、その中でも興味のあるテーマを見出す。 ・興味ある課題を選び、その課題について、最新の専門的知識を修得し、説明できるようになる。 ・本演習(ゼミ)活動を通して、「自ら興味ある課題を見つける力」「情報を収集し分析する力」「情報を整理しまとめる力」「整理しまとめられた情報＝知識を口頭または文章で発表するプレゼンテーション力」を身につけ、修得する。 ・発展的な学び方を学び、修得する。 <p>[授業概要]</p> <p>専門演習I(または専門演習IIの前半)で獲得した知識をもとに、微生物の食や健康に及ぼす影響、食の微生物・感染症に及ぼす影響について、興味のある課題を選び、関連する文献などを抄読し、情報を収集、分析、整理して、まとめ、発表などする。必要・要望があれば、実習/実験を行い、情報の確認や検討などを行う可能性がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃より研究テーマに関係する専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定① 2. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定② 3. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定③ 4. 教科書または文献抄読から興味ある課題の選択と今後の方針の決定④ 5. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表① 6. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表② 7. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表③ 8. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表④ 9. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑤ 10. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑥ 11. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑦ 12. 選択した課題に関連する文献抄読 疑問点の抽出・確認・討論 まとめ・発表⑧ 13. 全体のまとめ・発表 			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	微生物の食や健康に及ぼす影響ならびに食の微生物・感染症に及ぼす影響 について探究する	演習	
担当者	斎藤 あつ子		
<p>[成績評価方法] プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートに関しては、講義内で、または後ほど、添削などして返却する。 プレゼンテーション、ディスカッションについては、講義内で、または後ほど、アドバイス・コメント・評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:プレゼンテーションand/orレポート作成70% 授業への積極的参加姿勢とその内容30%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 食事調査結果や実験から抽出した因子を分析する力を身に着ける</p> <p>[授業概要] 1880年代、オランダ人医師クリスティアーン・エイクマンはインドネシアで脚気の原因を調査中、偶然白米で飼われていたニワトリが脚気と同様の症状を示すことを見出しました。それに反し、玄米で飼育したニワトリには脚気の症状が見られない事から、精米時に取り除かれる糠に脚気を予防する成分が含まれる事を明らかにし、その成分の抽出に成功しました。それが、現在ビタミンB1(チアミン)と呼ばれる物質です。この演習では、専門演習Ⅰで学んだ栄養疫学的アプローチにより抽出した健康状態に与える因子を適切な実験により明らかにする手法を学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] これまでの講義で学んだ栄養学の基礎について復習しておくこと。 普段から身近な健康問題と食との関わりについて疑問を持ち、文献などに目を通しておくこと。 各回、2時間程度は予習、復習に費やす事。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、授業の進め方 2. 栄養学研究について①文献検索 3. 栄養学研究について②文献調査・発表 グループ① 4. 栄養学研究について③文献調査・発表 グループ② 5. 栄養学研究について④文献調査・発表・ディスカッション グループ① 6. 栄養学研究について⑤文献調査・発表・ディスカッション グループ② 7. 栄養学研究について⑥研究計画立案 8. 栄養学研究について⑦研究計画立案・発表 9. 栄養学研究について⑧研究計画立案・ディスカッション 10. 栄養学研究について⑨ディスカッション グループ① 11. 栄養学研究について⑩ディスカッション グループ② 12. 研究計画発表会 13. まとめ 今後の進め方について 			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。プレゼンテーションは、ディスカッションは、ルーブリックで評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート/プレゼンテーション</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 専門演習Iで学習したことをスキルアップさせる。</p> <p>[授業概要] 専門演習Iで学んだ内容を基に、実際の研究を遂行する。 研究素材として、ミネラルや食物成分を用い、生活習慣病の予防を目指した基礎的研究を行う。また、生活習慣病とミネラルとの間にどのような関係があるのかを、動物の臓器や血液ならびに種々の装置を利用して解明を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、課題に取り組むこと。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. pHメーターの使い方 3. プレートリーダーの使い方 4. 原子吸光光度計の使い方 5. 骨破断機の使い方 6. 遠心機の使い方 7. 紫外可視吸光光度計の使い方 8. 実験動物の取り扱い法／解剖の方法 9. リパーゼ活性の測定 10. αグルコシダーゼ活性の測定 11. アミラーゼ活性の測定 12. ACE活性の測定 13. まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] レポート レポートは添削して後日返却。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 個別にフィードバックを面談形式で実施する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 専門演習Ⅰに引き続き、ヒトを対象とする調査の方法を学び、自らの力で調査することができる。収集したデータを用いて統計処理ができる。</p> <p>[授業概要] 年齢・地域が異なる様々なヒトを対象に、身体活動量、身体組成(体脂肪量・筋肉量・骨量)、ヘモグロビン濃度、体力の測定ならびに生活活動記録、食事記録、食物摂取頻度調査票、質問紙などを用いて調査を行い、生活習慣に関わる健康問題について検討する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 研究テーマに関するニュース・書籍・論文などに日頃から関心をもち、情報収集に努めてください。 課題に沿ってレポートを作成し、提出してください。</p> <p>各回の授業についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて2時間程度)。</p> <p>[授業計画] 1. 調査の準備① 2. 調査の準備② 3. 調査の実施① 4. 調査の実施② 5. データの収集と集計① 6. データの収集と集計② 7. データの収集と集計③ 8. データの収集と集計④ 9. 問題抽出① 10. 問題抽出② 11. 統計処理① 12. 統計処理② 13. 卒業論文テーマ決定に向けての検討</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] レポート提出状況と内容(80%)、授業態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは添削して後日返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: プリント配布 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①研究の意義・目的を理解し、主体的に必要な情報収集を行っている。 ②研究の意義・目的を理解し、主体性、協働性をもちながら、意欲的に研究を進めている。</p> <p>[授業概要]</p> <p>専門演習Ⅱでは、さらなるデータベース作りを行います。分析を行うには丁寧なデータベース作りが必須です。整ったら、次にデータの統計学的な分析を行います。研究では、何度も分析が必要となることも学びます。分析後は、卒論研究の根幹となる図表の作成に入ります。図表の作成には、正確にわかりやすく作成する根気と丁寧さが求められます。これらのためには研究内容を十分に理解しておく必要があります。文献の読み直しも十分に行いましょう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>何事にも積極的に丁寧に取り組んでください。食や健康関連科目の復習を十分にし、得た知識や研究の進行状況等をノートにまとめるようにしてください。各回の予習復習の目安時間は約2時間です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り① 3. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り② 4. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り③ 5. アンケート調査等のデータ入力、データベース作り④ 6. データ分析とディスカッション① 7. データ分析とディスカッション② 8. データ分析とディスカッション③ 9. データ分析とディスカッション④ 10. 図表作成① 11. 図表作成② 12. 図表作成③ 13. 図表作成④ 			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] 課題60%、ゼミ活動への取組40%(質疑応答を含む)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題は随時添削して返却します。頻繁にやり取りがあります。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 課題、ゼミ活動への取組</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、ゼミ活動への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、ゼミ活動への取組</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 課題、ゼミ活動への取組</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 自らが興味関心があるテーマについて、研究活動における専門的な調査および分析などの研究に必要なスキルを高める。</p> <p>[授業概要] スポーツパフォーマンスにおける「身体運動」に関して、バイオメカニクス・運動生理学・トレーニング科学についての専門的なデータ測定・分析法を学習することより、スポーツパフォーマンスを構成する身体運動について考察します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 下記について予習・復習を2時間程度行う。 ・興味のあるテーマに関する専門書や学術論文を読むこと ・講義内で取り扱った内容について、まとめること</p> <p>[授業計画] 第1回 オリエンテーション 第2回 身体組成の測定と評価①(肢長・周囲長) 第3回 身体組成の測定と評価②(筋厚・皮脂厚) 第4回 筋力測定と評価 第5回 心拍数と血中乳酸濃度の測定と評価 第6回 血中および筋酸素動態の測定と評価 第7回 筋電図の測定と評価 第8回 フィールドテストの測定と評価 第9回 動作解析の測定 第10回 動作解析の分析 第11回 個人課題 調査と分析 第12回 個人課題 発表 第13回 まとめ</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 授業態度(50%)、授業内課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講態度・授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度・授業内課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

専門演習Iで検討した内容をベースに、卒業論文作成に向けてデータを蓄積する。

[授業概要]

専門演習Iで決定したテーマについて、どこまでを明らかにするのか道筋を描き十分な議論を行う。得られた結果について、道筋に逸れることなく多方面から解析・思考出来るよう、全体でのミーティング、トレーニングを行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

研究ノートを作成し、実験前には十分な情報収集およびイメージトレーニングをすること。

ゼミ仲間とも確認・協力・議論すること。必要に応じて、教員と議論すること。

各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. 実験・調査・解析①
2. 実験・調査・解析②
3. 実験・調査・解析③
4. 中間報告発表会
5. 実験・調査・解析④
6. 実験・調査・解析⑤
7. 実験・調査・解析⑥
8. 中間報告発表会
9. 実験・調査・解析⑦
10. 実験・調査・解析⑧
11. 実験・調査・解析⑨
12. 実験・調査・解析⑩
13. まとめ(発表会)

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] プレゼンテーション(50%)、課題(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 都度、議論・指導する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: ゼミ活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: ゼミ活動・課題</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	卒業研究論文の作成にむけて	演習	
担当者	小島 理永		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

- 1.他者に論理立てて、「問題→解決方法→結果→考察」のプロセスを経て課題について、説明または発表することができる。
- 2.他者の発表に対し、批判的思考力をもって質疑応答することができる。
- 3.卒業論文の研究テーマを決定するために必要な専門的知識を習得する。

[授業概要]

研究テーマに関するニュース・論文などに日頃から関心を持ち、情報収集・整理を行う。
論文作成の方法やプレゼンテーションの技術を修得する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

日頃から研究テーマに関する図書や論文を読み、得られた知識をノートに整理すること。
課題に対して予習・復習を2時間程度行う。

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. コーチング学の基礎・応用知識の習得①、論文講読①
3. コーチング学の基礎・応用知識の習得②、論文講読②
4. スポーツ心理学等の基礎・応用知識の習得①、論文講読①
5. スポーツ心理学等の基礎・応用知識の習得②、論文講読②
6. 論文作成の進め方①、テーマづくり
7. 論文作成の進め方②、データ収集、実験方法
8. 論文作成の進め方③、データ分析
9. 論文作成の進め方④、統計解析
10. 論文作成の進め方⑤、考察の作り方
11. プレゼンテーションの方法① 図、表の作り方
12. プレゼンテーションの方法② 話し方、質問の仕方
13. プレゼンテーションの方法③ まとめ

科目名	専門演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	卒業研究論文の作成にむけて	演習	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法]</p> <p>1. 実験参加姿勢(60%) 2. 報告資料作成とプレゼンテーションの内容(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] フィードバックは授業中に都度行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>卒業論文を作成するために必要な基本的なスキルや知識、専門的技能を身につける。特に、運動生理学に関する課題に対しての問題解決能力や論理的思考力、コミュニケーションスキルを習得する。 そして、4年間の集大成として創造性に富んだ卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>各自が設定した研究テーマにしたがって実験や調査を行い、卒業論文を作成する。各ゼミ生は定期的に研究経過を報告し、多くのディスカッションを通して、研究内容を深めるようにする。論文作成と同時に発表形式にもまとめ、適切なプレゼンテーションができるようにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から研究テーマに関する論文や専門書を読み、得られた知識をノートに整理すること。 各課題についての理解度を高めるために5時間程度の時間を確保してください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文作成の進め方とテーマの検討① 2. テーマの検討② 3. 研究計画書の作成 4. 文献資料の収集と整理① 5. 文献資料の収集と整理② 6. 文献資料の収集と整理③ 7. テーマの再検討・修正① 8. テーマの再検討・修正② 9. 実験・調査の実施、データ解析① 10. 実験・調査の実施、データ解析② 11. 実験・調査の実施、データ解析③ 12. 実験・調査の実施、データ解析④ 13. 実験・調査の実施、データ解析⑤ <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 14. 論文作成① 15. 論文作成② 16. 論文作成③ 17. 論文作成④ 18. 論文作成⑤ 19. 論文作成⑥ 20. 論文作成⑦ 21. 論文作成⑧ 22. 論文作成⑨ 23. 論文作成⑩ 24. プレゼンテーションpp作成、発表練習① 25. プレゼンテーションpp作成、発表練習② 26. プレゼンテーションpp作成、発表 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	奥野 直		
<p>[成績評価方法] 学科の卒業論文評価基準(ルーブリック)により評価する(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ルーブリックによる評価内容を解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文評価基準</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文評価基準</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文評価基準</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文評価基準</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文評価基準</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文評価基準</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文評価基準</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 3回生の専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて解析・分析した資料をもとに、文献検索、文章の書き方などを学び、卒業論文を完成させる。研究課題について調べたことをまとめて発表し、プレゼンテーションの方法についても深く学ぶ。</p> <p>[授業概要] 文献検索、食事調査、身体状況調査などから、スポーツ選手にとって理想的な食事を検討する。 スポーツ選手と直接かかわり、食事調査をすることで、食事調査の手法を身につける。スポーツの現場で、選手のトレーニング内容を把握し、必要な栄養量を導き出したうえで、身体状況との関連を考察する</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度、スポーツ栄養学Ⅰ、Ⅱ、スポーツ栄養情報処理演習、スポーツ栄養クッキングを復習しておく</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.論文の書き方 3.卒業論文のテーマ設定 4.文献検索、発表① 5.文献検索、発表② 6.学外実習(スポーツ選手の食事調査①) 7.学外実習(スポーツ選手の食事調査②) 8.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定①) 9.学外実習(スポーツ選手の体力測定、身体測定②) 10.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握①) 11.学外実習(スポーツ選手のトレーニング内容の把握②) 12.食事調査解析① 13.食事調査解析② 14.体力測定、身体測定解析① 15.体力測定、身体測定解析② 16.卒業論文の研究計画① 17.卒業論文の研究計画② 18.卒業論文の中間発表・ディスカッション① 19.卒業論文の中間発表・ディスカッション② 20.卒業論文の中間発表・ディスカッション③ 21.卒業論文の中間発表・ディスカッション④ 22.卒業論文の仕上げ① 23.卒業論文の仕上げ② 24.卒業論文プレゼンテーション準備 25.卒業論文プレゼンテーション 26.まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	坂元 美子		
<p>[成績評価方法] レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート確認後、内容について解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/ 社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/ 栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 論理的思考力/ 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 計画・実行力/ 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート(60%)、発表(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 各自の研究テーマに添った卒業論文作成を目標とする。</p> <p>[授業概要] 専門演習Ⅰ・Ⅱで立案した研究計画を基に十分な検証を行い、論文を作成する。 期間中、数回に亘り発表会を設け、研究経過を第三者に示す経験を積む予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 特定給食施設における栄養管理に常に関心を持ち、新聞記事などから新しい知見を修得するよう心がけること(各回、予習復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 専門演習Ⅱでの経過説明(1) 2. 専門演習Ⅱでの経過説明(2) 3. 研究計画発表会準備 4. 研究計画発表会 5. データ分析演習(1) 6. データ分析演習(2) 7. データの再検証(1) 8. データの再検証(2) 9. データの再検証(3) 10. 調理演習(1) 11. 調理演習(2) 12. 調理演習(3) 13. 研究結果まとめ(1) 14. 研究結果まとめ(2) 15. 研究結果まとめ(3) 16. 中間発表(1) 17. 中間発表(2) 18. 考察の検討(1) 19. 考察の検討(2) 20. 考察の検討(3) 21. 論文完成に向けてまとめ(1) 22. 論文完成に向けてまとめ(2) 23. 論文修正 24. 最終発表会に向けた準備 25. 最終発表会 26. まとめ</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 論文作成過程90%、中間発表・最終発表成績10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 個別指導を行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 論文作成過程</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 論文作成過程、中間発表・最終発表成績</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 論文作成過程</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 中間発表・最終発表成績</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 論文作成過程</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 論文作成過程、中間発表・最終発表成績</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 論文作成過程、中間発表・最終発表成績</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	斎藤 あつ子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で選択したテーマで情報を調査・収集し、解析してまとめ、考察を加えて卒業論文を完成する。 ・文献検索の方法、発表の仕方、論文の書き方が身につく。 ・選択したテーマについて、問題点の発見と解決方法の立案、仮説の設定と証明方法の立案ができるようになる。 ・論理的思考力が身につく。 <p>[授業概要]</p> <p>これまでの専門演習I, IIでの学びを基盤にして、担当教員と相談し、各自でテーマを選択し、選択したテーマについて情報を調査・収集し、解析してまとめ、考察を加えて卒業論文を完成する。必要・要望があれば、発見した問題点を解決につながるまたは仮説の証明につながる実験を行う可能性がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃より研究テーマに関係する専門書や文献を読むなどして、知識を広げ、修得すること。 各回、予習復習を合わせて2時間程度必要とする。 一般社会におけるマナー・ルールをわかまえること。 各回、予習復習を合わせて5時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文のテーマの選定と論文作成の進め方① 2. 卒業論文のテーマの選定と論文作成の進め方② 3. 卒業論文のテーマの選定と論文作成の進め方③ 計画書の作成 4. 資料収集と論文作成① 5. 資料収集と論文作成② 6. 資料収集と論文作成③ 7. 資料収集と論文作成④ 8. 前期中間発表 9. 資料収集と論文作成⑤ 10. 資料収集と論文作成⑥ 11. 資料収集と論文作成⑦ 12. 資料収集と論文作成⑧ 13. 前期まとめ発表 <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 14. 論文作成(個別指導)① 15. 論文作成(個別指導)② 16. 論文作成(個別指導)③ 17. 論文作成(個別指導)④ 18. 論文作成(個別指導)⑤ 19. 後期中間発表 20. 論文作成(個別指導)⑥ 21. 論文作成(個別指導)⑦ 22. 論文作成(個別指導)⑧ 23. 論文作成(個別指導)⑨ 24. 論文作成(個別指導)⑩ 25. 論文作成(個別及び全体指導) 26. 卒業論文最終発表 (論文作成の進み具合によって、発表日などを変更する場合があります。) 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

卒論発表会において、講評を行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。

成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)

学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。

成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 研究に取り組む姿勢、論文作成における積極性、論理的展開、日本語(英語)文章作成能力、論文発表等により総合的に評価する(100%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

自らが設定したスポーツに関する研究テーマについて、仮説設定、デザイン設計、データ測定および分析法といった科学的プロセスを通じて、論理的な思考力と実行力を身に付ける。

[授業概要]

卒業研究は次の内容で構成される。

(1)テーマ設定(2)先行研究の整理(3)研究計画(4)実験(5)データ分析(6)討論(7)論文執筆(8)プレゼンテーション

少人数によるゼミ及び個別指導で実施し、各学生が自ら設定した研究テーマに即した研究計画を立て、調査等を行い、論文を執筆し完成させる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

以下の通り、予習・復習を2時間程度行う。

- ・自身の研究テーマに関する専門書や学術論文を読むこと
- ・自身のデータの分析などを行なうこと

[授業計画]

授業計画

□

前期

1. オリエンテーション
2. テーマ設定
3. 先行研究の整理①
4. 先行研究の整理②
5. 先行研究の整理③
6. プレゼンテーション①
7. 研究計画①
8. 研究計画?
9. 研究計画?
10. プレゼンテーション?
11. 実験①
12. 実験②
13. 実験③

後期

1. データ分析①
2. データ分析?
3. データ分析?
4. プレゼンテーション?
5. 討論①
6. 討論②
7. 討論
8. 論文執筆①
9. 論文執筆②
10. 論文執筆③
11. 論文執筆④
12. プレゼンテーション④
13. 最終プレゼンテーション

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 研究活動(40%)、卒業論文(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 研究活動に伴う提出物について、添削後に返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 研究活動・卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 研究活動・卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 研究活動・卒業論文</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 研究活動・卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 研究活動・卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 研究活動・卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 研究活動・卒業論文</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 実験や調査で得たデータの現状把握と分析、効率的な情報検索、データの正確な処理、データの解析と考察する能力を養う事を目指す。</p> <p>[授業概要] 1. 栄養調査:フィールドワーク調査を行い、そのデータを基にした栄養教育プログラムの構築を目指す。 2. 栄養学的実験:様々な病態モデル動物(食事誘因、自然発症)を用いて、食餌、運動が実験動物の生理機能に及ぼす影響について検討する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ手法を基に、自らが疑問に思い、研究したいと思う内容について、最新の論文等を検索し、知識を得ておく。各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 科学論文の検索法 3. 科学論文の読み方 4. 抄読会 5. 研究テーマの立案 6. 研究テーマの検討 7. 研究テーマの決定 8. 実験計画の立案 9. 実験手技① 10. 実験手技② 11. 実験手技③ 12. 実験手技④ 13. 実験手技⑤ 14. 予備実験 15. 予備実験結果の解析, 発表 16. 実験計画の再立案 17. 実験① 18. 実験② 19. 実験③ 20. 実験④ 21. データ解析 22. 参考文献の記載方法 23. 研究のまとめ方① 24. 研究のまとめ方② 25. プレゼンテーション方法 26. 卒業論文発表会</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	松本 衣代		
<p>[成績評価方法] 卒業論文内容(50%)、プレゼンテーション(50%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 卒業論文は、添削後返却します。プレゼンテーションはルブリックに基づき評価します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒論/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒論/プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 卒論/プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒論/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒論/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒論/プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒論/プレゼンテーション</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 研究テーマの実験計画を立て、実験を行い、結果を考察して論文を作成する。 講義の空き時間には、研究室で積極的に卒業研究課題に取り組むことが必須である。</p> <p>[授業概要] 専門演習ⅠとⅡでイメージした内容をもとに、研究を進める。 (1)生活習慣病の予防・治療を目的とした、新規ミネラル含有成分や食物成分の探索研究を行う。具体的には、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症をターゲットに、化学試薬、酵素、動物組織を用いたin vitro実験や疾患モデル動物を用いたin vivo実験を行う。 (2)生活習慣病で生体内のミネラルレベルに変化が生じるのか？この疑問を解明するために、種々の疾患モデル動物から臓器や血液を採取し、ミネラル濃度の定量研究を行う。併せて生化学パラメータの測定もを行い、ミネラルの変動と生活習慣病の網羅的解析を行う。 (3)ミネラルを用いた生活習慣病予防や治療の最先端はどのようなものなのか？文献情報を検索してまとめ、新たな生活習慣病予防の方策を提案する事を課題とする。 (4)サプリメントや栄養補助食品として市販されている物品を用い、生体への影響を評価する。 など</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 必ず前日に、翌日に行う研究をイメージし、卒業論文の課題に取り組むこと。</p> <p>[授業計画] 研究テーマに沿って学生自身が実験計画を立て、実験を行い、得られた結果を考察するが、これらを必要に応じて個別指導する。また、これをまとめて期限内に論文を作成できるように指導する。</p> <p>【前期】 1. 研究テーマ関連文献の検索(1) 2. 研究テーマ関連文献の検索(2) 3. 研究テーマ関連文献の検索(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 10. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 11. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8) 12. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9) 13. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(10)</p> <p>【後期】 1. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 2. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 3. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 8. 論文作成(1) 9. 論文作成(2) 10. 論文作成(3) 11. 論文作成(4) 12. 論文作成(5) 13. 卒業論文発表会</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 豊		
<p>[成績評価方法] グループワーク(40%)ならびに卒業論文(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 個別にフィードバックを面談形式で実施する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:グループワーク・論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:グループワーク・論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:グループワーク・論文</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:グループワーク・論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:グループワーク・論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:グループワーク・論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容.:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:グループワーク・論文</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

卒業論文を完成させる。

卒業論文の内容を要約してプレゼンテーションツールを使って規定時間内に発表できる。

[授業概要]

卒業論文の書き方について解説し、テーマに沿った個別指導を行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

卒業論文テーマに関連するニュース・書籍・論文などに日頃から関心を持ち、参考文献等の収集に努めてください。計画に沿って卒業論文を作成し、提出してください。

[授業計画]

前期

1. 卒業論文テーマの決定
2. 参考文献の収集①
3. 参考文献の収集②
4. 参考文献の収集③
5. 論文作成①
6. 論文作成②
7. 論文作成③
8. 論文作成④
9. 論文作成⑤
10. 論文作成⑥
11. 論文作成⑦
12. 論文作成⑧
13. 論文中間提出

後期

1. 個別指導①
2. 個別指導②
3. 個別指導③
4. 個別指導④
5. 個別指導⑤
6. 個別指導⑥
7. 個別指導⑦
8. 個別指導⑧
9. 卒業論文最終提出
10. 卒業論文発表会スライド作成①
11. 卒業論文発表会スライド作成②
12. 卒業論文発表会発表練習①
13. 卒業論文発表会発表練習②

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	糸井 亜弥		
<p>[成績評価方法] 卒業論文提出状況と内容(90%)、卒業論文発表会プレゼンテーション(10%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 卒業論文は添削して後日返却します。 プレゼンテーションのスライドは発表練習時にコメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・卒業論文発表会プレゼンテーション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:プリント配布 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①卒業論文の作成および発表のための準備を計画的に進めることができる。 ②得られた結果について、統一した書式でわかりやすく図表にまとめることができる。 ③得られた結果について、専門知識等を統合して理論的に考察することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>研究活動で得た種々のデータを分析します。結果の考察では、これまで学んだ専門知識等を統合し、文献を交えながら考察します。研究の目的、方法、結果、考察、結論のそれぞれをよく考え、論述できる力を養い、論文の完成をめざします。また、卒業論文発表会のプレゼンテーションでわかりやすく第三者に伝える力を養います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>文献等の情報収集は自己で進め、得た知識や進行状況をノートにまとめる等、自主的、計画的に進めてください。各回の自己学習は4時間程度、終盤はそれ以上が必要です。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文作成: 序論 研究背景① 2. 論文作成: 序論 研究背景② 3. 論文作成: 序論 研究背景③ 4. 論文作成: 序論 研究背景④ 5. 論文作成: 研究方法まで① 6. 論文作成: 研究方法まで② 7. 論文作成: 研究方法まで③ 8. プレゼンテーション図表作成① 9. プレゼンテーション図表作成② 10. プレゼンテーション図表作成③ 11. プレゼンテーション図表作成④ 12. プレゼンテーション原稿作成① 13. プレゼンテーション原稿作成② 14. プレゼンテーション原稿作成③ 15. プレゼンテーション原稿作成、考察④ 16. プレゼンテーション原稿作成、考察⑤ 17. プレゼンテーション原稿作成、考察⑥ 18. 論文作成: 結果① 19. 論文作成: 結果② 20. 論文作成: 結果③ 21. 論文作成: 考察① 22. 論文作成: 考察② 23. 論文作成: 考察③ 24. 論文作成: 考察④ 25. 論文作成: 仕上げ① 26. 論文作成: 仕上げ② 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] 卒業論文作成60%、卒論発表プレゼン資料作成40%。それぞれ成果物だけでなく取り組みも含まれます。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 随時添削して返却します。頻繁にやり取りがあります。Kissシステムを使用し全員が閲覧できるように共有します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文作成</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文作成、卒論発表プレゼン資料作成</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 自身の研究テーマに関連する文献を多数精読し、既知の事柄から新たな仮説を導くことが出来るようになる。また、その仮説を検証するためにはどのような研究を行えば良いか論理的に計画・実行できるようになる。</p> <p>[授業概要] 綿密な計画と入念な議論を行い、立てた仮説を検証するべく研究を実施する。文献、参考書、試薬・機器メーカーへの問い合わせ等、自身でトラブルシューティングを行いながら、目標目指して研究を行い、得られた結果について解析・考察を行う。最終的には卒業論文としてまとめる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 必要な情報を文献より収集し、事前に計画・イメージトレーニングを行っておく。試薬・機器類の扱い方についても事前に修練し、実験当日は滞りなく遂行できるようにする。</p> <p>[授業計画]</p> <p>前期:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマ関連文献の収集・精読① 2. 研究テーマ関連文献の収集・精読②、議論 3. 研究テーマ関連文献の収集・精読③、議論、実験準備 4. 実験準備、議論 5. 実験および議論① 6. 実験および議論② 7. 実験および議論③ 8. 実験および議論④ 9. 実験および議論⑤ 10. 実験および議論⑥ 11. 実験および議論⑦ 12. 実験および議論⑧ 13. 実験および議論⑨ <p>後期:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験および議論、論文作成① 2. 実験および議論、論文作成② 3. 実験および議論、論文作成③ 4. 実験および議論、論文作成④ 5. 実験および議論、論文作成⑤ 6. 実験および議論、論文作成⑥ 7. 実験および議論、論文作成⑦ 8. 実験および議論、論文作成⑧ 9. 実験および議論、論文作成⑨ 10. 実験および議論、論文作成⑩ 11. 実験および議論、論文作成⑪ 12. 論文仕上げ 13. 卒業論文発表会 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	木村 大輔		
<p>[成績評価方法] 研究室内発表(30%)、卒業論文(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題について個別に面談形式で議論し、解決する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 研究活動</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 研究活動</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 研究活動</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 研究活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 研究活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 研究活動</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 研究活動</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 研究テーマの実験計画を立て、実験を行い、結果を考察して論文を作成する。 講義の空き時間には、研究室で積極的に卒業研究課題に取り組むことが必須である。</p> <p>[授業概要] 自分で設定したテーマについて、科学的手法を用いて論文を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 初歩的な統計処理ができる。 各自で設定した課題について先行研究を行い、学問的問いを立てることができる。</p> <p>[授業計画] 研究テーマに沿って学生自身が実験計画を立て、実験を行い、得られた結果を考察するが、これらを必要に応じて個別指導する。また、これをまとめて期限内に論文を作成できるように指導する。</p> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマ関連文献の検索(1) 2. 研究テーマ関連文献の検索(2) 3. 研究テーマ関連文献の検索(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 8. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 9. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 10. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 11. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(8) 12. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(9) 13. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(10) <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(1) 2. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(2) 3. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(3) 4. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(4) 5. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(5) 6. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(6) 7. 卒論テーマに沿った準備、実験および検討(7) 8. 論文作成(1) 9. 論文作成(2) 10. 論文作成(3) 11. 論文作成(4) 12. 論文作成(5) 13. 卒業論文発表会 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 受講態度40%、卒業論文60%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業等で説明・解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: 論文・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文制作</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 調査・実験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	体育原理		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界や日本のスポーツ動向および教育情勢を理解できる。 ・体育の役割および体育理念の変遷について説明できる。 ・体育における技術指導、人格教育について、具体的な指導法を理解できる。 <p>[授業概要]</p> <p>近年、教科の枠を超えて機能する資質・能力の育成を目指した教育への転換が図られている。このような動向を踏まえ、新学習指導要領では、①「知識・技能」の習得、②「思考力・判断力・表現力等」の育成、③「学びに向かう力・人間性等」の涵養が示された。本授業では、体育授業での指導場面を想定しながら、「体育の役割は何か」、「体育は何を教える教科か」などの根源的な問題を解明していく。加えて、技術指導、人格教育など具体的な指導法についても講義する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業前にテキストを必ず読んでください。予習・復習に4時間程度必要とします。</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回:ガイダンス:体育原理で何を学ぶのか 第2回:体育の理念はどのように変わってきたのか 第3回:体育とスポーツは何が違うのか 第4回:体育における人間形成、フェアプレイ 第5回:体育で競争をどのように位置づけるか 第6回:体育と指導者——体育教師とコーチ、何が違うのか 第7回:運動部活動の意義と課題 第8回:スポーツとグローバル化 第9回:スポーツと環境問題 第10回:スポーツとメディア 第11回:スポーツとオリンピック、ドーピング 第12回:スポーツとジェンダー 第13回:まとめ</p> <p>* 受講生の理解度に応じて授業内容の順番を変更する場合がある。</p>				

科目名	体育原理	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 受講態度(50%)、課題提出(10%)、筆記試験(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業等で説明・解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:【新版】教養としての体育原理 現代の体育・スポーツを考えるために 著者名:友添秀則/編著 岡出美則/編著 出版社名:大修館書店 ISBN:9784469267976</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	体育心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 体育・スポーツ心理学における理論をもとに、体育・スポーツ指導場面においてやる気を引き出す動機付けのしかた、学習効果を高める助言のしかた、有能感を高める指導ができることを目指す。</p> <p>[授業概要] 体育・スポーツならびに健康づくりにおける心理学的知見を学習する。講義で学び得た知見をもとに、自らの経験と照らし合わせ省察することで理解度をより高めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] これまでの経験した体育・スポーツ場面を振り返り、そのエピソードを記録できるようにすること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体育・スポーツ心理学とはどのような学問か 2. 心理的スキル、やる気、動機付け 3. 集中力、自信、自尊感情 4. 学習効果を高める集団マネジメント 5. 技術獲得と運動学習 6. 運動・スポーツに伴う感情変化① 7. 運動・スポーツに伴う感情変化② 8. 運動・スポーツに伴う感情変化③ 9. スポーツ活動とストレス、バーンアウト 10. スポーツとポジティブ心理学 11. 運動・スポーツとメンタルヘルス 12. 運動・スポーツとライフスキル 13. まとめ <p>* 学習者の理解度等によって内容順を変更することがあります。</p>			

科目名	体育心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 授業態度・プレゼンテーション(50%)、課題・筆記試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内に連絡します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: グループワーク</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 小テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: これからの体育・スポーツ心理学 著者名: 國部 雅大 出版社名: 講談社サイエンティフィク ISBN: 9784065311691</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	調理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

食品を適切に調理することで、人々の健康に寄与することが出来ることを理解する。
調理器具と調理機器の扱いを正しく理解する。
食品の特性を正しく理解し、どのような調理法に適しているかを理解する。

[授業概要]

食品の特性、調理法の特徴を正しく理解し、適切に調理を行うための基礎知識を学ぶ。
調理学実習や給食管理実習、応用栄養学実習など、本科目の基礎知識によって人々の健康に貢献できる栄養士養成を目指す。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

●予習

化学の基礎知識、高等学校での家庭科学習を再確認する。
授業計画に基づき、次回授業の範囲を教科書により予習しておく。

●復習

各回授業の復習を行う。
この確認のため、課題や試験を行う。
(予習、復習を合わせて約4時間)

[授業計画]

- 1.調理の意義
- 2.食品成分表の活用
- 3.食品成分表を活用した演習
- 4.食物のおいしさ
- 5.調理操作と調理機器
- 6.前半のまとめ、献立作成の説明
- 7.食品の成分と調理①
- 8.食品の成分と調理②
- 9.食品の成分と調理③
- 10.食品の成分と調理④(日本冷凍食品協会:外部講師講義)
- 11.調理と安全、官能評価
- 12.食事計画と献立作成①
- 13.食事計画と献立作成②、後半まとめ

科目名	調理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 誓子		
<p>[成績評価方法] 試験60% 課題30% 受講態度10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題:クラス全体への総評を行った後に返却</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/食の安全と人の健康に関わる基礎的・専門的知識や、食の安全や機能性に関わる生物学的・化学的な分析技術を修得している。 成績評価方法:試験、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題を考察する思考力を有している。 成績評価方法:試験、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法:試験、課題、受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度、課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:試験、課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:食べ物と健康－調理学－ 著者名:渋川祥子/編著 今井悦子/著 杉山久仁子/著 大石恭子/著 出版社名:同文書院 ISBN:9784810313598 書籍名:日本食品成分表2025八訂栄養計算ソフト・電子版付 著者名:医歯薬出版 出版社名:医歯薬出版 ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	トレーニング実践演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	小島 理永、坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムトレーニングをはじめとするフィットネスおよび食生活の栄養のあり方について、実践を通して学ぶ。 ・パフォーマンスにむけてトレーニングを行い、本番で最大限に発揮できるコンディショニング方法を学ぶ。 <p>[授業概要]</p> <p>それぞれの専門分野における体力づくりに応じた長い期間のトレーニングと食事管理を両立させるために栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃からの健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度 参考URL 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) https://www.ajdf.jp/</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リズムトレーニング、ダンスパフォーマンスについて C409予定 2. 筋力・柔軟性向上にむけたトレーニングプログラムの作成(奥野直)* 別途連絡 3. 体組成測定および基礎体力調査:栄養指導(坂元美子)* 別途連絡 4. リズムトレーニングの実際①:下半身の動きを中心に(小島理永) 5. リズムトレーニングの実際②:上半身の動きを中心に 個人のモチーフ創作、音楽探し(小島理永) 6. リズムトレーニングの実際③:コンビネーション 集団でのモチーフ創作(小島理永) 7. 作品の組み立て①(小島理永) 8. 作品の組み立て②(小島理永) 9. 作品完成(小島理永) 10-12. 通し稽古(小島理永) 13. 作品発表(小島理永) <p><授業実施について> 第1回～第3回 4月～5月 第4回～第9回 5月～6月 第10回～第13回 6月～7月</p> <p>土曜日等、集中的に実施することがあります。 希望により学外でのイベントで発表することがあります。</p>			

科目名	トレーニング実践演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	小島 理永、坂元 美子		
<p>[成績評価方法] トレーニング記録およびレポート(20%) パフォーマンス評価(60%) トレーニング理論・スポーツ栄養学に関するレポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-3/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツ・運動指導に必要な指導力を修得している。 成績評価方法: グループワーク・プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に興味をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	トレーニング実践演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	小島 理永、坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムトレーニングをはじめとするフィットネスおよび食生活の栄養のあり方について、実践を通して学ぶ。 ・パフォーマンスにむけてトレーニングを行い、本番で最大限に発揮できるコンディショニング方法を学ぶ。 <p>[授業概要]</p> <p>それぞれの専門分野における体力づくりに応じた長い期間のトレーニングと食事管理を両立させるために栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃からの健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度 参考URL 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) https://www.ajdf.jp/</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リズムトレーニング、ダンスパフォーマンスについて C409予定 2. 筋力・柔軟性向上にむけたトレーニングプログラムの作成(奥野直)* 別途連絡 3. 体組成測定および基礎体力調査:栄養指導(坂元美子)* 別途連絡 4. リズムトレーニングの実際①:下半身の動きを中心に(小島理永) 5. リズムトレーニングの実際②:上半身の動きを中心に 個人のモチーフ創作、音楽探し(小島理永) 6. リズムトレーニングの実際③:コンビネーション 集団でのモチーフ創作(小島理永) 7. 作品の組み立て①(小島理永) 8. 作品の組み立て②(小島理永) 9. 作品完成(小島理永) 10-12. 通し稽古(小島理永) 13. 作品発表(小島理永) <p><授業実施について> 第1回～第3回 4月～5月 第4回～第9回 5月～6月 第10回～第13回 6月～7月</p> <p>土曜日等、集中的に実施することがあります。 希望により学外でのイベントで発表することがあります。</p>			

科目名	トレーニング実践演習 I	前期	1 単位
サブタイトル	基礎トレーニング	演習	
担当者	小島 理永、坂元 美子		

[成績評価方法]
 トレーニング記録およびレポート(20%)
 パフォーマンス評価(60%)
 トレーニング理論・スポーツ栄養学に関するレポート(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
 レポートは、後日添削して返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。
 成績評価方法:

学科DP番号/DP内容: 栄養1-3/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツ・運動指導に必要な指導力を修得している。
 成績評価方法:

学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心をもち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。
 成績評価方法:

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
 成績評価方法:

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
 成績評価方法:

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	エンデュランス・ランニング	演習	
担当者	大沼 勇人、坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方を研究し、その効果をまとめ、エンデュランス・ランニングを実践する。 ・トレーニング実践演習Ⅰで身につけた能力を、本講義においても最大限に発揮する方法を理解する。 <p>[授業概要]</p> <p>スポーツ栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を通じて、それぞれの専門分野における長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方について学び、長距離走の実践を行なう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃からの健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長距離走に向けた体力とは:生理的見地から/ 持久力・筋力とトレーニングプログラム作成(奥野直) 2. 基礎体力及び体組成測定、栄養指導(坂元美子) 3. 長距離走におけるパフォーマンス決定要因(大沼勇人) 4. パフォーマンス測定:タイムトライアル(大沼勇人) 5. トレーニング実践Ⅰ:ロングスロージョグ(大沼勇人) 6. トレーニング実践Ⅱ:ビルドアップ走(大沼勇人) 7. トレーニング実践Ⅲ:ペース走(大沼勇人) 8. トレーニング実践Ⅳ:インターバル走(大沼勇人) 9. トレーニング実践Ⅴ:シティラン(大沼勇人) 10. トレーニング実践Ⅵ:ロングペース走(大沼勇人) 11. ロードレース大会参加(大沼勇人) 12. ロードレース大会参加(大沼勇人) 13. 駅伝大会参加(大沼勇人) <p>2025年度 開講予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2回 9月27日(土) 3・4回 10月5日(日) 5・6回 10月12日(日) 7・8回 10月19日(日) 9回 10月26日(日) 10回 11月2日(日) 11・12回 11月16日(日) 13回 12月7日(日)* 予定 <p>外部大会スケジュール次第によって変更の可能性があります。 連絡についてはmanabaで確認すること。 4回目以降は学外で実施予定です。</p>			

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	エンデュランス・ランニング	演習	
担当者	大沼 勇人、坂元 美子		

[成績評価方法]

- ・技能(20%)
- ・トレーニングおよびコンディションに関するモニター課題(60%)
- ・レポート:トレーニング理論、スポーツ栄養学理論(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポートは、後日添削して返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。
成績評価方法:レポート

学科DP番号/DP内容:栄養2-3/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題解決に向けて周囲の理解や協力が得られるような表現力を有している。
成績評価方法:モニター課題

学科DP番号/DP内容:栄養2-4/アスリートにまつわる諸課題を見つけ、栄養学やスポーツ科学をもとに解決策を見出すことで、スポーツ・運動分野において貢献しようとしている。
成績評価方法:レポート

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。
成績評価方法:技能・モニター課題

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:モニター課題・技能

[教科書(ISBN)]

書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし

[参考書(ISBN)]

書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	エンデュランス・ランニング	演習	
担当者	大沼 勇人、坂元 美子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方を研究し、その効果をまとめ、エンデュランス・ランニングを実践する。 ・トレーニング実践演習Ⅰで身につけた能力を、本講義においても最大限に発揮する方法を理解する。 <p>[授業概要]</p> <p>スポーツ栄養学・スポーツ医学・生理学を中心にオムニバス講義を通じて、それぞれの専門分野における長期間のトレーニングと食生活の栄養のあり方について学び、長距離走の実践を行なう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃からの健康状態を良好に保つ 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長距離走に向けた体力とは:生理的見地から/ 持久力・筋力とトレーニングプログラム作成(奥野直) 2. 基礎体力及び体組成測定、栄養指導(坂元美子) 3. 長距離走におけるパフォーマンス決定要因(大沼勇人) 4. パフォーマンス測定:タイムトライアル(大沼勇人) 5. トレーニング実践Ⅰ:ロングスロージョグ(大沼勇人) 6. トレーニング実践Ⅱ:ビルドアップ走(大沼勇人) 7. トレーニング実践Ⅲ:ペース走(大沼勇人) 8. トレーニング実践Ⅳ:インターバル走(大沼勇人) 9. トレーニング実践Ⅴ:シティラン(大沼勇人) 10. トレーニング実践Ⅵ:ロングペース走(大沼勇人) 11. ロードレース大会参加(大沼勇人) 12. ロードレース大会参加(大沼勇人) 13. 駅伝大会参加(大沼勇人) <p>2025年度 開講予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2回 9月27日(土) 3・4回 10月5日(日) 5・6回 10月12日(日) 7・8回 10月19日(日) 9回 10月26日(日) 10回 11月2日(日) 11・12回 11月16日(日) 13回 12月7日(日)* 予定 <p>外部大会スケジュール次第によって変更の可能性があります。 連絡についてはmanabaで確認すること。 4回目以降は学外で実施予定です。</p>			

科目名	トレーニング実践演習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル	エンデュランス・ランニング	演習	
担当者	大沼 勇人、坂元 美子		

[成績評価方法]

- ・技能(20%)
- ・トレーニングおよびコンディションに関するモニター課題(60%)
- ・レポート:トレーニング理論、スポーツ栄養学理論(20%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポートは、後日添削して返却します。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養や運動・スポーツを通して、健康の維持や増進に関わることができるようになるために必要な体の仕組みと、病気の成り立ちに関する基礎的・専門的知識を修得している。
成績評価方法:レポート

学科DP番号/DP内容:栄養2-3/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題解決に向けて周囲の理解や協力が得られるような表現力を有している。
成績評価方法:モニター課題

学科DP番号/DP内容:栄養2-4/アスリートにまつわる諸課題を見つけ、栄養学やスポーツ科学をもとに解決策を見出すことで、スポーツ・運動分野において貢献しようとしている。
成績評価方法:レポート

学科DP番号/DP内容:栄養3-1/食や栄養、運動・スポーツの関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ能力を有している。
成績評価方法:技能・モニター課題

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:モニター課題・技能

[教科書(ISBN)]

書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし

[参考書(ISBN)]

書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし

科目名	トレーニング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 中学・高等学校教諭免許状(保健体育)を取得するために必要なとして、学校体育や課外活動等において安全かつ効果的なトレーニング指導の実践に必要な理論と技能を身につけるものである。トレーニングを実施する手順として、運動の構造を理解し、それに基づく目標設定、トレーニング手段、方法、計画、トレーニング実践、そして評価・改善の各理論を理解するとともに、トレーニング内容・方法(運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数)に関するこれまでの知見を理解する。</p> <p>[授業概要] トレーニングにおける生理的応答を整理するとともに、体力向上のためのトレーニング論の実際について学習する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 復習合わせて2時間程度取り組むこと 予習:各回授業終了時に提示するテーマについて調べてくること 復習:講義内容を振り返り、まとめること</p> <p>[授業計画] 1.運動とトレーニングの生体エネルギー論 2.レジスタンス・エクササイズに対する内分泌系応答 3.レジスタンス・エクササイズのバイオメカニクス 4.無酸素性トレーニングプログラムによる身体適応 5.有酸素性トレーニングプログラムによる身体適応 6.年齢差・性差とレジスタンス・エクササイズ 7.ウォームアップとストレッチング 8.レジスタンストレーニングと補助のテクニック 9.プライオメトリックトレーニング 10.スピード、アジリティ、スピード持久力向上のトレーニング 11.有酸素性持久カトレーニング 12.ピリオダイゼーション 13まとめ</p>			

科目名	トレーニング論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 授業内課題(40%)・レポート(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート課題については、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業内課題・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: 授業内課題・レポート</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: なし 出版社名: なし ISBN: なし</p>			

科目名	パソコン操作とスポーツ栄養学のデータ処理の基礎技術	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	浅木森 和夫		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とします。</p> <p>① Windows パソコンのカスタマイズができる</p> <p>② フリーソフトを適切に利用できる</p> <p>③ 健康やスポーツに関するデータをパソコンを使って処理できる</p> <p>④ プログラミングを通してパソコンを利用できる</p> <p>[授業概要]</p> <p>学生の多くはスマートフォンやタブレットの操作にはたけているが、パソコンを道具として創造的な仕事をするには難がある。当該学科は、健康や栄養、運動に関係するデータを科学的に分析することによりさまざまな課題の解決を目指している。授業では、必携としているWindows/パソコンを用いて、パソコンの基礎技術を学ぶことから始めて、フリーソフトを利用したプログラミング、簡単な統計処理、栄養計算などを学ぶ。そして、パソコンを当該学科が目指す創造的な学習に利用できる力を養成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業では、LMS(学習管理システム Moodle)を利用します。テキストや練習問題、宿題などの学習資源はLMS上に公開します。LMSに公開される資料を予習や復習に利用し学習に取り組んでください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業ガイダンス、LMSのコース登録 2.必携パソコンの学内LANへの接続、学内資源の利用 3.Windows/パソコンの基礎(Windows 11) 4.パソコン利用環境の整備(ファイルシステム、ショートカット) 5.ソフトウェアのインストール 6.Excelの復習(データの入力、表のレイアウト) 7.Excel の進んだ利用(アンケートデータ処理) 8.栄養計算の実際 9.統計ソフトR のインストールとプログラミング 10.R を使った簡単な計算 11.Rを使った記述統計 12.Rを使ったデータの可視化 13.学習目標達成度確認・解説 			

科目名	パソコン操作とスポーツ栄養学のデータ処理の基礎技術	後期	1 単位
サブタイトル		演習	
担当者	浅木森 和夫		
<p>[成績評価方法] 成績は、学習への振り返り(20%)、小テスト(10%)、課題(35%)、到達度確認試験(35%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回提出する学習への振り返り、質問や疑問などについては、次の授業のはじめにフィードバックします。小テストや課題については終了後、解答、ポイントをフィードバックします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 栄養2-3/地域社会や世界で生じる食や栄養、運動・スポーツに関連した諸課題に関心を持ち、課題解決に向けて周囲の理解や協力が得られるような表現力を有している。 成績評価方法: グループワーク、課題、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: ディスカッション、課題 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 振り返り、課題 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	病態・疾患学	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常or反転授業+設問解答型+ディスカッションorグループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「ヒトの体に起こる病気の成因・病態および治療・予防」について基礎的知識を身につけることを目標とする。具体的には、主な疾患を列挙し、各疾患の成因・病態、治療・予防法について説明することができるようになる。

[授業概要]

ヒトの体に起こる病気の成因・病態および治療・予防に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組む、講義を聞いて、正解を見つけるなどとする。予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読み、予習学習して講義に臨むものとする。講義中には、適時、質問したり・されたり、ディスカッションしたりする機会が与えられるので、全員参加型で授業を進める。このようにして、学生は、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学習を進める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・基盤となる「健康医学入門」「解剖生理学」の知識を確認しておくこと。
- ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。
- ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。

[授業計画]

01. 消化器系(消化管)の病気 4/8(火)4限
 02. 消化器系(肝臓・胆嚢・膵臓)の病気 4/15(火)4限
 03. 循環器系の病気①心血管障害 4/22(火)4限
 04. 循環器系の病気②脳血管障害 5/13(火)4限
 05. 呼吸器系の病気 5/20(火)4限
 06. 血液の病気 5/27(火)4限
 07. 腎臓・尿路系の病気 6/3(火)4限
 08. 内分泌系の病気 6/10(火)4限
 09. 女性生殖器・男性生殖器の病気 6/17(火)4限
 10. 代謝性疾患 6/24(火)4限
 11. 運動器の病気 7/1(火)4限
 12. 神経系の病気 7/8(火)4限
 13. 免疫系の病気 感染症 補足とまとめ 7/15(火)4限
- (授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)

科目名	病態・疾患学	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。
課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[教科書(ISBN)]

書籍名: 疾病の成り立ち: 臨床医学 著者名: 田中 明 出版社名: 建帛社 ISBN: 9784767907345

[参考書(ISBN)]

書籍名: 人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅢ. 疾病の成り立ち 著者名: 田中 清 出版社名: 中山書店 ISBN: 9784521742861

科目名	病態・疾患学	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>全員参加型=通常or反転授業+設問解答型+ディスカッションorグループワーク</small>	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

栄養・運動を通してヒトの健康に関わり社会に貢献できるようになるために、基盤となる「ヒトの体に起こる病気の成因・病態および治療・予防」について基礎的知識を身につけることを目標とする。具体的には、主な疾患を列挙し、各疾患の成因・病態、治療・予防法について説明することができるようになる。

[授業概要]

ヒトの体に起こる病気の成因・病態および治療・予防に関連する基礎的知識について、医師免許を有する教員が講義を行う。講義の進め方としては、学生は、講義を聴いて、出された設問に取り組む、または、まず出された設問に取り組む、講義を聞いて、正解を見つけるなどとする。予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、まず教科書を読み、予習学習して講義に臨むものとする。講義中には、適時、質問したり、されたり、ディスカッションしたりする機会が与えられるので、全員参加型で授業を進める。このようにして、学生は、各授業コマの重要ポイントを理解しながら、学習を進める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- ・基盤となる「健康医学入門」「解剖生理学」の知識を確認しておくこと。
- ・予め、学習する教科書の範囲などが示されるので、学生は、教科書をよく読んで予習して授業に臨み、出された設問にはしっかりと取り組み、講義をよく聞いて、理解すること。
- ・各回、予習・復習を合わせて4時間程度の学習を必要とする。

[授業計画]

01. 消化器系(消化管)の病気 4/9(水)4限
02. 消化器系(肝臓・胆嚢・膵臓)の病気 4/16(水)4限
03. 循環器系の病気①心血管障害 4/23(水)4限 <5/7(水)4限 休講予定>
04. 循環器系の病気②脳血管障害 5/14(水)4限
05. 呼吸器系の病気 5/21(水)4限
06. 血液の病気 5/28(水)4限
07. 腎臓・尿路系の病気 6/4(水)4限
08. 内分泌系の病気 6/11(水)4限
09. 女性生殖器・男性生殖器の病気 6/18(水)4限
10. 代謝性疾患 6/25(水)4限
11. 運動器の病気 7/2(水)4限
12. 神経系の病気 7/9(水)4限
13. 免疫系の病気 感染症 補足とまとめ 7/16(火)4限
(授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)

科目名	病態・疾患学	前期	2 単位
サブタイトル	疾病の成り立ち	講義	
担当者	斎藤 あつ子		

[成績評価方法]

試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%(履修学生に周知の上、配分を変える場合がある)
再試験を行う場合があるが、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に設問を出した場合には、その授業又は次の授業中に解説する。
課題レポートを課した場合は、レポートは原則返却しないが、本科目のいずれかの授業中に解説などする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 試験70%

授業中の設問などへの取り組み30%

[教科書(ISBN)]

書籍名: 疾病の成り立ち: 臨床医学 著者名: 田中 明 出版社名: 建帛社 ISBN: 9784767907345

[参考書(ISBN)]

書籍名: 人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅢ. 疾病の成り立ち 著者名: 田中 清 出版社名: 中山書店 ISBN: 9784521742861

科目名	保健体育科指導法 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>本科目では体育授業づくりに必要な基本的な理論を理解し、学習成果の見込めるよい体育授業を立案するための教材解釈力を身に付けることをねらいとし、以下をその到達目標として設定する。</p> <p>①体育の目標と各領域の内容構成について、その特性を踏まえて説明できる。</p> <p>②体育理論領域の指導内容を学習指導要領から読み取り、記述できる。</p> <p>③保健体育科の学習評価の方法について、具体例を用いながら説明できる。</p> <p>④目標、学習者の様相に適した指導内容を設定し、学習成果の見込める教材を作成できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>中学・高等学校の保健体育科教員に必要とされる体育授業に関する理論について理解する。特に、学習成果の見込めるよい体育授業の設計に必要な教材解釈力の育成を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習・復習に2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回:オリエンテーション(授業の進め方、評価方法、レディネス調査) 保健体育科の教科としての役割期待</p> <p>第2回:保健体育科の目標と内容(目標・内容の系統性、保健と体育を関連付けた指導)</p> <p>第3回:体育と学習者(プレイ論、子どもの運動欲求と体力)</p> <p>第4回:今日までの体育授業の課題と今後の体育授業の在り方、学習形態と指導スタイル、 教材・教具、単元教材・下位教材の捉え方</p> <p>第5回:体づくり運動の意義と授業構成、指導案(体づくり運動の目標と授業づくりの視点)</p> <p>第6回:器械運動・水泳の特性と授業構成、指導案(アナログ型、スモールステップ)</p> <p>第7回:陸上競技の特性と授業構成、指導案(個人的運動の集団化)</p> <p>第8回:球技(ゴール型、ベースボール型)の特性と授業構成、指導案 (ボール・用具の操作、ボールを持たない時の動き、戦術学習)</p> <p>第9回:球技(ネット型)の特性と授業構成、指導案(連携プレイタイプ・攻守一体タイプの種目特性)</p> <p>第10回:武道・ダンスの特性と授業構成、指導案 (武道・ダンスの本質的な楽しさと安全面の確保の重視)</p> <p>第11回:体育理論の内容と授業構成、指導案作成 (体育理論の意義、学習指導要領から指導内容を読み取る方法、様々な授業スタイル)</p> <p>第12回:保健体育科の学習評価、学習成果の見込める教材づくり、指導案作成(指導内容の明確化・教材化)</p> <p>第13回:体育授業のリフレクションの視点と方法、まとめ</p> <p>* 受講生の理解度により授業計画が変更される場合もある。</p>				

科目名	保健体育科指導法 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 受講態度 (50%)、プレゼンテーション・筆記試験 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業等で説明・解説します。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養1-1 / 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・小テスト</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養2-1-1 / 小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: グループワーク・プレゼンテーション・レポート</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 栄養3-1 / 栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ (知識・技術の向上および最新情報の収集を行う) 能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: 中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 9784827815764 書籍名: 高等学校学習指導要領 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 9784827815689</p> <p>[参考書 (ISBN)] 書籍名: 中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 9784827815764 書籍名: 高等学校学習指導要領 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 9784827815689</p>			

科目名	保健体育科指導法Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	大沼 勇人			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 本科目では保健科教育についての基本的な事項を理解し、学習成果の見込めるよい保健授業を設計・実践・省察するための実践的な指導力を身に付けることをねらいとし、以下をその到達目標として設定する。 ①中学校・高等学校の保健科教育の位置づけ、学習指導要領に示された目標や内容とそれらの系統性について理解し、説明できる。 ②保健の目標・内容に沿った系統性のある授業計画の立て方について理解し、単元計画ならびに単位時間計画に反映させることができる。 ③授業づくりの工夫や評価の方法等について理解し、単元計画ならびに単位時間計画に反映させることができる。</p> <p>[授業概要] 中学・高等学校の保健科教育(中学の保健分野および高等学校の科目「保健」)に関する基本的な事項ならびに保健授業づくりの理論について理解を深めるとともに、保健授業の指導における実践的な教科指導力を身に付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習・復習で2時間程度</p> <p>[授業計画] 第1回:ガイダンス、保健科教育の概要 第2回:保健科の変遷と目標論 第3回:保健科教育で育てる力 第4回:保健科教育の内容論① 第5回:保健科教育の内容論② 第6回:保健科教育の内容論③ 第7回:保健科の教材論と教育方法① 第8回:保健科の教材論と教育方法② 第9回:保健科の教材論と教育方法③ 第10回:保健科の教育評価 第11回:保健の指導計画 第12回:保健の学習指導案②:本時案と教材づくり 第13回:授業内容のまとめ</p> <p>*学生の理解度に応じて、内容を変更することがあります。</p>				

科目名	保健体育科指導法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 授業課題(65%)、試験(35%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業課題については、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-3/国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法:授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法:試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法:授業内課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法:授業内課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養3-3/地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法:授業内課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業内課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業内課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業内課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	保健体育科指導法Ⅲ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	大沼 勇人			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <p>学習成果の見込めるよい保健体育授業を立案するための教材解釈力を身に付けることをねらいとし、以下をその到達目標として設定する。</p> <p>①「よい保健体育授業とは何か」を構造的に理解することができる。 ②理論をもとに実践場面で効果的に授業立案および実践ができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>「よい保健体育授業とは何か」をキーワードとし、講義を中心にアクティブラーニングを取り入れ授業を展開していく。主として保健体育授業実践に直結する体育科教育学・保健科教育学の理論を中心に学び、それらの理論を実践の場面で効果的に発揮できる力(授業の立案、実践)の習得を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習・復習に2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回:オリエンテーション、よい体育保健授業とは 第2回:保健体育の学習指導論①(授業づくり、教材・教具づくり、四大教師行動) 第3回:保健の指導方略と指導技術②(ICTを活用した体育授業) 第4回:単元計画作成および評価のポイント 第5回:指導案作成および評価基準・規準 第6回:本時計画の作成および評価のポイント 第7回:保健の授業づくり①(板書計画) 第8回:保健の授業づくり②(発問の仕方) 第9回:保健の授業づくり③(ICTを活用した教材づくり①) 第10回:保健の授業づくり④(ICTを活用した教材づくり②) 第11回:保健の授業づくり⑤(ICTを活用した教材づくり③) 第12回:保健の授業づくり⑥(本時計画の作成および評価のポイント) 第13回:まとめ</p> <p>* 受講生の人数により授業計画が変更される場合もある。</p>				

科目名	保健体育科指導法Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大沼 勇人		
<p>[成績評価方法] 受講態度(15%)、プレゼンテーション(60%)、課題(25%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート課題については、後日添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・課題</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に興味を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: 受講態度・課題</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講態度・プレゼンテーション・課題</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	保健体育科指導法Ⅳ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	小島 理永			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標]</p> <p>本科目では模擬授業を設計・指導案作成・実践・省察する活動を通し、保健体育教師として求められる実践的指導力を身に付けることを到達目標とする。</p> <p>①学習指導要領に基づく保健体育科の目標と内容および学習者の発達段階を踏まえた授業立案ができる。 ②教師行動として、最低限必要とされる態度、発問、学習者との相互作用行動が模擬授業中に発揮できる。 ③組織的観察法の意義と方法を理解し、客観的に保健体育科授業を省察することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>中学校・高等学校での保健科教育・体育科教育に関する理論(保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容)を理解した上で、保健授業・体育授業の設計、模擬授業の実践、授業省察等の主体的な学習活動を通して、保健体育科教師に求められる実践的な教科指導力の向上を図る。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習・復習に2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回:オリエンテーション、保健体育科指導法Ⅰ～Ⅲの復習、模擬授業のグループ編成決め 第2回:模擬授業の行い方の説明、担当領域の指導内容に関する知識の習得および整理 第3回:単元作成について、単位時間計画(学習指導案)の作成 第4回:学習資料(スライド、学習カードなど)の作成 第5回:体育実技の模擬授業①(体づくり運動(体ほぐしの運動)、) 第6回:体育実技の模擬授業②(陸上競技、水泳(水泳の事故防止に関する心得等) 第7回:体育実技の模擬授業③(球技:ゴール型、ベースボール型) 第8回:体育実技の模擬授業④(球技:ネット型) 第9回:体育実技の模擬授業⑤(器械運動) 第10回:体育実技の模擬授業⑥(ダンス) 第11回:体育実技の模擬授業⑦(武道) 第12回:座学授業の模擬授業(体育原理) 第13回:模擬授業全体の省察、教育実習に向けた課題の抽出、まとめ</p> <p>* 受講生の理解度により授業計画が変更される場合もある。</p>				

科目名	保健体育科指導法Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小島 理永		
<p>[成績評価方法] 受講態度・プレゼンテーション(60%)、課題(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業等で説明・解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: プレゼンテーション・小テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-1/小児から高齢者にわたる国民に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: グループワーク・プレゼンテーション・レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: プレゼンテーション</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度・グループワーク</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 9784827815764 書籍名: 高等学校学習指導要領 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 9784827815689</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: 中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 9784827815764</p>			

科目名	理学療法論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	齋藤 あつ子、川口 浩太郎、坂口 顕、玉木 彰、日高 正巳、永井 宏達、森 明子、松沢 良太、曾田 幸一朗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 理学療法(リハビリテーション)について理解し、様々な疾病や傷害に対する評価方法・アプローチ方法・リスク管理等について修得する。</p> <p>[授業概要] 1～12回の授業は、学外の理学療法士または作業療法士の免許を有する教員に、オムニバス形式で、各教員の専門分野を中心に、教授していただく。1～12回の授業の授業は理学療法全体をバランスよくできる限りカバーしており、本科目を履修することにより、理学療法の全体像が理解できるようになっている。13回目の授業は、本学の医師免許を有する教員が、科目責任者として、授業全体を総括し、試験を行う。 各回の授業では、その回で学んだことのみまとめまたは感想をレポートとして提出することが求められるので、レポート作成を通じて、教授内容の理解を深め、知識の定着が促される。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・解剖生理学・臨床医学概論・スポーツ医学において学んだ事柄の確認や、運動生理学など運動に関する基本的な分野を復習しておくこと。 ・スポーツに関するニュースやトピックスなどの情報収集を行うこと。 ・各回、予習復習を合わせて4時間程度必要とする。</p> <p>[授業計画] 01. 理学療法総論[川口浩太郎先生]4/10 02. 運動器疾患の理学療法[川口浩太郎先生]4/17 03. スポーツ理学療法[川口浩太郎先生]4/24 04. 地域における生涯スポーツと理学療法[坂口顕先生]5/8 05. 物理療法[坂口顕先生]5/15 06. 神経系疾患の理学療法[日高正巳先生]5/22 07. 心疾患の理学療法[松沢良太先生]5/29 08. 呼吸器疾患の理学療法[玉木彰先生]6/5 09. がんの理学療法[曾田幸一郎先生]6/12 10. Women's health[森明子先生]6/19 11. フレイル・サルコペニアの予防理学療法[永井宏達先生]6/26 12. リハビリテーション[学外特別講師山崎せつ子先生・齋藤]7/3 13. まとめと試験[齋藤]7/10 (授業の進み具合や理解度によって、前後にズレが生じたり、順序が入れ替わったり、内容に変更が加わったりする場合があります。)</p>			

科目名	理学療法論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 あつ子、川口 浩太郎、坂口 顕、玉木 彰、日高 正巳、永井 宏達、森 明子、松沢 良太、曾田 幸一朗		
<p>[成績評価方法] レポート内容25% 試験75% 再試験は、原則、行わない。 再試験を行う場合には、原則として、再試験の追試験、追試験の再試験は行わない。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートは原則返却しないが、必要に応じて、全体に対して、授業中に解説などする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/ 栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/ アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-3/ 国際貢献ができる能力を持つ。 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/ 国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-3/ 地域や国際社会における健康づくりや食育およびスポーツの発展に貢献しようとする意欲を常に有している。 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 主体性/ 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 協働性/ 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容_: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート内容25% 試験75%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の主な病態を理解している。 2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。 3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養食事療法を選択することができる。 <p>[授業概要]</p> <p>傷病者の療養に関して必要な疾患・病態別の栄養食事療法を学びます。栄養補給法などの基礎をはじめ、疾患・病態別の学びでは、どのような病気をよく理解し、栄養アセスメントとしてどのように評価するのか、総合的に考えてどのような栄養食事療法が適切であるのかを学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>基礎栄養学や応用栄養学、生理学等の知識も大変重要になります。授業は限られた時間であるため、各回、予習復習を合わせて4時間程度の積極的な自己学習で学びを深めてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学の概念(医療制度ほか) 2. 栄養補給法(経口栄養、非経口栄養) 3. 経口栄養補給法(一般治療食、特別治療食)、経腸栄養補給法 4. 静脈栄養法、栄養アセスメント 5. 代謝・内分泌系疾患(るい瘦、肥満、メタボリック' S、糖尿病、脂質異常症) 6. 代謝・内分泌系疾患(高尿酸血症・痛風) 7. 消化器疾患(胃、炎症性腸疾患) 8. 消化器疾患(肝・胆道系疾患、膵疾患、下痢・便秘) 9. 循環器疾患(高血圧、動脈硬化症、虚血性心疾患、心不全) 10. 腎疾患(慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群) 11. 腎疾患(糖尿病腎症、腎不全、透析療法) 12. 血液疾患、呼吸器疾患、甲状腺疾患、周術期 13. 骨疾患、免疫・アレルギー疾患、摂食・嚥下障害 14. サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイル、先天性代謝疾患 14. 試験 			

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] 試験90%、授業への取組(練習問題など)10%で評価します</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に示す練習問題では、解答と解説を行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)</p> <p>学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/試験、授業への取組(練習問題など) 成績評価方法:</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:臨床栄養学概論 著者名:渡邊 早苗 出版社名:建帛社 ISBN:9784767906911</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の主な病態を理解している。 2. 各疾患の病態に応じた栄養アセスメントができる。 3. 各疾患の栄養アセスメントに基づき、適切な栄養食事療法を選択することができる。 <p>[授業概要]</p> <p>傷病者の療養に関して必要な疾患・病態別の栄養食事療法を学びます。栄養補給法などの基礎をはじめ、疾患・病態別の学びでは、どのような病気をよく理解し、栄養アセスメントとしてどのように評価するのか、総合的に考えてどのような栄養食事療法が適切であるのかを学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>基礎栄養学や応用栄養学、生理学等の知識も大変重要になります。授業は限られた時間であるため、各回、予習復習を合わせて4時間程度の積極的な自己学習で学びを深めてください。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学の概念(医療制度ほか) 2. 栄養補給法(経口栄養、非経口栄養) 3. 経口栄養補給法(一般治療食、特別治療食)、経腸栄養補給法 4. 静脈栄養法、栄養アセスメント 5. 代謝・内分泌系疾患(るい瘦、肥満、メタボリック' S、糖尿病、脂質異常症) 6. 代謝・内分泌系疾患(高尿酸血症・痛風) 7. 消化器疾患(胃、炎症性腸疾患) 8. 消化器疾患(肝・胆道系疾患、膵疾患、下痢・便秘) 9. 循環器疾患(高血圧、動脈硬化症、虚血性心疾患、心不全) 10. 腎疾患(慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群) 11. 腎疾患(糖尿病腎症、腎不全、透析療法) 12. 血液疾患、呼吸器疾患、甲状腺疾患、周術期 13. 骨疾患、免疫・アレルギー疾患、摂食・嚥下障害 14. サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイル、先天性代謝疾患 14. 試験 			

科目名	臨床栄養学概論	前期	2 単位
サブタイトル	疾患と栄養	講義	
担当者	本田 まり		

[成績評価方法]
試験90%、授業への取組(練習問題など)10%で評価します

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業中に示す練習問題では、解答と解説を行います。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。
成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)

学科DP番号/DP内容:栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。
成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)

学科DP番号/DP内容:栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。
成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験、授業への取組(練習問題など)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/試験、授業への取組(練習問題など)
成績評価方法:

[教科書(ISBN)]
書籍名:臨床栄養学概論 著者名:渡邊 早苗 出版社名:建帛社 ISBN:9784767906911

[参考書(ISBN)]

科目名	臨床栄養学実習		後期	1 単位
サブタイトル			実習	
担当者	本田 まり			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <p>①疾患・病態に応じた食事計画(主として献立作成)を、盛付等にも配慮して立案できる。 ②疾患・病態に応じた食事を、限られた時間内に、適切かつ安全に調理することが出来る。 ③調理した結果に基づき、的確な反省・評価ができ、改善策を考えることが出来る。</p> <p>[授業概要]</p> <p>講義で学んだ栄養食事療法の基本を確認し、症例による演習を行います。病態の改善を目的とした専門性の高い献立作成や調理法を学びます。食事は治療だけでなくQOLに大きく影響することをふまえて、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>調理の基礎知識や技術が必要なのは言うまでもなく、臨床栄養学、応用栄養学とその実習など関連科目の復習を十分にしてください。実習前後に自己学習を必要とすることが多数あります。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画1 たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画2 たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画3 たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 調理実習および評価・発表 摂食・嚥下調整食 説明と計画1 摂食・嚥下調整食 説明と計画2 摂食・嚥下調整食 調理実習 摂食・嚥下調整食 評価・発表 食物アレルギー対応食 説明と計画1 食物アレルギー対応食 説明と計画2 食物アレルギー対応食 調理実習 食物アレルギー対応食 評価・発表 エネルギー・塩分コントロール食 演習1 糖尿病食品交換表 エネルギー・塩分コントロール食 演習2 展開食作成など まとめ: 一般食、特別治療食、栄養報告書など 				

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] レポート50%、成果物20%、授業への取組(質疑応答を含む)30% * 成果物は主として作成した献立および料理</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートはチェックして返却します。必要性に応じて口頭で全体にフィードバックします。 作成した献立や料理に対しては、随時確認し、各班または全体に口頭でコメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート、成果物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、成果物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①疾患・病態に応じた食事計画(主として献立作成)を、盛付等にも配慮して立案できる。 ②疾患・病態に応じた食事を、限られた時間内に、適切かつ安全に調理することができる。 ③調理した結果に基づき、的確な反省・評価ができ、改善策を考えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>講義で学んだ栄養食事療法の基本を確認し、症例による演習を行います。病態の改善を目的とした専門性の高い献立作成や調理法を学びます。食事は治療だけでなくQOLに大きく影響することをふまえて、美味しく作業効率も考えた治療食作りができる実践力を養います。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>調理の基礎知識や技術が必要なのは言うまでもなく、臨床栄養学、応用栄養学とその実習など関連科目の復習を十分にしてください。実習前後に自己学習を必要とすることが多数あります。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画1 たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画2 たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 説明と計画3 たんぱく・塩分・カリウムコントロール食 調理実習および評価・発表 摂食・嚥下調整食 説明と計画1 摂食・嚥下調整食 説明と計画2 摂食・嚥下調整食 調理実習 摂食・嚥下調整食 評価・発表 食物アレルギー対応食 説明と計画1 食物アレルギー対応食 説明と計画2 食物アレルギー対応食 調理実習 食物アレルギー対応食 評価・発表 エネルギー・塩分コントロール食 演習1 糖尿病食品交換表 エネルギー・塩分コントロール食 演習2 展開食作成など まとめ: 一般食、特別治療食、栄養報告書など 			

科目名	臨床栄養学実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	本田 まり		
<p>[成績評価方法] レポート50%、成果物20%、授業への取組(質疑応答を含む)30% * 成果物は主として作成した献立および料理</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポートはチェックして返却します。必要性に応じて口頭で全体にフィードバックします。 作成した献立や料理に対しては、随時確認し、各班または全体に口頭でコメントします。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-1/栄養士として、栄養学的知識はもとより、健康やスポーツに必要な食・栄養・運動に関する基礎的・専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養1-2/健康の維持・増進やスポーツにおいて必要な食・栄養・運動に関する指導技術を修得している。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-1-2/アスリートや障害者に対し、栄養・運動指導ができる。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養2-2/社会人として、自ら考えて行動する能力(思考力・自立心)・周囲と情報を交換し共有する能力(コミュニケーション力・対話力)・問題を適切な方向に解決していく能力(問題解決力・創造性)を身に付けている。 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-1/栄養と運動の関わりに常に関心を持ち、社会人として自ら学ぶ(知識・技術の向上および最新情報の収集を行う)能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 栄養3-2/国民の保健・医療・福祉のため、自己の知識・技術・経験をもてる限り提供することができる。 成績評価方法: レポート、成果物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 成果物、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート、成果物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート、授業への取組(質疑応答)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポート、成果物、授業への取組</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			